

# 城山遺跡第82地点

埋蔵文化財発掘調査報告書

2014

埼玉県志木市教育委員会

# 城山遺跡第 82 地点

埋蔵文化財発掘調査報告書

2014

埼玉県志木市教育委員会

## はじめに

志木市教育委員会  
教育長 尾崎 健市

この度、『城山遺跡第 82 地点』の発掘調査報告書が刊行されたことを喜ばしく思います。城山遺跡は、昭和 60（1985）年の第 1 地点の調査から始まり、現在、80 カ所を越える調査を実施してきました。

こうした多くの調査の成果から城山遺跡は、旧石器時代から縄文時代、弥生時代、古墳時代、奈良・平安時代、中世・近世までの幅広い時代にわたる複合遺跡であることが判明しています。特に、遺跡内には、市指定文化財の「城山貝塚」、大石信濃守の居城跡と考えられる「柏の城跡」が存在し、また、日本最古の土器群に位置づけられる「爪形文系土器」の発見もあります。最新では、平成 24 年 3 月に「城山遺跡 128 号住居跡出土の銅印ほか 9 点」及び「城山遺跡 241 号住居跡出土の富壽神寶ほか 2 点」の 2 件が新たに市指定文化財に登録されています。

さて、今回報告する城山遺跡第 82 地点は、分譲住宅建設に伴い発掘調査が実施されました。これにより、古墳時代後期の溝跡 1 本、平安時代の住居跡 2 軒・掘立柱建築遺構 1 棟、中世以降の土坑 67 基・地下室 1 基・井戸跡 7 基・溝跡 1 本・掘立柱建築遺構 1 棟などの遺構そして多くの貴重な遺物が発見されました。

中でも特筆すべき事項として、本地点が「柏の城」の城内に含まれるために今回検出された中世以降の土坑や井戸跡・溝跡などは、おそらく柏の城関連遺構と考えられます。また、古墳時代後期の溝跡については、平面形が直径 15 m ほどの円形状を呈していることから、円形周溝墓あるいは円墳に相当する遺構の可能性があり、本市における古墳時代を考える上で大変重要な発見につながりました。

以上、志木市の歴史にまた新たなる 1 ページが追加されたことは大変喜ばしいことであり、同時に本書が郷土の歴史研究のために広く活用されるよう切に願っております。

最後になりましたが、本書の刊行にあたり、格別のご理解とご協力を頂いた事業主体者、そして深いご理解とご協力を賜りました地元の多くの方々並びに関係者に対し、心から感謝申し上げます。

# 例 言

1. 本書は、埼玉県志木市柏町三丁目2617-1番地所在の城山遺跡第82地点の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、分譲住宅住宅建設予定地における緊急調査として、志木市教育委員会が行った。また、埋蔵文化財保存事業の実施にあたり、発掘作業・整理作業・報告書刊行作業を、共和開発株式会社に支援業務として委託したものである。
3. 発掘作業は、平成26年1月20日より開始し、平成26年5月16日に終了した。整理作業は、平成26年5月19日より共和開発株式会社聖蹟桜ヶ丘研修センターにて行い、平成26年12月19日、本書の刊行をもって終了した。
4. 本書は、尾形則敏・徳留彰紀・大久保聡が監修し、宮下孝優（共和開発株式会社）が編集した。執筆は第1章、第2章第1節を尾形、その他を宮下が行った。
5. 本調査において出土した遺物および写真等の記録類は、志木市立埋蔵文化財保管センターに一括して保管している。
6. 調査体制

## 【志木市教育委員会組織】

調査主体者	志木市教育委員会
教育長	尾崎健市（平成24年7月～）
教育政策部長	菊原龍治（平成25年4月～）
担当課	生涯学習課生涯学習・文化財グループ
生涯学習課長	松井俊之（平成25年4月～）
生涯学習課副課長	伊藤久峰子（平成25年4月～平成26年3月）
〃	桶田修平（平成26年4月～）
生涯学習課主幹	井上茂（平成26年4月～）
生涯学習課主査	尾形則敏（平成21年4月～）
〃	武井香代子（平成24年4月～）
〃	浅見千穂（平成21年4月～）
生涯学習課主任	松永真知子（平成18年4月～）
生涯学習課主事	徳留彰紀（平成22年4月～平成25年3月、平成26年4月～）
〃	矢田佳生（平成22年4月～平成26年3月）
〃	大久保聡（平成25年4月～）
調査担当者	尾形則敏・大久保聡
志木市文化財保護審議会	井上國夫（会長）（平成24年4月～）
〃	高橋長次・高橋豊・深瀬克・上野守嘉（委員）

## 【共和開発株式会社調査部】

調査員 宮下孝優

発掘・整理作業参加者

石村 崇・扇田芳嗣・合田芳正・五味正道・斎藤由美子・高田彩子・高橋広行・

高森裕一・高林均・田澤真・中野高久・中村雅美・中山弘人・羽吹潤一・  
針木康介・松澤匡・室賀明子・本山直子

7. 発掘作業及び整理作業・報告書刊行作業には、以下の諸機関・諸氏のご教示・ご援助を賜った。記して感謝する次第である（敬称略）。

埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課・（財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団・埼玉県立埋蔵文化財センター・朝霞市教育委員会・朝霞市博物館・新座市教育委員会・和光市教育委員会・富士見市教育委員会・富士見市立水子貝塚資料館

五十嵐睦・江原順・加藤秀之・川田壽文・川畑隼人・隈本健介・小出輝雄・  
斉藤純・齋藤欣延・斯波治・渋谷寛子・鈴木一郎・照林敏郎・野沢均・  
早坂廣人・堀善之・前田秀則・松本富雄・柳井章宏・山本典幸・山本龍・  
和田晋治・渡辺邦仁

8. 本報告に係る文化財保護法に基づく各種通知については下記のとおりである。

○周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について（通知）／平成26年4月30日付け 教生文第5-1842号

○埋蔵物の文化財認定について／平成26年8月25日付け 教生文第7-73号

# 凡 例

1. 本報告書で使用した地図は、以下の通りである。  
第1図 1：10,000「志木市全図」アジア航測株式会社調製  
第2図 1：2,500 ゼンリン電子住宅地図 デジタウン「埼玉県志木市」平成15年8月発行  
株式会社ゼンリン
2. 挿図版の縮尺は、各図中に明記した。
3. 遺構挿図版中の水系レベルは、海拔標高を示す。
4. ピット・掘り込み内の数値は、床面もしくは確認面からの深さを示し、単位はcmである。また、同一遺構内にあるピットでも、おそらく後世のピットと思われるものには、数値を省略した。
5. 遺構挿図版中のドットは遺物出土位置を示し、番号は遺物挿図版中の遺物番号と一致する。
6. 挿図版中のスクリーントーンについては、各挿図版内に内容を示した。
7. 遺物一覧中の計測値の単位は、長さがcm、重さはgである。また、( ) は推定値、[ ] は現存値を示している。
8. 本文および遺物一覧中の土器の器種については、「形土器」を省略している。
9. 遺構等の略記号は、以下の通りである。  
H = 古墳時代後期～奈良・平安時代の住居跡      T = 掘立柱建築遺構      D = 土坑  
M = 溝跡      W = 井戸跡      P = ピット      T<sub>r</sub> = トレンチ

# 目 次

はじめに  
例 言／凡 例／目 次／挿図目次／表目次／図版目次

第1章 遺跡の立地と環境	1
第1節 市域の地形と遺跡	1
第2節 遺跡の概要	7
第2章 発掘調査の概要	15
第1節 調査に至る経緯	15
第2節 調査の経過と調査方法	16
第3節 基本層序	17
第3章 検出された遺構と遺物	18
第1節 縄文時代	19
第2節 古墳時代後期～奈良・平安時代	24
第3節 中世以降	33
第4節 遺構外出土遺物	69
第4章 調査のまとめ	74
第1節 縄文時代	74
第2節 古墳時代後期～奈良・平安時代	74
第3節 中世以降	77

引用・参考文献

図版

報告書抄録

## 挿図目次

第 1 図	市域の地形と遺跡分布 (1/20,000)	2
第 2 図	城山遺跡の調査地点 (1/3,000)	8
第 3 図	確認調査時の遺構分布図と調査区設定状況 (1/300)	16
第 4 図	基本層序 (1/600・1/60)	17
第 5 図	遺構分布図 (1/200)	18
第 6 図	縄文時代遺構分布図 (1/200)	19
第 7 図	縄文時代土坑 (1/60)	21
第 8 図	1048 号土坑出土遺物 (1/4)	22
第 9 図	古墳時代後期～奈良・平安時代遺構分布図 (1/200)	24
第 10 図	293 号住居跡 (1/60)	25
第 11 図	293 号住居跡出土遺物 (1/3)	25
第 12 図	294 号住居跡 (1/60)	26
第 13 図	294 号住居跡遺物出土状況 (1/60)	27
第 14 図	294 号住居跡出土遺物 (1/3)	27
第 15 図	294 号住居跡竈 (1/30)	28
第 16 図	10 号掘立柱建築遺構 (1/60)	29
第 17 図	64 号溝跡出土遺物 (1/3)	30
第 18 図	64 号溝跡 (1/60)	31
第 19 図	1004 号土坑 (1/60)	32
第 20 図	1004 号土坑出土遺物 (1/3)	32
第 21 図	中世以降遺構分布図 (1/200)	33
第 22 図	11 号掘立柱建築遺構 (1/60)	34
第 23 図	50 号井戸跡出土遺物 (1/4)	35
第 24 図	52 号井戸跡出土遺物 (1/5)	36
第 25 図	50～56 号井戸跡 (1/60)	37
第 26 図	56 号井戸跡出土遺物 (1/4・1/3)	40
第 27 図	65 号溝跡 (1/100)	41
第 28 図	土坑 A 群 2 類 (1/60)	43
第 29 図	土坑 B 群 2 類 1 (1/60)	45
第 30 図	土坑 B 群 2 類 2 (1/60)	47
第 31 図	1032 号土坑出土遺物 (1/1)	52
第 32 図	土坑 B 群 3 類 1 (1/60)	53
第 33 図	土坑 C 群 1 (1/60)	57
第 34 図	土坑 C 群 2 (1/60)	59
第 35 図	1024 号土坑出土遺物 (1/1)	63

第 36 図	土坑 D 群 (1/60)	66
第 37 図	土坑 E 群 1 類 (1/60)	68
第 38 図	遺構外出土遺物 縄文時代 1 (1/3)	70
第 39 図	遺構外出土遺物 縄文時代 2 (1/2・1/3)	71
第 40 図	遺構外出土遺物 奈良時代～近世 (1/1・1/2・1/3)	73
第 41 図	64 号溝推定復元図 (1/100)	75
第 42 図	柳瀬川流域の古墳分布 (1/20,000)	76
第 42 図	城山遺跡の鋳造関連遺物出土地点 (1/3,000)	77

## 表目次

第 1 表	志木市埋蔵文化財包蔵地一覧	1
第 2 表	城山遺跡発掘調査一覧	9
第 3 表	志木市発掘調査報告書一覧	13
第 4 表	城山遺跡第 82 地点の発掘調査工程表	17
第 5 表	1048 号土坑出土遺物一覧	22
第 6 表	縄文時代ピット一覧	23
第 7 表	293 号住居跡出土遺物一覧	26
第 8 表	294 号住居跡出土遺物一覧	29
第 9 表	64 号溝跡出土遺物一覧	30
第 10 表	1004 号土坑出土遺物一覧	32
第 11 表	50 号井戸跡出土遺物一覧	35
第 12 表	52 号井戸跡出土遺物一覧	36
第 13 表	56 号井戸跡出土遺物一覧	39
第 14 表	土坑一覧 (中世以降)	41
第 15 表	1032 号土坑出土遺物一覧	52
第 16 表	1024 号土坑出土遺物一覧	63
第 17 表	遺構外出土遺物一覧 (縄文時代)	72
第 18 表	遺構外出土遺物一覧 (奈良・平安時代)	73
第 19 表	遺構外出土遺物一覧 (中世以降)	73
第 20 表	柳瀬川流域の古墳一覧	76

## 図版目次

図版 1	1. 1 区全景	2. 2 区全景		
図版 2	1. 1021 号土坑	2. 1022 号土坑	3. 1044 号土坑	4. 1045 号土坑
	5. 1046 号土坑	6. 1047 号土坑	7. 1048 号土坑	

8. 1048 号土坑 遺物出土状態
- 図版 3 1. 293 号住居跡 2. 293 号住居跡 P1 3. 294 号住居跡  
4. 294 号住居跡 カマド 5. 294 号住居跡 P1  
6. 294 号住居跡 遺物出土状態 7. 10 号掘立柱建物跡  
8. 10 号掘立柱建物跡 P8
- 図版 4 1. 10 号掘立柱建物跡 P9 2. 10 号掘立柱建物跡 P10 3. 64 号溝跡 1  
4. 64 号溝跡 2 5. 64 号溝跡 土層断面 6. 1004 号土坑  
7. 1004 号土坑 遺物出土状態 1 8. 1004 号土坑 遺物出土状態 2
- 図版 5 1. 11 号掘立柱建物跡 2. 50 号井戸跡 3. 51 号井戸跡 4. 52 号井戸跡  
5. 52 号井戸跡 遺物出土状態 6. 53 号井戸跡 7. 54 号井戸跡  
8. 55 号井戸跡
- 図版 6 1. 56 号井戸跡 2. 65 号溝跡 3. 980 号土坑 4. 984 号土坑  
5. 981 号土坑 6. 982 号土坑 7. 992 号土坑 8. 993 号土坑
- 図版 7 1. 995 号土坑 2. 1000 号土坑 3. 1002 号土坑 4. 1006 号土坑  
5. 1007 号土坑 6. 1008 号土坑 7. 1013 号土坑 8. 1016 号土坑
- 図版 8 1. 1019 号土坑 2. 1020 号土坑 3. 1025 号土坑 4. 1027 号土坑  
5. 1030・1031 号土坑 6. 1034 号土坑 7. 1038 号土坑 8. 997 号土坑
- 図版 9 1. 1009 号土坑 2. 1023 号土坑 3. 1028 号土坑 4. 1029 号土坑  
5. 1032 号土坑 6. 1033 号土坑 7. 1035 号土坑 8. 1037 号土坑
- 図版 10 1. 1039 号土坑 2. 1042 号土坑 3. 974 号土坑 4. 975 号土坑  
5. 976 号土坑 6. 977 号土坑 7. 978 号土坑 8. 979 号土坑
- 図版 11 1. 983 号土坑 2. 985 号土坑 3. 988 号土坑 4. 989 号土坑  
5. 990 号土坑 6. 991 号土坑 7. 996 号土坑 8. 998 号土坑
- 図版 12 1. 999 号土坑 2. 1001 号土坑 3. 1003 号土坑 4. 1010 号土坑  
5. 1011 号土坑 6. 1014 号土坑 7. 1015 号土坑 8. 1017 号土坑
- 図版 13 1. 1024 号土坑 2. 1026 号土坑 3. 1036 号土坑 4. 1040 号土坑  
5. 1041 号土坑 6. 994 号土坑 7. 1005 号土坑 8. 1012 号土坑
- 図版 14 1. 1018 号土坑 2. 1043 号土坑 3. 987 号土坑 1 4. 987 号土坑 2  
5. 987 号土坑 入口部 6. 987 号土坑 壁面 7. 旧石器時代試掘坑  
8. 作業風景
- 図版 15 1. 1048 号土坑出土遺物 2. 293 号住居跡出土遺物 3. 294 号住居跡出土遺物  
4. 64 号溝跡出土遺物 5. 1004 号土坑出土遺物
- 図版 16 1. 50 号井戸跡出土遺物 2. 52 号井戸跡出土遺物 3. 1032 号土坑出土遺物  
4. 1024 号土坑出土遺物
- 図版 17 1. 56 号井戸跡出土遺物
- 図版 18 1. 遺構外出土遺物 縄文時代 1
- 図版 19 1. 遺構外出土遺物 縄文時代 2
- 図版 20 1. 遺構外出土遺物 奈良時代～近世

# 第1章 遺跡の立地と環境

## 第1節 市域の地形と遺跡

### (1) 地理的環境と遺跡分布

志木市は、埼玉県の南西部に位置し、市域はおおよそ南北 4.71km、東西 4.73km の広がりを持ち、面積は 9.06km<sup>2</sup>、人口約 7 万 3 千人の自然と文化の調和する都市である。

地理的景観を眺めて見ると、市域東部の宗岡地区は、荒川（旧入間川）の形成した沖積低地が拡がり、市域西部の本町・柏町・幸町地区は、古多摩川によって形成された武蔵野台地の上にある。また、市内には東部に荒川、中央に古くは舟運で利用された新河岸川、そして西部から中央に新河岸川と合流する柳瀬川の 3 本の川が流れている。

こうした自然環境の中で、市内遺跡の大部分は、柳瀬川・新河岸川右岸流域の台地縁辺部に帯状に分布している。遺跡は柳瀬川上流から順に、西原大塚遺跡（7）、新邸遺跡（8）、中道遺跡（5）、城山遺跡（3）、中野遺跡（2）、市場裏遺跡（15）、田子山遺跡（10）、富士前遺跡（11）、大原遺跡（16）と名付けられている。また、荒川・新河岸川が形成した沖積低地でも、馬場遺跡（12）、宿遺跡（14）、関根兵庫館跡（13）のように自然堤防上に存在する遺跡も明らかにされつつあり、将来的には新たな遺跡が相次いで発見される可能性がある。なお、現在市内の遺跡総数は、前述した 12 遺跡に塚の山古墳（6）、城山貝塚（9）を加えた 14 遺跡である（第 1 図）。

No	遺跡名	遺跡の規模	地目	遺跡の種類	遺跡の時代	主な遺構	主な遺物
2	中野	63,540 m <sup>2</sup>	畑・宅地	集落跡	旧石器、縄（早～晩）、弥（後）、古（前～後）、平、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、井戸跡、溝跡等	石器、縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器等
3	城山	81,310 m <sup>2</sup>	畑・宅地	城館跡・集落跡	旧石器、縄（草創～晩）、弥（後）、古（前～後）、奈・平、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、土坑墓、地下室、井戸跡、溝跡、柏城跡関連、鑄造関連等	石器、縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、土師質土器、古銭、鑄造関連遺物等
5	中道	52,980 m <sup>2</sup>	畑・宅地	集落跡・墓跡	旧石器、縄（早～後）、弥（後）、古（前～後）、平、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、方形周溝墓、土坑墓、地下式坑、溝跡、道路状遺構等	石器、縄文土器、土師器、須恵器、陶磁器、古銭、人骨等
6	塚の山古墳	800 m <sup>2</sup>	林	古墳?	古墳?	古墳?	なし
7	西原大塚	163,930 m <sup>2</sup>	畑・宅地	集落跡・墓跡	旧石器、縄（前～晩）、弥（後）、古（前～後）、奈・平、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、方形周溝墓、井戸跡、溝跡等	石器、縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、古銭等
8	新邸	20,080 m <sup>2</sup>	畑・宅地	貝塚・集落跡・墓跡	縄（早～中）、古（前～後）、中・近世、近代	貝塚、住居跡、土坑、方形周溝墓、井戸跡、溝跡、段切状遺構、ビット群等	石器、貝、縄文・弥生土器、土師器、陶磁器、古銭等
9	城山貝塚	900 m <sup>2</sup>	林	貝塚	縄（前）	斜面貝塚	石器、縄文土器、貝
10	田子山	74,030 m <sup>2</sup>	畑・宅地	集落跡・墓跡	縄（草創～晩）、弥（後）、古（後）、奈・平、中・近世、近代	住居跡、土坑、方形・円形周溝墓、ローム採掘遺構、溝跡等	縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、炭化種子等
11	富士前	12,000 m <sup>2</sup>	宅地	集落跡	縄文、弥（後）～古（前）、平安、近世以降	住居跡、土坑?、溝跡?	弥生土器、土師器
12	馬場	2,800 m <sup>2</sup>	畑	集落跡	古（前）	住居跡?	土師器
13	関根兵庫館跡	4,900 m <sup>2</sup>	グラウンド	館跡	中世	不明	なし
14	宿	7,700 m <sup>2</sup>	田	館跡	中世	溝跡・井桁状構築物	木・石製品
15	市場裏	13,800 m <sup>2</sup>	宅地	集落跡・墓跡	弥（後）～古（前）、中世以降	住居跡・方形周溝墓・土坑	弥生土器、土師器、土師質土器
16	大原	1,700 m <sup>2</sup>	宅地	不明	近世以降?	溝跡	なし
合計		500,470 m <sup>2</sup>					

第 1 表 志木市埋蔵文化財包蔵地一覧

平成 26 年 8 月 8 日 現在



第1図 市域の地形と遺跡分布 (1/20,000)

平成26年11月1日現在

## (2) 歴史的環境

次に市内の遺跡を時代順に概観してみることにする。

### 1. 旧石器時代

旧石器時代の遺跡は、柳瀬川右岸の中野・城山・中道・西原大塚遺跡で確認されている。

中道遺跡では、昭和62(1987)年の富士見・大原線(現ユリノキ通り)の工事に伴う発掘調査により、立川ローム層のⅣ層上部・Ⅵ層・Ⅶ層で文化層が確認されており、礫群、石器集中地点が検出されている。これにより、黒曜石製のスクレイパーやナイフ形石器、安山岩や凝灰岩の石核や剥片などが発見されている。

西原大塚遺跡では、西原特定土地区画整理事業に伴う発掘調査により、石器集中地点が検出されている。石器集中地点は、平成6(1994)年度には2ヶ所、平成7年(1995)度には1ヶ所が検出され、ナイフ形石器・剥片などが発見されている。

平成11～14(1999～2002)年度にかけて発掘調査が実施された中野遺跡第49地点からも立川ローム層の第Ⅳ層下部から、黒曜石・頁岩の石核・剥片が約60点出土している。

平成13(2001)年に発掘調査が実施された城山遺跡第42地点では、立川ローム層の第Ⅳ層上部と第Ⅶ層の2ヶ所で石器集中地点が確認され、黒曜石・安山岩・チャート・頁岩などの挟入石器・剥片など32点出土している。

また、城山遺跡では、平成13(2001)年に発掘調査が実施された第42地点から、立川ローム層の第Ⅳ層上部と第Ⅶ層の2ヶ所で石器集中地点が検出され、黒曜石・安山岩・チャート・頁岩などの挟入石器・剥片など32点出土している。平成20・21年に発掘調査が実施された第62地点(道路・駐車場部分)でも1ヶ所の石器集中地点が検出され、ナイフ形石器・剥片が出土している。最新では、平成23(2011)年に発掘調査が実施された第71地点では、石器集中地点2ヶ所、礫群9基が検出され、特に礫群については、市内において初の発見例につながった。

### 2. 縄文時代

縄文時代では、西原大塚遺跡を中心に中期後葉の遺跡が集中し、城山貝塚の周辺の城山遺跡からは、前期末葉(諸磯式期)の住居跡や土器がやや多く検出される傾向にある。

ここでは、時代の推移に従って説明することにする。まず、草創期では、平成4(1992)年に発掘調査が実施された城山遺跡第16地点から爪形文系土器1点、平成6(1994)年に発掘調査が実施された城山第21地点から多縄文系土器3点、第22地点から爪形文系土器1点、平成10(1998)年に発掘調査が実施された田子山遺跡第51地点から有茎尖頭器1点出土している。

早期では、遺構の検出例はまだ少ないが、住居跡として、平成18(2007)年に発掘調査が実施された中道遺跡第65地点で検出された早期末葉(条痕文系)の10号住居跡1軒が最古のものと言える。土器としては、田子山遺跡で撚糸文・沈線文・条痕文系土器が出土しているが、御嶽神社を中心とする東側でやや多く出土する傾向がある。最新資料では、平成23年に発掘調査が実施された田子山遺跡第121地点のローム上層の遺物包含層から撚糸文系土器・石器がまとめて出土している。また、城山・中野・田子山遺跡からは、条痕文系土器が炉穴に伴い出土している。

前期では、西原大塚・新邸遺跡で住居跡(黒浜式期)、城山遺跡では住居跡(諸磯式期)が検出されている。そのうち、新邸遺跡のものは貝層をもつ住居跡である。また、平成2年度に市指定文化財に認

定された城山貝塚も縄文海進期にあたるこの頃の時代に形成された斜面貝塚と考えられる。

中期になると遺跡が最も増加する。特に、中期中葉から後葉の勝坂式～加曾利E式期にはその傾向が強くなり、中野・城山・中道・西原大塚・田子山遺跡で住居跡を中心に土坑が検出されている。特に西原大塚遺跡では、現時点で180軒以上の住居跡が環状に配置していることが判明しつつある。中期末葉からは遺跡が減少し、現在のところ西原大塚遺跡から敷石をもつ住居跡が1軒確認されるのみである。

後期では、西原大塚遺跡から堀之内式期の住居跡1軒と加曾利B式期の住居跡1軒、遺物集中地点1ヶ所が検出されている。また、その他の遺構としては、平成6（1994）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第31地点で、土坑1基が検出され、下層から称名寺I式期の土器、上層からII式の特徴をもつ土器が出土している。西原大塚遺跡第54地点でも2基の土坑が検出されている。最新資料では、今年度（平成25年度）に発掘調査が実施された中野遺跡第85地点から、市内初の柄鏡形住居（敷石住居）1軒が検出され、注目される。

晩期では、中野・田子山遺跡から安行ⅢC式・千網式の土器片が少量発見されるにとどまり、以降市内では弥生時代後期まで空白の時代となる。

### 3. 弥生時代～古墳時代前期

弥生時代では、現時点において、前・中期の遺跡は検出されていないが、後期末葉から古墳時代前期と考えられる遺跡が数多く検出されている。中でも、平成6（1994）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第31地点の21号住居跡は後期中葉に比定される可能性があり、その住居跡からは、多数の土器をはじめ、大量の炭化種子（イネ・アワ・ダイズなど）、炭化材が出土し、当時の食糧事情を考える上で重要である。富士前遺跡では、『志木市史』にも掲載されているが、不時の発見に伴い、籠目痕をもつ壺形土器をはじめとした多くの土器が発見されている。

西原大塚遺跡では後期末葉から古墳時代前期にかけての住居跡が590軒以上確認されており、市内最大の集落跡であることが判明している。特に、122号住居跡からは全国的にも稀な「イヌ」を象ったと思われる動物形土製品が出土している。平成24（2012）年に発掘調査が実施された第179地点からは、遺存状態は良好ではないが、市内初の銅釧1点が出土している。

昭和62（1987）年以降、西原大塚・田子山・市場裏遺跡の3遺跡において、方形周溝墓が検出されてきたが、最新では、平成15（2003）年に発掘調査が実施された新邸遺跡第8地点と平成18（2006）年に実施された中道遺跡第65地点でも、それぞれ1基が確認されている。これにより当時の墓域が、集落と単位的なまとまりをもって存在することが明らかになってきたと言えるであろう。

市内で最も多く方形周溝墓が検出されている西原大塚遺跡では、10号方形周溝墓の溝底から一括出土した中に畿内系の庄内式の長脚高坏が出土していることに注目される。また、平成11（1999）年に発掘調査が実施された西原大塚遺跡第45地点では、一辺20mを超える市内最大規模の17号方形周溝墓が発見され、この方形周溝墓の溝からは、珍しい鳥形土製品をはじめ、畿内系の有段口縁壺、吉ヶ谷式系の壺、在地系の壺などと大きく畿内・比企地域・在地の3要素の特徴を示す壺が出土している。こうした地域に関わる被葬者の人物像が浮き彫りにされたことで、当地域の弥生時代後期から古墳時代前期の歴史を紐解く手がかりになったことは重要である。

なお、以上のうち、西原大塚遺跡122号住居跡出土の動物形土製品1点と西原大塚遺跡17号方形

周溝墓出土の鳥形土製品1点・壺形土器4点については、考古資料として、平成24年3月1日付けで、市指定文化財に指定されている。

### 4. 古墳時代中・後期

古墳時代でも前期末葉から中期になると、遺跡が減少する傾向にある。その中で、西原大塚遺跡に隣接する新邸遺跡で検出されている第2地点の1号住居跡と平成15（2003）年に発掘調査が実施された第8地点の2～8号住居跡は、古墳時代前期でも比較的 新しい段階に比定される可能性がある。このことから、新邸遺跡で検出された住居跡は、隣接する西原大塚遺跡から継続して広がった集落跡ではないかと推測される。

中期の遺跡では、中道・城山・中野遺跡から住居跡が発見されている。その中でも、平成7（1995）年に発掘調査が実施された中道遺跡第37地点19号住居跡は、5世紀中葉に比定され、カマドをもつ住居跡としては市内最古のものである。

5世紀末葉になると、遺跡が増加傾向にあり、特に6世紀後半から7世紀後半にかけては、縄文中期を越えるほどの爆発的な増加をみる。こうした集落跡は現在、中道・城山・中野遺跡に比較的古い5世紀代の住居跡が確認されていることから、柏町地区を中心に存在した集落が、6世紀後半以降、周辺地域に拡散するという動きを読み取ることができる。

なお、新邸遺跡では第8地点で初めて古墳時代後期（7世紀中葉）の住居跡が1軒検出されている。この住居跡は、3×3.5mの小型の長方形を呈するもので、焼失住居であり、床面上からは土器・炭化材の他ベンガラ塊が出土している。

現在、5世紀後半から7世紀後半にかけての時期に比定できる住居跡の軒数は、最も多い城山遺跡で200軒を越え、次いで中野遺跡で約50軒、中道遺跡で約15軒、田子山遺跡で約10軒、新邸遺跡で1軒を数える。

また住居跡以外では、平成5（1993）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第24地点から、6世紀後半以降のものと考えられる4.1×4.7mの不整形円で2ヶ所にブリッジをもつ小型の円形周溝墓が1基確認されている。さらに、平成14（2002）年に発掘調査された田子山遺跡第81地点を契機に御嶽神社を取り囲むように外周で推定約33mの巨大な溝の存在が明らかになり、現時点では古墳の周溝ではないかと考えられている。

### 5. 奈良・平安時代

奈良・平安時代の遺跡は、古墳時代後期以降に拡散した集落内で確認される傾向にあり、現在のところ、中野・城山・中道・西原大塚・田子山遺跡で検出されている。中でも城山・田子山遺跡はこの時代を代表とする遺跡として挙げるができる。城山遺跡では、平成8（1996）年に発掘調査が実施された第35地点の128号住居跡から、印面に「富」1文字が書かれた完形品の銅印が出土しているが、これは県内でも稀少な例として貴重な資料であろう。この住居跡からはその他、須恵器坏や猿投産の緑釉陶器の小破片1点、布目瓦の小破片2点などが出土している。平成20～21（2008～2009）年の城山遺跡第62地点の調査では、平安時代の241号住居跡から皇朝十二銭の一つである富壽神寶<sup>ふじゅしんぼう</sup>が2枚とその近くからは鉄鎌1点と土錘1点が発見されており、祭祀行為が行われたと考えられる貴重な例として、県内でも重要な発見につながっている。

田子山遺跡では、平成5（1993）年に発掘調査が実施された第24地点からは、住居跡の他、掘立柱建築遺構・溝跡そして100基を越える土坑群が検出されている。平成6（1994）年に発掘調査が実施された第31地点の44号住居跡からは、腰帯の一部である銅製の丸柄が出土している。さらにカマド右横の床面上からは、東金子窯跡群（入間市）の製品と南比企窯跡群（鳩山町）の製品という生産地の異なる須恵器坏が共伴して出土したことにより、土器編年の基本資料として貴重であると言える。

なお、以上のうち、城山遺跡128号住居跡出土の銅印ほか9点と城山遺跡第241号住居跡出土の富壽神寶ほか2点については、考古資料として、平成24年3月1日付けで、市指定文化財に指定されている。

## 6. 中・近世

中・近世の遺跡は、「柏の城」を有する城山遺跡と千手堂関連である新邸・中道遺跡、そして関根兵庫館跡・宿遺跡が代表される遺跡と言える。城山遺跡では、数次にわたる発掘調査により、『たてむらきゆうき館村旧記』（註1）にある「柏之城落城後の屋敷割の図」に相当する堀跡などが多数発見されている。最新では、『かい廻国雑記』（註2）に登場する「おおいしなのかみのやかた大石信濃守館」が「柏の城」に相当し、「おおつかじゆうぎよくぼう大塚十玉坊」についても市内の「大塚」に由来があるという説が有力と言えるであろう（神山 1988・2002）。

また、平成7（1995）年に発掘調査が実施された第29地点の127号土坑からは、馬の骨が検出されている。この土坑からは、板碑と土師質土器の他、炭化種子（イネ・オオムギ・コムギなど）も出土しており、イネの塊状のものは「おにぎり」あるいは「ちまき」のようなものであるという分析結果が報告されている。

さらに、平成8（1996）年度に発掘調査が実施された第35地点では、鑄造関連の遺構も検出されている。130号土坑については鑄造遺構、134号土坑については溶解炉に該当し、遺物としては、大量の鉄滓（スラッグ）、鑄型、三叉状の土製品、砥石などが出土している。また、平成13（2001）年度の第42地点からは、多くの土坑・地下室・井戸跡が検出される中、234号土坑から、鉄鍋の完形品が出土したことは特筆すべきである。この鉄鍋は、土坑の坑底面に伏せてある状況で出土しており、「鍋被り葬」と呼ばれる風習が志木市でも実在していた可能性が高い。

戦国期の資料としては、平成6（1994）年度に発掘調査が実施された第21地点から、当市では初めて、よろい さね鎧の札である鉄製品1点と鉄鍬1点が出土している。出土した遺構は、19世紀前半の86号土坑であるため混入品となるが、「柏の城」に関連する資料として大変重要な資料に加わったと言える。

平成11～14（1999～2002）年度にかけて発掘調査が実施された中野遺跡第49地点からは、頭を北に向け横臥屈葬された人骨を出土した67号土坑が検出されている。その他、ピット列・土坑・溝跡などが検出されていることから、この一帯が『館村旧記』に記載がある「村中の墓場」関連に相当する施設ではないかと考えられる。

中道遺跡では、昭和62（1987）年の第2地点から人骨を伴う地下式坑、掘立柱建築遺構が検出され、平成7（1995）年の中道遺跡第37地点からは、人骨と古銭5枚を出土した土坑墓1基と13世紀に比定される青磁盤1点を出土した道路状遺構1条が検出されている。

新邸遺跡では、昭和60（1985）年の第1地点から段切状遺構の平場から多数の土坑・地下式坑が検出され、平成15（2003）年の新邸遺跡第8地点からは、人骨と六文銭を伴う火葬墓2基が検出されている。おそらく、この新邸遺跡から中道遺跡一帯は、『館村旧記』に記載がある「大塚千手堂」であり、

古くは天台宗の「七堂大伽藍」を誇る「しょうりんざんかんのんじだいいじゆいん松林山観音寺大受院」関連遺構として、今後は体系的な究明が必要とされるであろう。

## 7. 近代以降

近代以降の遺跡では、平成5（1993）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第31地点から、敷島神社境内に存在する富士塚の築造（明治2～5年）に関連するローム採掘遺構が検出されている。この遺構の坑底面からは、鋤・鍬などの無数の工具痕が観察され、採掘作業がかなり組織的な単位で行われていたこともわかり、地域研究の重要な資料と言える。

平成15（2003）年の新邸遺跡第8地点からは、野火止用水跡が検出され、市内初の発掘調査例となった。用水路の基盤面からは水付きの銹着面が確認され、底面からは大量の陶磁器が出土した。

## 第2節 遺跡の概要

ここで、今回本書で報告する城山遺跡について概観することにする。

城山遺跡は、志木市柏町3丁目を中心に広がる遺跡で、東武東上線志木駅の北西約1.2km、柳瀬川駅の東約0.8kmに位置している。本遺跡は、柳瀬川右岸の台地上に立地しており、標高は約12m、低地との比高差は約5mである。

遺跡の周辺を眺めてみると、小学校や神社・墓地などが存在する閑静な住宅地と言えるが、ここ5・6年の間は、毎年のように市内では比較的に規模の大きい開発が増加しており、最近では平成22・23年に分譲住宅建設に伴う第62地点、平成23年度に共同住宅建設に伴う第72地点や分譲住宅建設に伴う第71地点が実施され、僅かに残る緑地や畑地にまで各種開発の波が押し寄せている状況で、一帯がほぼ住宅地と言える。

本遺跡は、第2表に示したとおり、これまでに84回の調査（平成26年10月31日現在）が実施され、旧石器時代、縄文時代草創～晩期、弥生時代後期、古墳時代前・中・後期、奈良・平安時代、中・近世に至る複合遺跡であることが判明している。

最新の調査成果としては、本遺跡から発見された資料2件が、平成24年度に市指定文化財に指定され、大きな成果を上げることができた。市指定文化財に追加された資料は以下の2件である。

①城山遺跡128号住居跡出土の銅印ほか9点

②城山遺跡241号住居跡出土の富壽神寶ほか2点

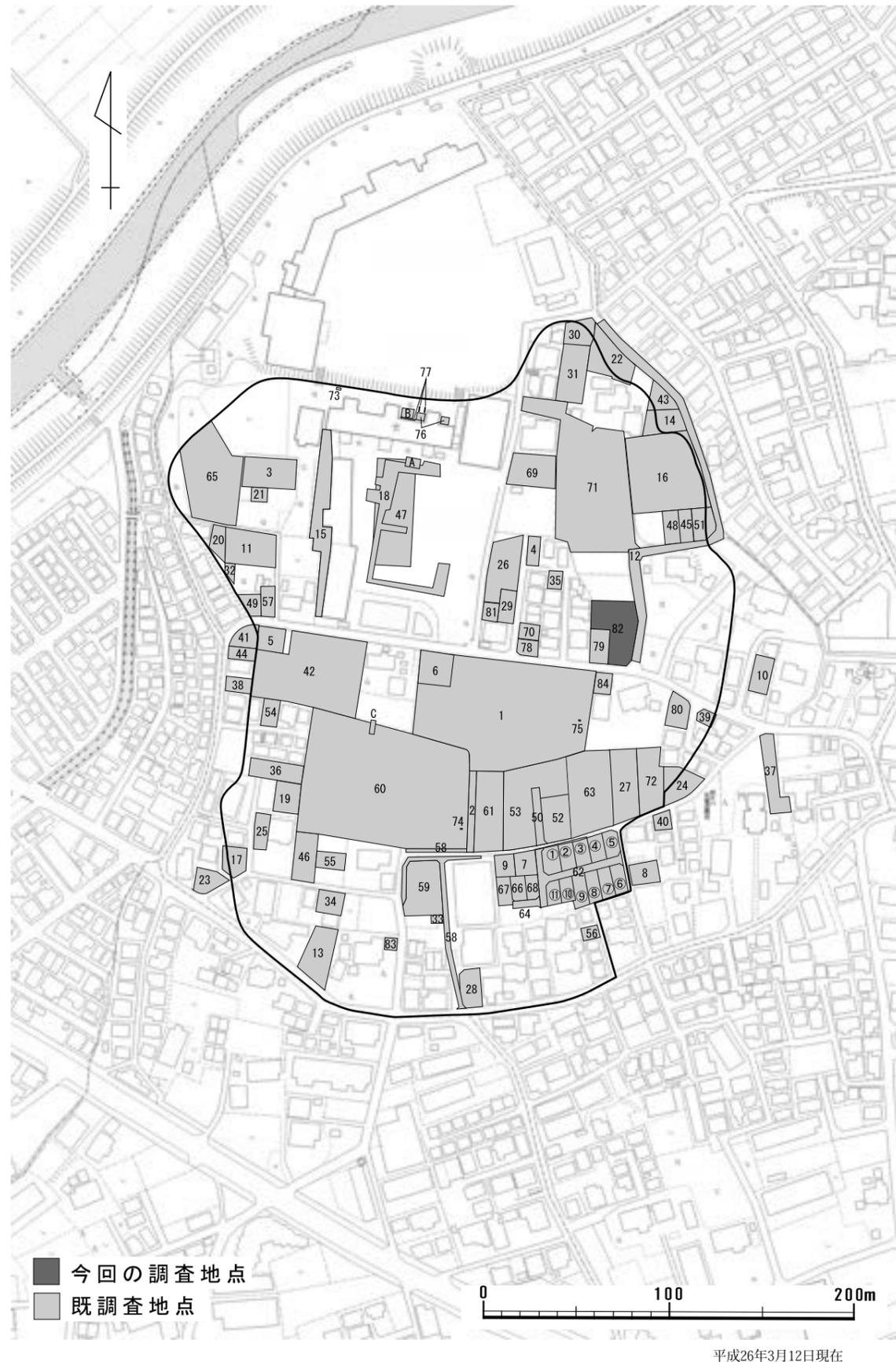
### [註]

註1 『館村旧記』は、館村（現在の志木市柏町・幸町・館）のなぬしみやはらなかえもんなかつね名主宮原仲右衛門仲恒が、享保12～14（1727～1729）年にかけて執筆したものである。

註2 『廻国雑記』は、左大臣近衛房嗣の子で、京都聖護院門跡をつとめた道興准后が、文明18年（1486）6月から10ヶ月間、北陸路から関東各地をめぐる、駿河甲斐にも足をのぼし、奥州松島までの旅を紀行文にまとめたものである。

### [引用文献]

神山健吉 1988 「『廻国雑記』に現れる 大石信濃守の館と十玉坊の所在についての一考察」『郷土志木』第7号  
2002 「道興をめぐる二つの謬説を糾す」『郷土志木』第31号



第2図 城山遺跡の調査地点 (1/3,000)

調査地点	面積 (㎡)	確認調査日	発掘調査期間	調査原因	遺構の概要	文献名 第3表文献 No.
A地点	90.00	—	昭和49年7月29日～ 8月4日	学術調査	(縄文前期)住居跡1軒(弥生後期)住居跡1軒(中世)溝跡1本	1984『志木市史 原始・古代編』
C地点	30.00	—	昭和55年7月20日～ 8月21日	学術調査	(中世)柏城大堀跡	1984『志木市史 原始・古代編』
B地点	50.00	—	昭和57年3月25日～ 3月31日	学術調査	(古墳後期)住居跡2軒(中世)溝跡1本	1984『志木市史 原始・古代編』
第1・2地点	4,964.39	—	昭和60年4月8日～ 11月26日	共同住宅建設	(古墳前期)住居跡1軒(古墳後期)住居跡53軒(奈良・平安)住居跡6軒(中・近世)土坑31基・溝跡5本・井戸跡9基・ピット	No.5
第3地点	300.00	—	昭和61年7月16日～ 9月27日	学術調査	(古墳前期)住居跡1軒(古墳後期)住居跡3軒(中・近世)土坑16基・溝跡2本	No.7
第4地点	98.28	—	昭和62年6月19日～ 7月1日	個人住宅建設	(縄文中期)埋裏1基(弥生後期)住居跡1軒(平安)土坑2基(中世)土坑1基(不明)土坑1基	No.8
第5地点	125.00	昭和63年 6月10日	—	共同住宅建設	検出されなかった	
第6地点	166.08	—	昭和62年12月12日～ 12月27日	共同住宅建設	(古墳後期)住居跡2軒・土坑1基(中・近世)土坑7基	No.9
第7地点	130.00	平成元年 11月17日	11月20日～12月2日	宅地造成	(古墳後期)住居跡1軒(平安)住居跡1軒	
第8地点	132.13	11月23日	—	共同住宅建設	検出されなかった	No.11
第9地点	115.71	12月4日	12月5日～28日	宅地造成	(古墳後期)住居跡6軒(中・近世)土坑5基	No.11
第10地点	330.49	平成2年 3月16日	—	共同住宅建設	検出されなかった	No.11
第11地点	192.00	4月6日	4月7日～20日	個人住宅建設	(縄文早期)炉穴2基(縄文前期)土坑1基(縄文中期)住居跡1軒・土坑2基(古墳前期)住居跡1軒(古墳後期)住居跡2軒(平安)住居跡1軒(中・近世)土坑3基・井戸跡1基	No.12
第12地点	1,074.00	4月19日～ 24日	4月25日～5月22日	道路改良工事	(中・近世)土坑2基・溝跡4基・井戸跡1基	No.17
第13地点	400.44	5月7日	5月8日～17日	共同住宅建設	(古墳後期)住居跡1軒	No.17
第14地点	181.90	平成4年 5月1日	—	個人住宅建設	検出されなかった	No.15
第15地点	560.00	—	平成4年7月21日～ 8月26日	道路工事	(古墳後期)住居跡6軒(中・近世)溝跡2本・土坑1基	No.27
第16地点	1,556.00	—	平成4年10月2日～ 12月12日	共同住宅建設	(縄文)遺物包含層・集石1基(古墳後期)住居跡1軒(中・近世)土坑1基・井戸跡2基・溝跡2本	No.27
第17地点	130.56	平成5年 3月22日	—	個人住宅建設	検出されなかった	No.15
第18地点	115.45	6月3日	6月3日～7月29日	雨水流出抑制 工事	(縄文)土坑1基(弥生後期)住居跡1軒(古墳後期)住居跡8軒(中・近世)土坑6基・溝跡6本	No.44
第19地点	361.93	10月28日	11月1日～24日	共同住宅建設	(古墳後期)住居跡5軒(不明)土坑1基	No.44
第20地点	100.38	12月24日	平成6年1月13日～ 17日	個人住宅建設	(古墳後期)住居跡1軒(不明)土坑2基	No.15
第21地点	48.00	—	2月18日～2月24日	樹木土壌改良	(縄文早期)炉穴1基(古墳後期)住居跡2軒(近世)土坑3基	No.44
第22地点	498.13	平成6年 3月2日	3月9日～31日	共同住宅建設	(縄文早期)炉穴1基(古墳後期)住居跡1軒	No.44
第23地点	157.94	5月31日	—	個人住宅建設	検出されなかった	No.16
第24地点	277.68	7月6日	—	個人住宅建設	検出されなかった	No.16
第25地点	127.38	7月15日	7月21日～8月1日	個人住宅建設	(古墳中期)住居跡1軒(古墳後期)住居跡1軒(近世)土坑1基・溝跡1本(不明)土坑1基	No.16
第26地点	410.00	8月18日	8月22日～10月21日	共同住宅建設	(縄文)土坑1基(古墳後期)住居跡7軒(平安)住居跡4軒・土坑1基(中・近世)土坑6基・溝跡4本(不明)土坑1基	No.59

第2表 城山遺跡発掘調査一覧(1)

調査地点	面積 (㎡)	確認調査日	発掘調査期間	調査原因	遺 構 の 概 要	文献名 第3表文献 No.
第27地点	371.52	平成7年 1月30日	2月27日～4月10 日	共同住宅建設	(古墳後期)住居跡2軒(中・近世)土坑15基・溝跡2本・ 井戸跡1基	未
第28地点	233.30	平成6年 12月13日	平成7年1月10～ 2月21日	事務所建設	(縄文前期)土坑1基(古墳後期)住居跡5軒(不明) 土坑1基	未
第29地点	146.41	平成7年 4月5日	4月11日～5月2日	個人住宅建設	(縄文早期)土坑1基(古墳後期)住居跡2軒(平安) 住居跡1軒(中・近世)土坑11基・溝跡1本・ピット 群	No.18
第30地点	200.85	4月24日	—	分譲住宅建設	検出されなかった	No.18
第31地点	164.27	6月6日	—	個人住宅建設	検出されなかった	No.18
第32地点	59.62	11月14日	11月15日～17日	倉庫建設	(中世)ピット1本(不明)土坑1基	No.18
第33地点	30.00	平成8年 6月12日	—	防火水槽設置 工事	検出されなかった	No.20
第34地点	162.00	7月12日	7月15日～8月3日	個人住宅建設	(古墳後期)住居跡3基(平安)土坑1基	
第35地点	84.40	11月15日	11月18日 ～12月25日	個人住宅建設	(弥生後期)住居跡1軒(古墳後期)住居跡1軒(平安) 住居跡2軒(中・近世)鑄造土坑1基・溶解炉1基、 土坑13基・井戸跡1基・ピット	No.21
第36地点	361.18	平成10年 4月23日	—	駐車場建設	盛土保存適用	
第37地点	430.00	平成11年 11月5日	—	駐車場建設	検出されなかった	No.24
第38地点	120.38	平成12年 7月25日	—	分譲住宅建設	検出されなかった(現地踏査)	No.26
第39地点	94.97	8月21日	—	個人住宅建設	盛土保存適用	No.26
第40地点	76.32	12月7日	—	個人住宅建設	検出されなかった	No.26
第41地点	140.33	12月12日	—	個人住宅建設	検出されなかった(現地踏査)	No.26
第42地点	2,106.89	12月18日	平成13年2月23日 ～6月29日	共同住宅建設	(旧石器)石器集中地点2ヶ所(縄文)土坑21基・炉 穴1基(古墳後期)住居跡16軒(平安)住居跡5軒・ 土坑13基(中世以降)土坑151基・溝跡4本・井戸 跡8基・ピット群	No.33
第43地点	117.00	平成13年 5月29日	—	分譲住宅建設	検出されなかった	No.28
第44地点	132.30	6月20日	—	分譲住宅建設	検出されなかった(現地踏査)	No.28
第45地点	100.00	平成15年 1月31日	—	個人住宅建設	検出されなかった	No.30
第46地点	348.29	2月18日	平成15年2月28日 ～4月30日	個人住宅建設	(縄文前期)住居跡1軒(古墳中・後期)住居跡5軒(平 安)住居跡1軒、溝跡1本(中世以降)土坑23基・地 下室1基・井戸跡4基・道路状遺構1本	No.38
第47地点	1,200.00	2月21日	—	仮設校舎建設	検出されなかった(現地踏査)	No.30
第48地点	100.00	3月14日	—	個人住宅建設	検出されなかった(現地踏査)	No.30
第49地点	232.23	8月26日	平成17年1月11日 ～2月3日	個人住宅建設	(縄文)土坑1基(古墳後期)住居跡2軒(中世以降) 土坑5基・地下室1基・井戸跡1基	No.41
第50地点	199.54	9月5日	—	道路新設工事	工事立会い	No.38
第51地点	200.19	9月16日	—	個人住宅建設	検出されなかった(現地踏査)	No.38
第52地点	300.42	10月14日	—	分譲住宅建設	盛土保存適用	No.38
第53地点	771.53	11月12日	—	宅地造成	盛土保存適用	No.38
第54地点	122.70	平成16年 8月11日	—	個人住宅建設	盛土保存適用	No.38
第55地点	115.10	10月8日	平成16年10月12日 ～12月1日	個人住宅建設	(縄文)土坑2基(古墳後期)住居跡3軒(平安)溝跡 1本(近世)土坑2基	No.38
第56地点	80.01	平成17年 4月11日	—	個人住宅建設	検出されなかった	No.41

第2表 城山遺跡発掘調査報告書一覧(2)

調査地点	面積 (㎡)	確認調査日	発掘調査期間	調査原因	遺 構 の 概 要	報告書No.
第57地点	165.30	平成15年8月 26日	平成17年8月29日 ～9月24日	個人住宅建設	(縄文)土坑3基(古墳後期)住居跡2軒(中世以降) 土坑6基・土坑墓1基・地下室1基	No.41
第58地点	880.77	平成18年4月 18～21日	平成18年6月29日 ～8月28日	道路新設工事	(縄文)土坑3基・炉穴1基(古墳後期)住居跡20軒(奈 良・平安)掘立柱建築遺構2棟・溝跡1本(中世以降) 土坑72基・溝跡4本・道路状遺構1基	No.43
第59地点	495.94	平成18年 4月6日	平成18年4月10日 ～6月22日	個人住宅及び 倉庫建設	(縄文前期)住居跡1軒(古墳後期)住居跡4軒(平安) 住居跡2軒・掘立柱建築遺構2棟(近世)土坑1基	No.49
第60地点	5,322.66	12月20日 ～22日	平成19年2月15日 ～6月12日	福祉施設建設	(縄文)土坑1基、炉穴3基、集石3基(古墳後期) 住居跡32軒(奈良・平安)住居跡10軒(中世以降) 土坑141基・溝跡8本・井戸跡5基	No.43
第61地点	710.96	平成19年 7月18・19日	平成19年8月27日 ～10月9日	分譲住宅建設	(縄文)土坑4基(古墳後期)住居跡2軒(平安)住 居跡2軒(中世以降)土坑28基・地下室1基・井戸 跡1基・溝跡2本	No.42
第62地点	516.49	平成20年 10月29・30日	平成20年11月17日 ～12月26日(1期分)	分譲住宅建設	(旧石器)石器ブロック1カ所(縄文)土坑3基(古 墳中・後期)住居跡17軒・土坑1基(平安)住居跡 3軒・土坑2基(中世以降)土坑51基・地下室1基・ 溝跡2本	No.52
	1,076.95	平成20年 12月18・19日	平成21年2月2日 ～6月17日(2期分)			
	(120.80)	—	平成22年7月2日 ～7月22日(①地点)	個人住宅建設	(古墳後期)住居跡1軒・(中世以降)土坑5基	No.62
	(100.20)	—	②地点	分譲住宅建設	盛土保存適用	
	(100.24)	—	平成21年11月4日～ 11月16日(③地点)	個人住宅建設	(縄文)炉穴2基(古墳後期)住居跡2軒・(中世以降) 土坑3基	
	(100.23)	—	④地点	分譲住宅建設	盛土保存適用	
	(91.75)	—	⑤地点	分譲住宅建設	盛土保存適用	
	(112.63)	—	平成21年9月3日～ 9月10日(⑥地点)	個人住宅建設	(中世以降)土坑3基・溝跡3本	
	(116.72)	—	平成21年11月9日 ～11月16日(⑦地点)	個人住宅建設	(古墳後期)住居跡1軒・(中世以降)土坑2基・溝 跡1本	
	(119.88)	—	平成22年11月17日 ～11月29日(⑧地点)	個人住宅権設	(古墳後期)住居跡1軒・円形周溝墓1基(中世以降) 土坑4基	
	(131.20)	—	平成22年8月23日 ～8月30日(⑨地点)	個人住宅建設	(古墳中・後期)住居跡1軒	
	(92.48)	—	平成22年6月17日～ 7月23日(⑩地点)	個人住宅建設	(古墳後期)住居跡4軒(中世以降)土坑1基	
(91.12)	—	平成22年1月22日～ 2月5日(⑪地点)	個人住宅建設	(古墳後期)住居跡2軒(中世以降)土坑3基		
第63地点	974.89	平成22年 1月26・27日	平成22年3月8日 ～5月7日	共同住宅建設	(旧石器)石器集中地点3ヶ所(縄文)土坑1基(古 墳後期)住居跡14軒・土坑10基(平安)ピット34 本(中世以降)土坑97基・井戸跡3基・溝跡2本	No.50
第64地点	387.11	平成22年 1月28日	平成22年2月22日 ～3月30日	分譲住宅建設	(古墳中・後期)住居跡6軒(中世以降)土坑4基	No.57
第65地点	1,725.32	—	—	市営墓地内道 路舗装及び給 排水設備工事	検出されなかった	No.55
第66地点	101.09	1月28日	—	分譲住宅建設	盛土保存適用	No.62
第67地点	104.06		—	分譲住宅建設	盛土保存適用	No.62
第68地点	101.51		—	分譲住宅建設	盛土保存適用	No.62
第69地点	405.00		12月6日	—	分譲住宅建設	盛土保存適用
第70地点	101.16	12月6日	—	個人住宅建設	盛土保存適用	No.62

第2表 城山遺跡発掘調査報告書一覧(3)

調査地点	面積 (㎡)	発掘調査期間	調査原因	遺 構 の 概 要	文献名 第3表文献No.
第71地点	2,858.75	平成23年 8月8日～ 12月22日	分譲住宅建設	(旧石器)礫群2ヶ所(弥生後期～古墳前期)住居跡2軒(古墳)住居跡2基(奈良・平安)住居跡3軒(中世以降)土坑112基・地下室6基・井戸跡5基・溝跡6本・ピット群	No.58
	(156.30)	①地点	共同住宅建設	盛土保存適用	未
第72地点	487.38	平成23年 6月6日～ 7月15日	共同住宅建設	(縄文)土坑4基(古墳後期)住居跡2軒(平安)住居跡2基(中世以降)土坑28基・地下室1基・井戸跡1基・溝跡2本	No.53
第73地点	4.50	—	放射性物質 除染作業	工事立会/検出されなかった/除染日12月8日	No.62
第74地点	0.60	—	放射性物質 除染作業	工事立会/検出されなかった/除染日12月15日	No.62
第75地点	0.70	—	放射性物質 除染作業	工事立会/検出されなかった/除染日12月15日	No.62
第76地点	55.00	—	防災用トイレ 設置工事	(縄文)土坑1基・炉穴3基(弥生後期～古墳前期)住居跡2軒(古墳後期)住居跡2軒(奈良・平安)掘立柱建築遺構1棟(中世以降)掘立柱建築遺構1棟・土坑6基など	No.56
第77地点	9.60	—	配水管の試験 掘り及び切回 し	工事立会/検出されなかった	未
第78地点	103.28	—	個人住宅建設	盛土保存適用	未
第79地点	165.42	平成25年 5月16日～ 7月19日	個人住宅建設	(縄文)炉穴1基・陥穴1基(弥生後期～古墳前期)住居跡2軒(古墳後期)住居跡2軒(平安)住居跡2軒・掘立柱建築遺構1棟(中世以降)土坑11基・井戸跡2基など	未
第80地点	94.60	平成26年 4月7日～ 5月20日	個人住宅建設	(古墳後期)住居跡1軒(中世以降)土坑7基・井戸跡1基・溝跡1本など	未
第81地点	80.97	—	個人住宅建設	盛土保存適用	未
第82地点	685.66	平成26年 1月27日～ 3月25日 (H25年度)	分譲住宅建設	(縄文)土坑7基(古墳後期)溝跡1本(平安)住居跡2軒・掘立柱建築遺構1棟(中世以降)土坑75基・地下室1基・井戸跡7基・溝跡1本・掘立柱建築遺構1棟	本報告書
		平成26年 4月1日 ～5月16日 (H26年度)			
第83地点	89.48	—	個人住宅建設	盛土保存適用	未
第84地点	100.00	—	駐車場建設	盛土保存適用	未

第2表 城山遺跡発掘調査報告書一覧(4)

No.	報 告 書 名	刊行年	シリーズ名	発 刊 者	執 筆 者
1	西原・大塚遺跡 発掘調査報告	1975	志木市の文化財第4集	志木市教育委員会	井上 國夫・落合 静男・ 谷井 彪・宮野和明
2	西原大塚遺跡第3地点 中野遺跡第2地点 発掘調査報告書	1985	志木市遺跡調査会調査報告第1集	志木市遺跡調査会	佐々木保俊・尾形則敏
3	新邸遺跡発掘調査報告書	1986	志木市遺跡調査会調査報告第2集	志木市遺跡調査会	佐々木保俊・尾形則敏
4	新邸遺跡第2地点 西原大塚遺跡第4地点 発掘調査報告書	1987	志木市遺跡調査会調査報告第3集	志木市遺跡調査会	佐々木保俊・尾形則敏
5	城山遺跡 発掘調査報告書	1988	志木市遺跡調査会調査報告第4集	志木市遺跡調査会	佐々木保俊・尾形則敏・ 神山健吉
6	中道遺跡 発掘調査報告書	1988	志木市遺跡調査会調査報告第5集	志木市遺跡調査会	佐々木保俊・尾形則敏
7	城山遺跡長勝院地点 発掘調査報告書	1987	志木市の文化財第11集	志木市教育委員会 志木市遺跡調査会 志木ロータリークラブ	佐々木保俊
8	志木市遺跡群Ⅰ	1989	志木市の文化財第13集	志木市教育委員会	佐々木保俊・尾形則敏
9	志木市遺跡群Ⅱ	1990	志木市の文化財第14集	志木市教育委員会	佐々木保俊・尾形則敏
10	西原大塚遺跡第7地点 新邸遺跡第3地点 中野遺跡第7地点 中野遺跡第8地点 城山遺跡第6地点 発掘調査報告書	1991	志木市の文化財第15集	志木市教育委員会	佐々木保俊・尾形則敏
11	志木市遺跡群Ⅲ	1991	志木市の文化財第16集	志木市教育委員会	佐々木保俊・尾形則敏
12	志木市遺跡群Ⅳ	1992	志木市の文化財第17集	志木市教育委員会	佐々木保俊・尾形則敏
13	中道遺跡第12地点 中道遺跡第13地点 田子山遺跡第4地点 田子山遺跡第5地点 発掘調査報告書	1992	志木市の文化財第18集	志木市教育委員会	佐々木保俊・尾形則敏
14	志木市遺跡群Ⅴ	1993	志木市の文化財第20集	志木市教育委員会	尾形則敏
15	志木市遺跡群Ⅵ	1995	志木市の文化財第21集	志木市教育委員会	尾形則敏
16	志木市遺跡群Ⅶ	1996	志木市の文化財第23集	志木市教育委員会	佐々木保俊・尾形則敏・ 深井恵子
17	城山遺跡第12地点 城山遺跡第13地点 西原大塚遺跡第14 地点 中野遺跡第11地点 中野遺跡第16地点 市場裏遺跡第 1地点 田子山遺跡第10地点 中道遺跡第21地点 田子山遺 跡第13地点 西原大塚遺跡第21地点 市場裏遺跡第2地点 中道遺跡第26地点 発掘調査報告書	1996	志木市の文化財第24集	志木市教育委員会	佐々木保俊・尾形則敏
18	志木市遺跡群Ⅷ	1997	志木市の文化財第25集	志木市教育委員会	佐々木保俊・尾形則敏
19	西原大塚の遺跡 西原特定土地区画整理事業に伴う発掘調査 概報	1998	—	志木市遺跡調査会 西原特定土地区画整理 組合	佐々木保俊
20	志木市遺跡群Ⅸ	1999	志木市の文化財第27集	志木市教育委員会	尾形則敏・深井恵子
21	志木市遺跡群Ⅹ	2000	志木市の文化財第28集	志木市教育委員会	尾形則敏・深井恵子
22	埋蔵文化財調査報告書1	2000	志木市の文化財第29集	志木市教育委員会	尾形則敏・深井恵子
23	西原大塚遺跡第45地点 発掘調査報告書	2000	志木市遺跡調査会調査報告第6集	志木市遺跡調査会 小松フォークリフト株式 会社	佐々木保俊・内野美津 江・宮川幸佳・上田 寛
24	志木市遺跡群11	2001	志木市の文化財第30集	志木市教育委員会	尾形則敏・佐々木保俊・ 内野美津江
25	埋蔵文化財調査報告書2	2001	志木市の文化財第31集	志木市教育委員会	尾形則敏・深井恵子
26	志木市遺跡群12	2002	志木市の文化財第32集	志木市教育委員会	尾形則敏・佐々木保俊・ 深井恵子
27	埋蔵文化財調査報告書3	2002	志木市の文化財第34集	志木市教育委員会	尾形則敏・佐々木保俊・ 深井恵子・佐々木 潤
28	志木市遺跡群13	2003	志木市の文化財第35集	志木市教育委員会	尾形則敏・深井恵子
29	中野遺跡第49地点—東京電力志木変電所の埋蔵文化財発掘調 査報告—	2004	志木市遺跡調査会調査報告第7集	志木市遺跡調査会	尾形則敏・深井恵子・ 青木 修
30	志木市遺跡群14	2004	志木市の文化財第36集	志木市教育委員会	尾形則敏・深井恵子・ 青木 修
31	西原大塚遺跡第111地点	2005	志木市遺跡調査会調査報告第8集	志木市遺跡調査会	佐々木保俊・内野美津 江・宮川幸佳

第3表 志木市発掘調査報告書一覧(1)

No.	報告書名	刊行年	シリーズ名	発刊者	執筆者
32	西原大塚遺跡第110地点	2005	志木市遺跡調査会調査報告第9集	志木市遺跡調査会	佐々木保俊・内野美津江・宮川幸佳
33	城山遺跡第42地点	2005	志木市遺跡調査会調査報告第10集	志木市遺跡調査会	尾形則敏・深井恵子 青木 修
34	志木市遺跡群 15	2006	志木市の文化財第37集	志木市教育委員会	尾形則敏・深井恵子
35	新邸遺跡第8地点	2007	志木市遺跡調査会調査報告第11集	志木市遺跡調査会	尾形則敏・深井恵子 青木 修
36	中道遺跡第65地点	2007	志木市遺跡調査会調査報告第12集	志木市遺跡調査会	尾形則敏・藤波啓容 青柳美雪
37	西原大塚遺跡1～Ⅲ 西原特定土地区画整理事業に伴う発掘調査報告書	2009	志木市遺跡調査会調査報告第13集	志木市遺跡調査会	佐々木保俊・内野美津江 宮川幸佳
38	志木市遺跡群 16	2008	志木市の文化財第38集	志木市教育委員会	尾形則敏・深井恵子 青木 修
39	西原大塚遺跡第138地点 西原大塚遺跡第154地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2008	志木市遺跡調査会調査報告第14集	志木市遺跡調査会	尾形則敏・深井恵子 青木 修
40	西原大塚遺跡第120地点 西原大塚遺跡第131地点 田子山遺跡第97地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2008	志木市遺跡調査会調査報告第15集	志木市遺跡調査会	佐々木保俊・内野美津江 宮川幸佳
41	志木市遺跡群 17	2008	志木市の文化財第39集	志木市教育委員会	尾形則敏・深井恵子 青木 修
42	城山遺跡第61地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2008	志木市遺跡調査会調査報告第16集	志木市遺跡調査会	尾形則敏・深井恵子 青木 修
43	城山遺跡第58・60地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2008	志木市遺跡調査会調査報告第17集	志木市遺跡調査会	尾形則敏・藤波啓容 鈴木 徹・中村真理
44	埋蔵文化財調査報告書 4	2009	志木市の文化財第40集	志木市教育委員会	尾形則敏・深井恵子 青木 修
45	志木市遺跡群 18	2009	志木市の文化財第41集	志木市教育委員会	尾形則敏・深井恵子 青木 修
46	西原大塚遺跡第108地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2009	志木市の文化財第42集	志木市教育委員会	佐々木保俊・尾形則敏 坂上直嗣・青池紀子他
47	中野遺跡第71地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2010	志木市の文化財第43集	志木市教育委員会	佐々木保俊・内野美津江
48	市場裏遺跡第13地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2011	志木市の文化財第44集	志木市教育委員会	徳留彰紀・尾形則敏 青木 修
49	志木市遺跡群 19	2011	志木市の文化財第45集	志木市教育委員会	尾形則敏・徳留彰紀 深井恵子・青木 修
50	城山遺跡第63地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2011	志木市の文化財第46集	志木市教育委員会	尾形則敏・徳留彰紀 坂上直嗣・青池紀子他
51	西原大塚遺跡第169地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2012	志木市の文化財第47集	志木市教育委員会	徳留彰紀・尾形則敏
52	城山遺跡第62地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2012	志木市の文化財第48集	志木市教育委員会	尾形則敏・徳留彰紀 深井恵子・青木 修
53	城山遺跡第72地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2012	志木市の文化財第49集	志木市教育委員会	尾形則敏・徳留彰紀 村上孝司・青池紀子他
54	田子山遺跡第121地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2012	志木市の文化財第50集	志木市教育委員会	徳留彰紀・尾形則敏 藤波啓容
55	志木市遺跡群 20	2013	志木市の文化財第51集	志木市教育委員会	尾形則敏・徳留彰紀 深井恵子・青木 修
56	城山遺跡第76地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2013	志木市の文化財第52集	志木市教育委員会	尾形則敏・大久保 聡 白崎智隆
57	城山遺跡第64地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2013	志木市の文化財第53集	志木市教育委員会	尾形則敏・深井恵子 青木 修
58	城山遺跡第71地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2013	志木市の文化財第54集	志木市教育委員会	尾形則敏・大久保 聡 中山哲也・二瓶秀幸・稲 村太郎・加藤夏姫
59	西原大塚遺跡第174①地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2013	志木市の文化財第55集	志木市教育委員会	尾形則敏・徳留彰紀 藤波啓容・松木綾子
60	西原大塚遺跡第179地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2014	志木市の文化財第56集	志木市教育委員会	尾形則敏・大久保 聡 二瓶秀幸・本山直子
61	中野遺跡第78地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2014	志木市の文化財第57集	志木市教育委員会	大久保 聡・尾形則敏 青木 修
62	志木市遺跡群 21	2014	志木市の文化財第58集	志木市教育委員会	尾形則敏・大久保 聡 深井恵子・青木 修
63	埋蔵文化財調査報告書 5	2014	志木市の文化財第59集	志木市教育委員会	尾形則敏・徳留彰紀 深井恵子・青木 修

第3表 志木市発掘調査報告書一覧(2)

## 第2章 発掘調査の概要

### 第1節 調査に至る経緯

平成25年11月、株式会社マイタウン（代表取締役 佐藤 茂）より志木市教育委員会（以下、教育委員会）へ土木工事計画地内における埋蔵文化財の取り扱いについて照会があった。工事計画は志木市柏町3丁目2617-1（面積685.66㎡）に分譲住宅建設を行うものである。

教育委員会は、当該地が周知の埋蔵文化財包蔵地である城山遺跡（コード11228-09-003）に該当するため、概ね下記のとおり回答した。

1. 埋蔵文化財確認調査（以下、確認調査）を実施した上で、当該地における埋蔵文化財の有無及び取り扱いについて回答する。

2. 確認調査の結果、埋蔵文化財が確認された場合には、保存措置を講ずること。また、現状保存及び盛土保存が不可能である場合については、記録保存（発掘調査）を実施する必要があること。

その後、平成25年11月14日、教育委員会は、株式会社マイタウンから確認調査依頼書・埋蔵文化財発掘届を受理し、11月28・29日の2日間で確認調査を実施した。

確認調査は、調査区内に6本のトレンチを設定し、バックホーで表土を剥ぎ、遺構確認作業を行った。その結果、縄文時代の土坑5基、中世以降の土坑50基以上・溝跡10本ほど、鋳造関連遺構1カ所、ピット多数を検出した（第3図）。教育委員会は直ちに株式会社マイタウンに確認調査の結果を報告し、同時に埋蔵文化財の保存措置を要請し、平成25年11月から12月にかけて保存措置に関する事前打合せを行った。その結果、工事主体者として土地所有者である個人が実施することとなり、さらに敷地全域において十分な保護層が確保できないということから、記録保存（発掘調査）として取り扱うこととなった。

そのため、志木市埋蔵文化財保存事業取扱要綱に基づき、工事主体者として土地所有者の個人から、平成25年12月13日、志木市埋蔵文化財保存事業委託申請書を受理したため、教育委員会は発掘調査の実施にあたり、民間調査組織の支援を受けて実施することとした。これにより、指名委員会により担当課契約と決定したため、民間調査組織5社による見積書徴収を行った。その結果、共和開発株式会社（代表取締役 加藤 直秀）が最低価格提示者と決定したため、志木市（市長 香川 武文）との間で平成25年1月20日に委託契約を締結した。同日、委託申請者である個人と埋蔵文化財保存事業にかかる協議書を取り交わし、同時に委託契約を締結した。

以上により、教育委員会を調査主体に、平成25年1月20日より発掘調査を実施した。なお、埋蔵文化財発掘届及び発掘調査の通知は3月13日に埼玉県へ提出した。

## 第2節 調査の経過と調査方法

本調査は、平成25年11月28・29日に行われた確認調査の結果とその後の協議を経て、平成26年1月20日より現地作業を開始した。調査面積は685.66㎡である。

調査は、敷地内の全域がその対象となり、南側を1区、北側を2区として、区ごとに調査を進めた。

平成26年1月20日～24日にかけて、資材の搬入・基準点移動などの準備作業を行い、1月27日より調査を開始した。

調査区内の表土は重機によって除去した。発生土は調査区脇に仮置きし、各区の調査終了後に埋め戻しを行った。

表土除去後、遺構確認及び検出写真撮影を行い、その後、遺構の調査を開始した。遺構は、断面観察のために覆土を半截またはベルト状に残して掘り下げ、覆土の堆積状況を記録した。遺構の平面図については、トータルステーションにて国家座標と標高を記録し、現場にて図化した。遺物は出土位置を記録して取り上げを行い、微細な破片については、遺構及びグリッドごと一括して取り上げた。

発掘調査は、1区は1月20日～3月25日、2区は4月1日～5月13日まで行った。5月14日に撤収作業を開始し、5月16日に現地での作業をすべて終了した。

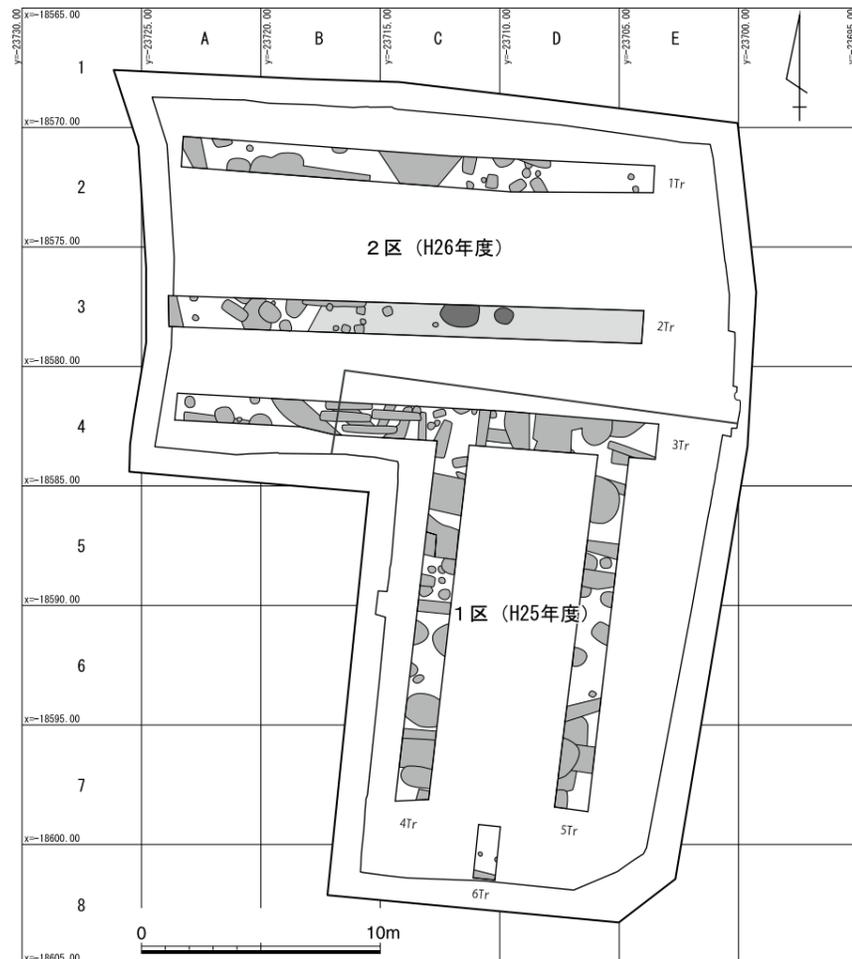
平成26年(2014)	1月	2月	3月	4月	5月	備考
1区表土掘削						
64M						
65M						
49W						
50W						
51W						
987D						
1004D						
1区埋め戻し						
2区表土掘削						
293H						
294H						
65M						
52W						
53W						
54W						
55W						
56W						
1~4Tr						
2区埋め戻し						
撤収作業						

第4表 城山遺跡第82地点の発掘調査工程表

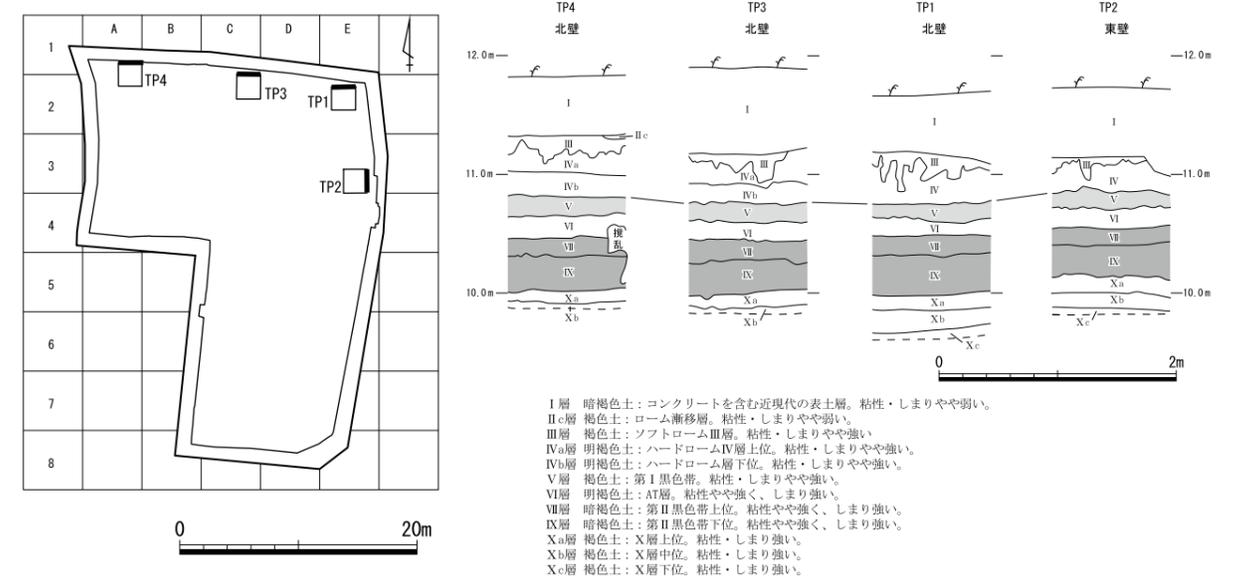
## 第3節 基本層序

本調査地点では、旧石器時代の調査も兼ねて北側の2区に4箇所の深掘りトレンチを設定し、層序の確認を行った。各トレンチは立川ローム第X層上位まで掘り下げた(第4図・図版14-7)。

各トレンチの堆積状況とみると、北東端に位置するTP1においてV層上面が最も下がっており、北東方向へ傾斜するものと想定される。本調査地点は、南西側に広がる台地の縁辺にあたり、北東側の谷地形へと下る傾斜地となっている。



第3図 確認調査時の遺構分布図と調査区設定状況(1/300)

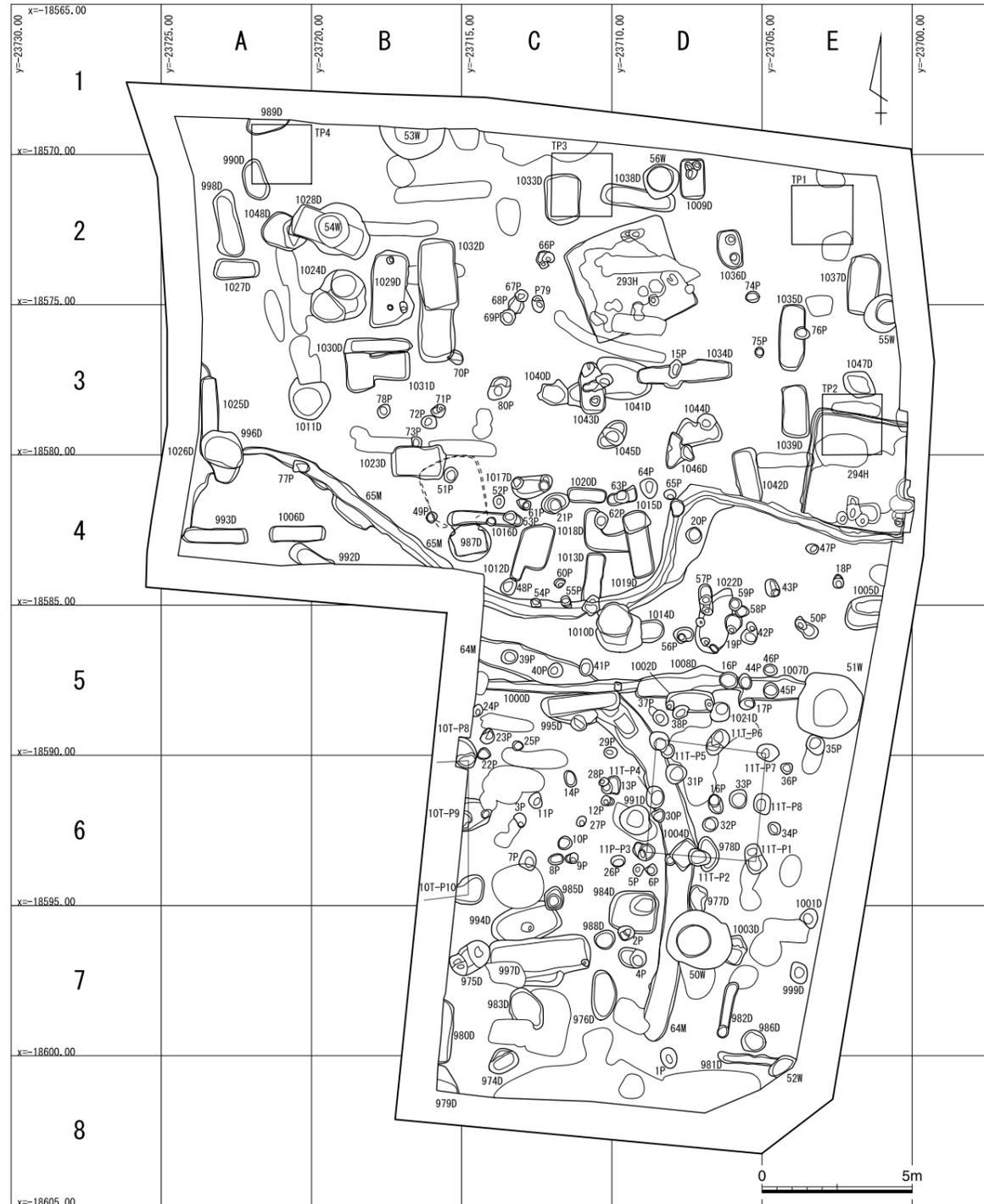


第4図 基本層序(1/600・1/60)

### 第3章 検出された遺構と遺物

#### (1) 概要

縄文時代から近世に至る土坑、住居跡など多くの遺構が検出された。遺物は縄文土器 2,483 点、石器 17 点、古代の土師器・須恵器 506 点、中世から近世の陶磁器や石製品・鉄製品など 338 点、合計 3,344 点が出土している。

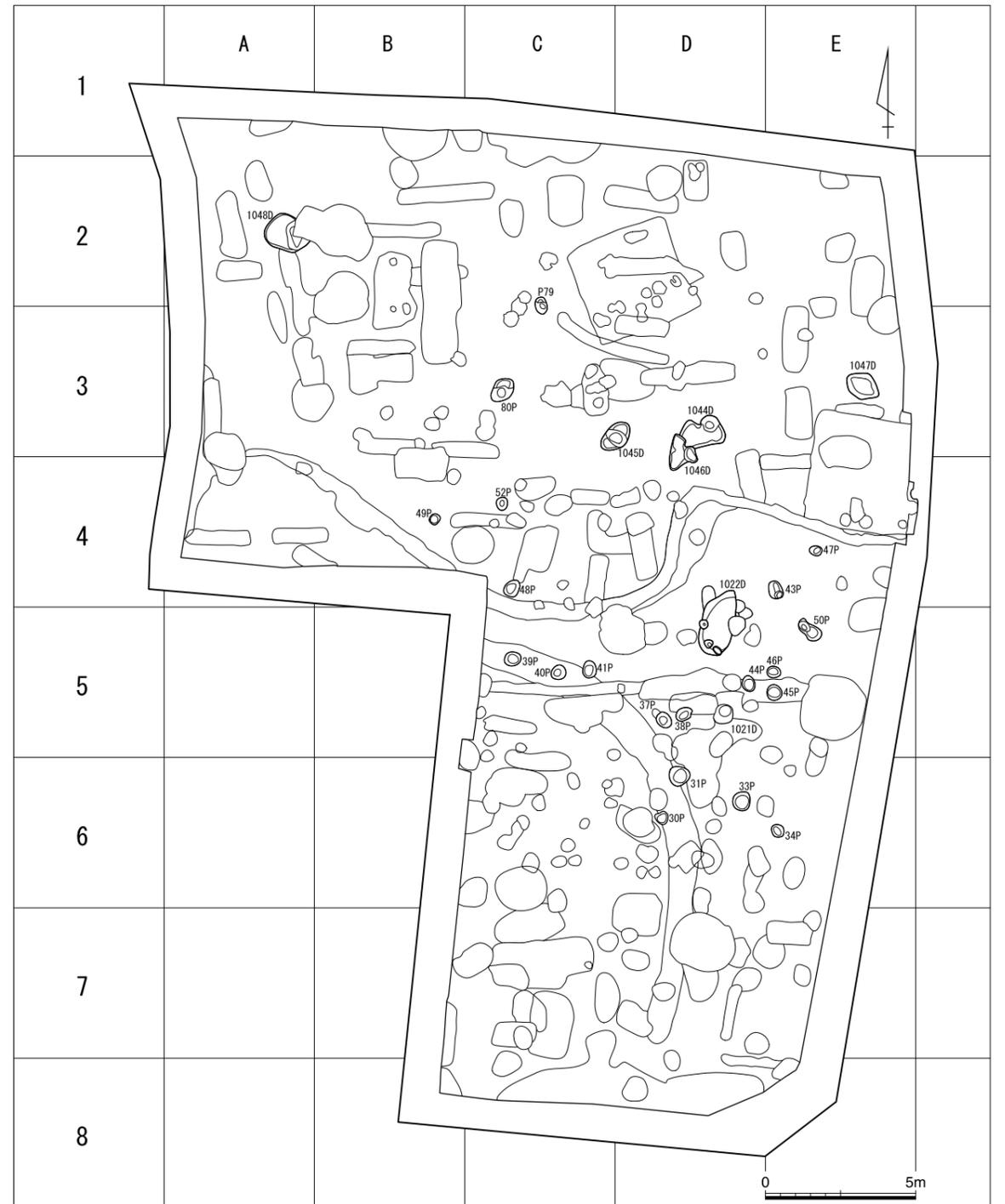


第5図 遺構分布図 (1/200)

### 第1節 縄文時代

#### (1) 概要

縄文時代の遺構は、土坑 7 基・ピット 20 本が検出された。遺物は、縄文土器 2,483 点（早期 3 点・前期 85 点・中期 871 点・後期 1,405 点、時期不明 119 点）、石器 17 点（打製石斧 3・剥片 14 点）



第6図 縄文時代遺構分布図 (1/200)

が出土した。1048号土坑からは中期の土器の上半部が出土したが、その他の多くは当該期以外の遺構や表土・攪乱などからの出土である。

(2) 土坑

1021号土坑

**遺構** (第7図/図版2-1)

**位置** (D-5) グリッド。

**検出状況** 1区中央北側で検出された。北西側を1002号土坑に切られる。

**構造** 平面形：円形である。断面形：逆台形を呈する。壁面はなだらかに立ち上がり、底面はほぼ平坦である。規模：長軸86cm/短軸70cm/深さ77cm。長軸方位：N-77°-W。

**覆土** 暗黄褐色土を主体とし、単層である。

**遺物** 5点の縄文土器が出土している。いずれも中期加曾利E式の破片である。

**時期** 出土遺物と覆土の様子から、縄文時代中期中葉と考えられる。

1022号土坑

**遺構** (第7図/図版2-2)

**位置** (D-4・5) グリッド。

**検出状況** 1区中央北側で検出された。

**構造** 平面形：不整形。断面形：浅い皿形を呈し、壁面はなだらかに立ち上がり、底面はほぼ平坦である。規模：長軸226cm/短軸114cm/深さ34cm。長軸方位：N-20°-E。

**覆土** 暗黄褐色土を主体とし、2層に区分される。

**遺物** なし。

**時期** 覆土の様子から、縄文時代と考えられる。

1044号土坑

**遺構** (第7図/図版2-3)

**位置** (D-3) グリッド。

**検出状況** 2区中央で検出された。西側で1046号土坑を切る。

**構造** 平面形：不整形。断面形：皿形を呈し、底面はほぼ平坦である。規模：長軸157cm/短軸97cm/深さ48cm。長軸方位：N-80°-E。

**覆土** 暗黄褐色土を主体とし、2層に区分される。

**遺物** 7点の縄文土器が出土している。いずれも後期の破片である。

**時期** 覆土の様子と出土遺物から、縄文時代後期と考えられる。

1045号土坑

**遺構** (第7図/図版2-4)

**位置** (C・D-3) グリッド。

**検出状況** 2区中央で検出された。

**構造** 平面形：楕円形。断面形：壁面は垂直に立ち上がり、逆台形を呈する。規模：長軸115cm/短軸74cm/深さ38cm。長軸方位：N-42°-E。

**覆土** 暗黄褐色土を主体とし、単層である。

**遺物** 16点の縄文土器が出土している。いずれも後期の破片である。

**時期** 覆土の様子と出土遺物から、縄文時代後期と考えられる。

1046号土坑

**遺構** (第7図/図版2-5)

**位置** (D-3・4) グリッド。

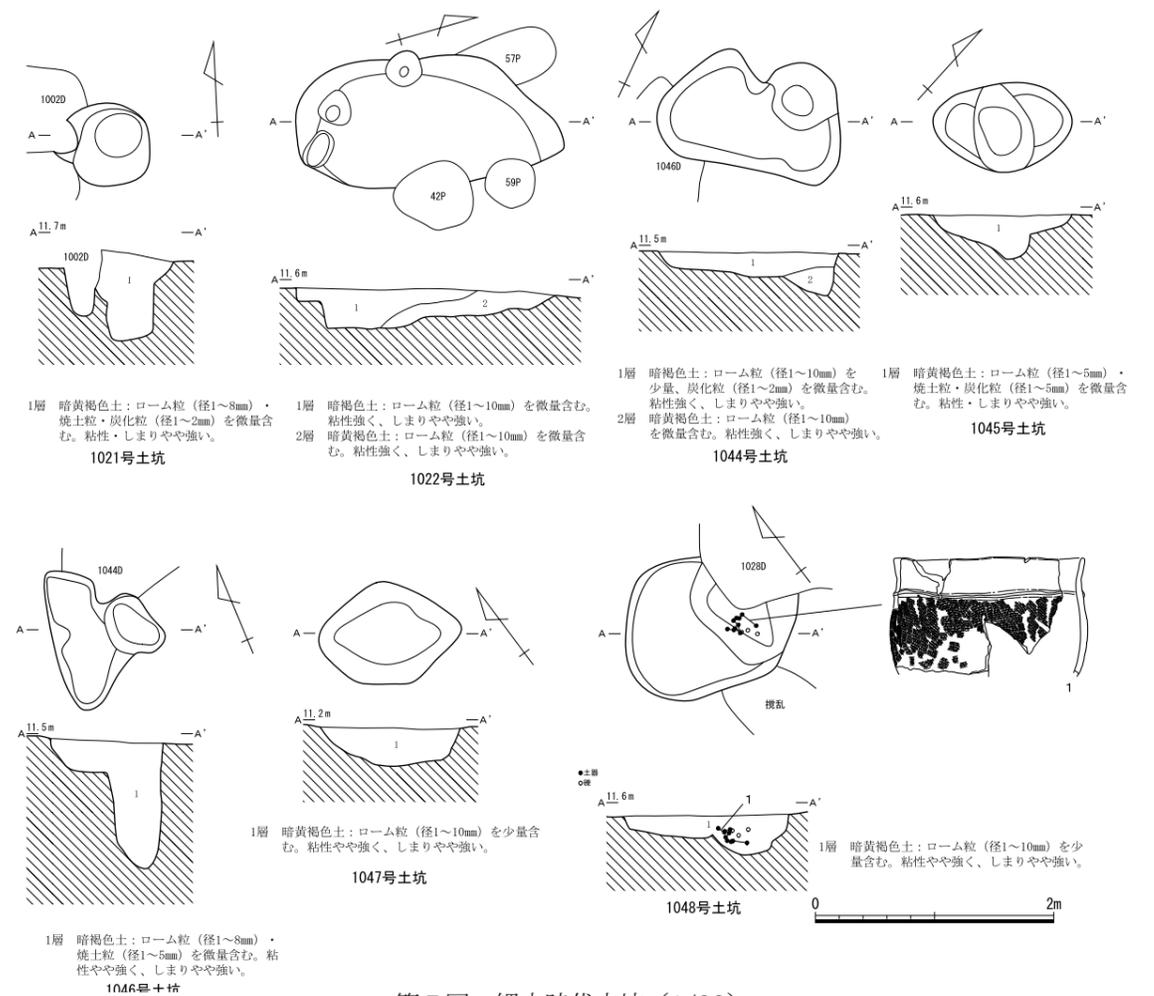
**検出状況** 2区中央で検出された。東側を1044号土坑に切られる。

**構造** 平面形：不整形。断面形：壁面はほぼ垂直、底面はほぼ平坦である。規模：長軸120cm/短軸92cm/深さ121cm。長軸方位：N-9°-E。

**覆土** 暗褐色土を主体とし、単層である。

**遺物** 47点の縄文土器が出土している。前期2点、中期24点、後期21点である。

**時期** 出土遺物と覆土の様子から、縄文時代後期と考えられる。



第7図 縄文時代土坑 (1/60)

1047号土坑

遺構 (第7図/図版2-6)

[位置] (E-3) グリッド。

[検出状況] 2区中央東側で検出された。

[構造] 平面形: 楕円形。断面形: 逆台形を呈する。壁面はなだらかに立ち上がり、底面は平坦である。

規模: 長軸 120cm/短軸 86cm/深さ 36cm。長軸方位: N-60°-W。

[覆土] 暗黄褐色土を主体とし、単層である。

[遺物] 3点の縄文土器が出土し、いずれも後期である。

[時期] 出土遺物と覆土の様子から、縄文時代後期と考えられる。

1048号土坑

遺構 (第7図/図版2-7・8)

[位置] (A-2) グリッド。

[検出状況] 2区北西側で検出された。東側を1028号土坑に切られる。

[構造] 平面形: 楕円形。断面形: 逆台形を呈し、壁面はなだらかに立ち上がり、底面は丸みを帯びる。

規模: 長軸現況 149cm/短軸 113cm/深さ 37cm。長軸方位: N-64°-W。

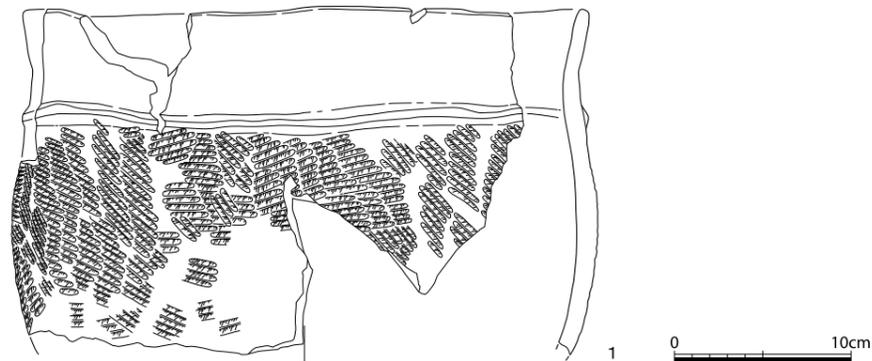
[覆土] 暗黄褐色土を主体とし、2層に分けられる。

[遺物] 8点の縄文土器、3点の礫が出土している。土器はいずれも中期のものである。

[時期] 出土遺物と覆土の様子から、縄文時代中期、加曾利E式期と考えられる。

遺物 (第8図/第5表/図版15-1)

1は、深鉢口縁部から胴上半部である。口縁部は無文体で胴部に縄文が施される。加曾利E IV式に比定される(埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1982)。



第8図 1048号土坑出土遺物(1/4)

遺物番号	器種	遺存部位	口径 器高 底径	出土位置	特徴・調整	胎土	焼成	色調
1	深鉢	口縁~胴部	(32.0) [19.6] —	上層	口縁部は無文体でその下端を隆帯により区画/胴部に無節Lを縦位~斜位に施文/中期・加曾利E IV式	砂粒多量/小石微量	良好	外面: 灰黄褐色/内面: にぶい橙色

第5表 1048号土坑出土遺物一覧

(3) ピット

本調査地で検出したピット 80本のうち、覆土の様子から 20本を縄文時代に帰属するものとした。これらのうち、遺物の出土したピットはほとんどないため、一覧表にて報告する。ピットのみならず、縄文時代の遺構の分布傾向全体に言えることではあるが、中央部にやや多く、北側にその分布が偏り、南端部にはほとんど遺構がみられない。遺物の出土傾向も同様で中央から北側に偏り、特に後期の遺物は中央部からの出土が顕著であった。確認されたピットに明確な配列などは認められなかった。

遺構名	グリッド	地区	平面形	長軸	短軸	深さ	備考
30P	D-6	1区	楕円形	42	41	29	土器2点
31P	D-6	1区	楕円形	69	65	28	土器1点
33P	D-6	1区	円形	63	58	61	土器4点
34P	E-6	1区	円形	47	41	15	
37P	D-5	1区	円形	55	45	73	
38P	D-5	1区	楕円形	58	41	42	土器10点
39P	C-5	1区	円形	54	47	39	土器4点
40P	C-5	1区	円形	48	48	82	
41P	C-5	1区	楕円形	57	45	48	
43P	E-4	1区	楕円形	60	45	28	土器3点
44P	D-5	1区	楕円形	53	42	45	土器4点
45P	E-5	1区	円形	52	50	46	土器3点
46P	E-5	1区	円形	46	38	23	
47P	E-4	1区	楕円形	42	32	51	土器3点
48P	C-4	1区	楕円形	59	48	64	土器7点
49P	B-4	1区	円形	36	32	23	土器3点
50P	E-5	1区	楕円形	88	50	73	土器7点
52P	C-4	1区	円形	43	37	30	土器1点
80P	C-2・3	2区	楕円形	57	39	49	土器15点
81P	C-3	2区	楕円形	85	65	84	土器27点

第6表 縄文時代ピット一覧

## 第2節 古墳時代後期～奈良・平安時代

### (1) 概要

古墳時代後期～奈良・平安時代の遺構として、住居跡2軒・掘立柱建築遺構1棟・溝状遺構1条、土坑1基を調査した。遺物は、遺構外出土も含め、古墳時代の土師器、奈良・平安時代の土師器・須恵器、石製品の砥石など、合計506点出土している。



第9図 古墳時代後期～奈良・平安時代遺構分布図 (1/200)

### (2) 住居跡

#### 293号住居跡

**遺構** (第10図/図版3-1・2)

**[位置]** (C・D-2・3) グリッド。

**[検出状況]** 2区中央北部で検出された。北東側を近代以降の造成により削平されている。

**[構造]** 平面形: 正方形。規模: 一辺3.45m前後と推測される。床面までの深さは約10?cm。主軸方位: N-22°-W。壁溝: なし。床面: 貼床。厚さは3cm前後。カマド: なし。北壁際の床面に焼土の分布がやや多く、北壁中央、あるいはやや西側に存在した可能性がある。柱穴: なし。

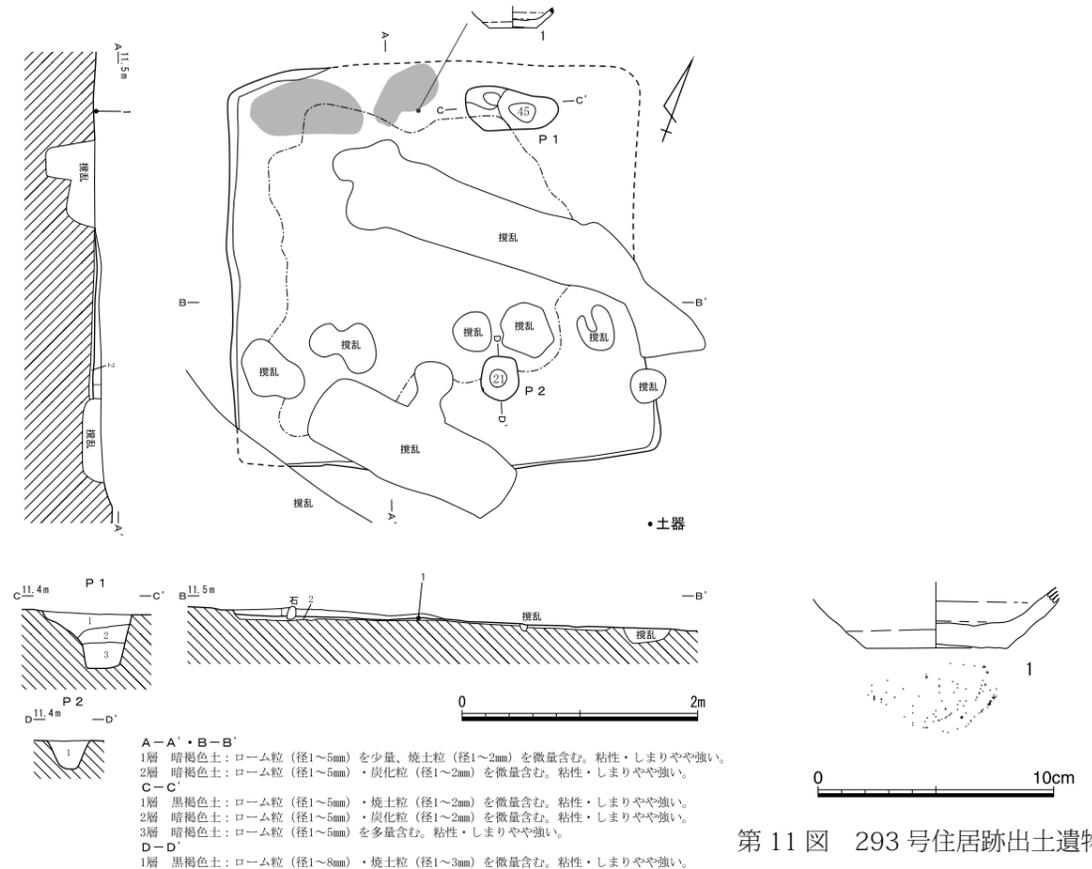
**[覆土]** 上面を削平されており、黒褐色土を主体とした床面直上層のみ残されていた。

**[遺物]** 41点の遺物が出土した。須恵器6点、土師器35点が出土している。

**[時期]** 数は少ないが出土遺物から平安時代と考えられる。

**遺物** (第11図/第7表/図版15-2)

1は須恵器坏底部である。底部は回転糸切痕が残り、内面には煤が付着する。



第10図 293号住居跡 (1/60)

遺物番号	器種	遺存部位	口径 器高 底径	出土位置	特徴・調整	胎土	焼成	色調
1	須恵器 坏	底部破片	— [2.6] (6.0)	北部床面	底部回転糸切/内面煤付着	細粗砂粒微量	良好	外面: 暗赤褐色 内面: 暗赤褐色

第7表 293号住居跡出土遺物一覧

294号住居跡

遺構 (第12～15図/図版3-3～6)

[位置] (E-3・4)グリッド。

[検出状況] 2区南東端部で検出した。南側を65号溝に切られる。

[構造] 平面形：隅丸長方形。規模：長軸(南北)約3.78m/短軸(東西)3.57m/床面までの深さ20cmを測る。主軸方位：N-99°-E。壁溝：カマド周縁部を除き全周する。幅10cm前後/深さ約5cm。床面：貼床。厚さは5～10cm。中央部に硬化面が検出されている。柱穴：南側に入り口施設と推定される1本が検出されている。カマド：住居跡東壁の中央よりやや南寄りに位置する。両袖が残存し、左袖は焼土で覆われる。焚口は幅約40cm、燃烧部長さは約80cmを測る。主軸方位：P1は南壁際中央に位置し、入り口施設と推定される。深さ46cmを測り、住居内に向かって傾斜をもっている。

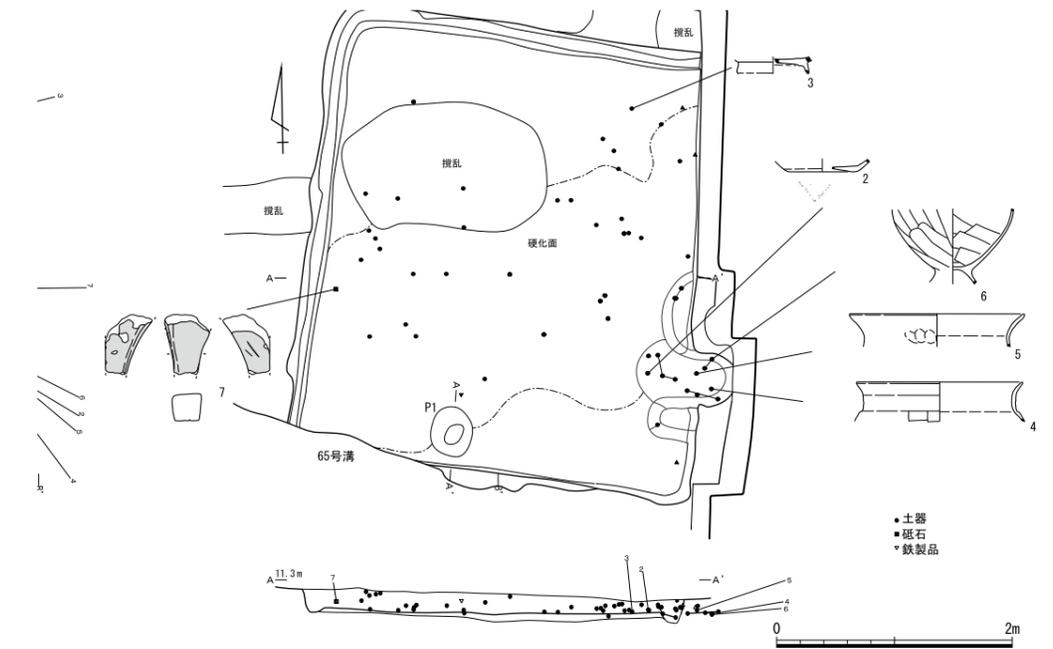
[覆土] 暗褐色土を主体とし、5層に分層される。

[遺物] 237点が出土した。土師器甕が多く、石製品の砥石が1点出土している。

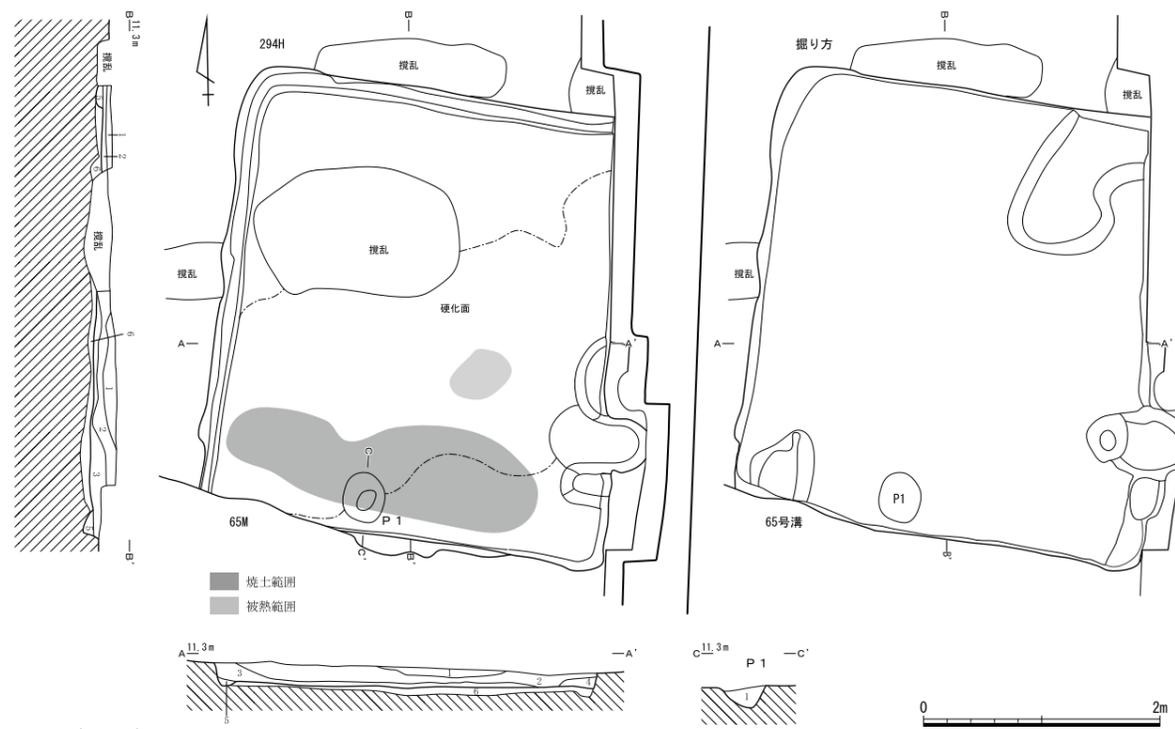
[時期] 平安時代(9世紀後葉)。

遺物 (第15図/第8表/図版15-3)

7点の遺物を図示した。1～3は須恵器坏で、1・2は底部糸切痕が残り、3は付高台である。4～6は土師器甕口縁部片、7は石製品砥石で4面研磨される。

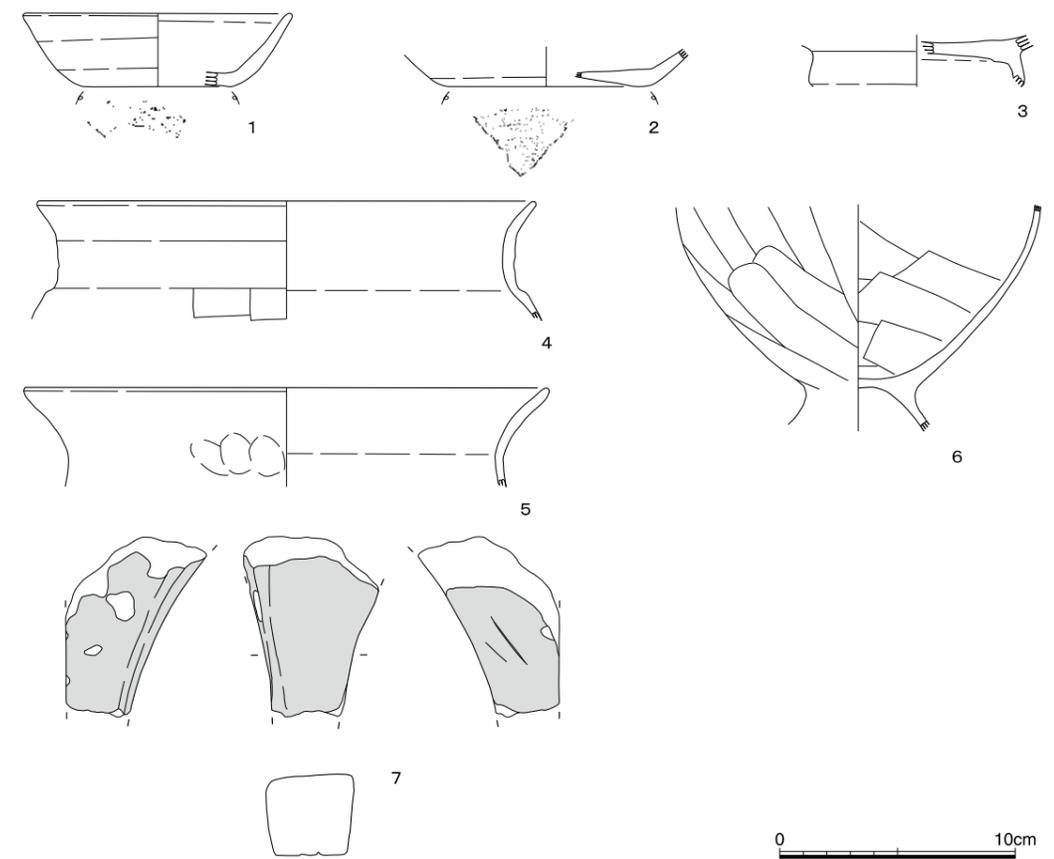


第13図 294号住居跡遺物出土状況(1/60)

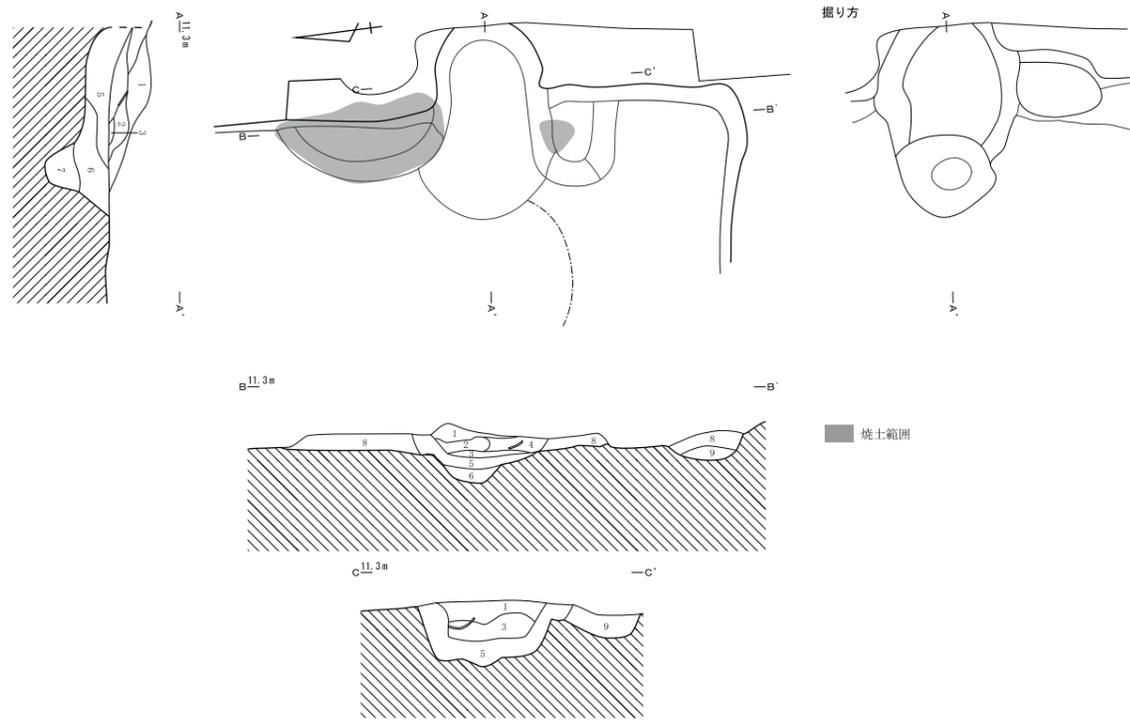


A-A'・B-B'  
 1層 黒褐色土：ローム粒(径1～3mm)を微量含む。粘性・しまりやや強い。  
 2層 暗褐色土：ローム粒(径1～3mm)・炭化粒(径1～2mm)を微量含む。粘性・しまりやや強い。  
 3層 暗褐色土：ローム粒(径1～3mm)を少量、焼土粒・炭化粒(径1～2mm)を微量含む。粘性・しまりやや強い。  
 4層 黒褐色土：ローム粒(径1～3mm)を微量、焼土粒・炭化粒(径1～5mm)を少量含む。粘性・しまりやや強い。  
 5層 暗褐色土：ローム粒(径1～10mm)を少量、炭化粒(径1～2mm)を微量含む。粘性・しまりやや強い。  
 6層 暗褐色土：ローム粒(径1～10mm)を多量含む。粘性・しまりやや強い。掘り方。  
 C-C'  
 1層 暗褐色土：ローム粒(径1～5mm)を少量含む。粘性・しまりやや強い。

第12図 294号住居跡(1/60)

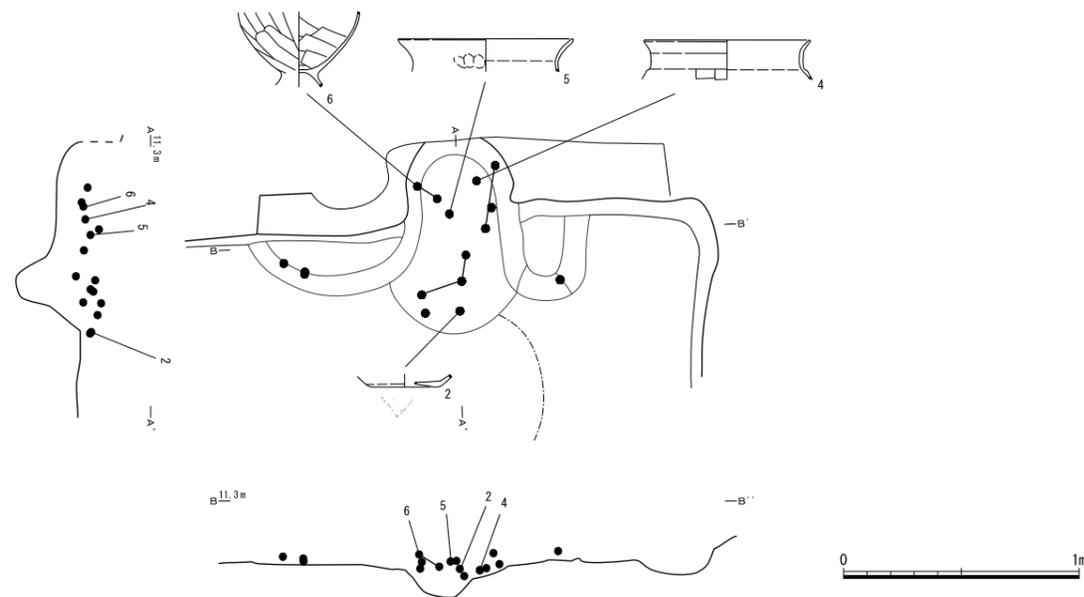


第14図 294号住居跡出土遺物(1/3)



- 1層 黒褐色土：ローム粒（径1～3mm）を微量含む。粘性・しまりやや強い。
- 2層 暗褐色土：ローム粒（径1～3mm）・炭化粒（径1～2mm）を微量含む。粘性・しまりやや強い。
- 3層 暗赤褐色土：ローム粒（径1～3mm）を少量、焼土粒・炭化粒（径1～2mm）を微量含む。粘性・しまりやや強い。
- 4層 暗赤褐色土：ローム粒（径1～3mm）を少量、焼土粒・炭化粒（径1～5mm）を少量含む。粘性・しまりやや強い。
- 5層 灰色粘土：ローム粒（径1～10mm）を少量、炭化粒（径1～2mm）を微量含む。粘性・しまりやや強い。
- 6層 黄褐色土：ローム粒（径1～3mm）を微量含む。粘性・しまりやや強い。
- 7層 黄褐色土：ローム粒（径1～3mm）・炭化粒（径1～2mm）を微量含む。粘性・しまりやや強い。
- 8層 暗褐色土：ローム粒（径1～3mm）を少量、焼土粒・炭化粒（径1～2mm）を微量含む。粘性・しまりやや強い。
- 9層 褐色土：ローム粒（径1～3mm）を少量、焼土粒・炭化粒（径1～5mm）を少量含む。粘性・しまりやや強い。

遺物出土状況



第15図 294号住居跡カマド (1/30)

遺物番号	器種	遺存部位	口径 器高 底径	出土位置	特徴・調整	胎土	焼成	色調
1	須恵器 坏	口縁部破片	(11.2) 3.1 (6.2)	南東 掘り方	底部回転糸切	細粗砂粒多量	良好	外面：暗灰色 内面：暗灰色
2	須恵器 坏	底部破片	[1.6] (8.2)	カマド	底部回転糸切	細粗砂粒少量	良好	外面：青灰色 内面：青灰色
3	須恵器 坏	底部破片	[2.2] (8.8)	下層	底部回転糸切後付高台	細粗砂粒少量	良好	外面：灰色 内面：灰色
4	土師器 甕	口縁部破片	(21.0) [5.05] —	カマド	口縁部横ナデ/体部横ヘラケズリ/外面煤付着	細粗砂粒多量	良好	外面：赤褐色 内面：赤褐色
5	土師器 甕	口縁部破片	(22.0) [4.2] —	カマド 掘り方	口縁部横ナデ/体部横ヘラケズリ	細粗砂粒多量	良好	外面：赤褐色 内面：赤褐色
6	土師器 甕	胴下部破片	[9.6] —	カマド	外面横・斜ヘラケズリ/内面横ナデ/外面煤付着/脚部1/4残存	細粗砂粒多量	良好	外面：赤褐色 内面：赤褐色

遺物番号	種別	材質	出土位置	最大長	最大幅	最大厚	重量	特徴
7	砥石	凝灰岩	中層	[60.0]	[72.0]	[62.0]	[195.0]	4面研磨。

第8表 294号住居跡出土遺物一覧

(3) 掘立柱建築遺構

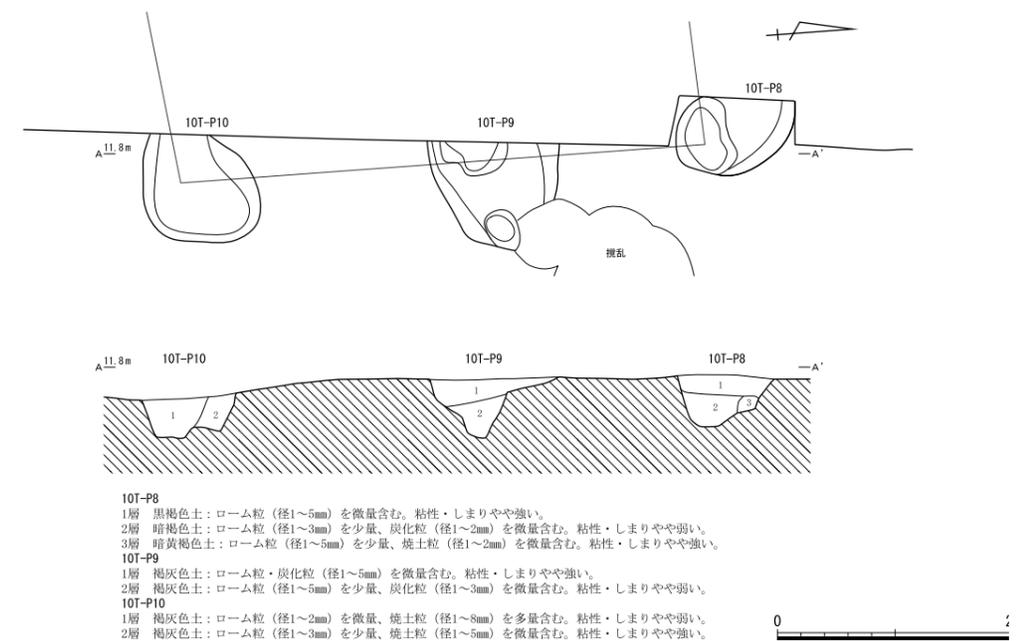
10号掘立柱建築遺構

遺 構 (第16図/図版3-7・8、4-1・2)

[位 置] (B・C-5・6) グリッド。

[検出状況] 1区中央西部で検出された。西隣の79次調査において、P1～P7までが調査されている。P8～10のいずれも西側は調査区外に至る。

[構 造] 平面形：それぞれの柱穴はいずれも楕円形を呈する。いずれも全容は明らかになっていないが、P8・長軸109cm以上、P9・長軸100cm以上、P10・長軸101cm以上と大型である。規模：確認された3本の柱穴の南北長は5.60mを測り、南北の柱穴間の距離は約2.2m前後と推定される。



- 10T-P8
  - 1層 黒褐色土：ローム粒（径1～5mm）を微量含む。粘性・しまりやや強い。
  - 2層 暗褐色土：ローム粒（径1～3mm）を少量、炭化粒（径1～2mm）を微量含む。粘性・しまりやや弱い。
  - 3層 暗黄褐色土：ローム粒（径1～5mm）を少量、焼土粒（径1～2mm）を微量含む。粘性・しまりやや強い。
- 10T-P9
  - 1層 褐灰色土：ローム粒・炭化粒（径1～5mm）を微量含む。粘性・しまりやや強い。
  - 2層 褐灰色土：ローム粒（径1～5mm）を少量、炭化粒（径1～3mm）を微量含む。粘性・しまりやや弱い。
- 10T-P10
  - 1層 褐灰色土：ローム粒（径1～2mm）を微量、焼土粒（径1～8mm）を多量含む。粘性・しまりやや弱い。
  - 2層 褐灰色土：ローム粒（径1～3mm）を少量、焼土粒（径1～5mm）を微量含む。粘性・しまりやや強い。

第16図 10号掘立柱建築遺構 (1/60)

確認面から底部までの深さはP 8・35cm、P 9・50cm、P 10・40cmである。主軸方位：N-8°-W。

[覆 土] 黒褐色土を主体とし、2～3層に分層される。

[遺 物] いずれも細片で図示していないが、P 8から須恵器坏1点、P 10から須恵器坏3点が出土している。

[時 期] 出土遺物から平安時代と推定される。

(4) 溝 跡

64号溝

[遺 構] (第18図/図版4-3～5)

[位 置] (C・D-5～7) グリッド。

[検出状況] 1区中央西部で検出された。西側は調査区外に至り、北側で995号・1000号土坑に切れ、中央部で1004号土坑を切り、南側で50号井戸に切られる。南端部は近代以降の造成により削平されている。

[構 造] 平面形：円形にめぐる溝状を呈し、その北東部分が検出されている。復原径では内径で約18mとなる。断面形：箱型を呈する。規模：幅115cm、深さ35cmを測り、確認された全長は16mである。走行方位：不明。硬化面：確認されていない。

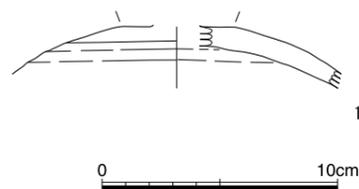
[覆 土] 褐灰色土を主体とし、3層に分層される。

[遺 物] 須恵器9点、土師器15点が出土している。

[時 期] 出土遺物から、古墳時代以降のものと推定される。また、1004号土坑を切っており、1004号土坑は6世紀中頃の甑1個体がほぼ完形で正位でつぶれた状態で出土していることから、本溝の掘削は6世紀後半以降と推定される。

[遺 物] (第17図/第9表/図版15-4)

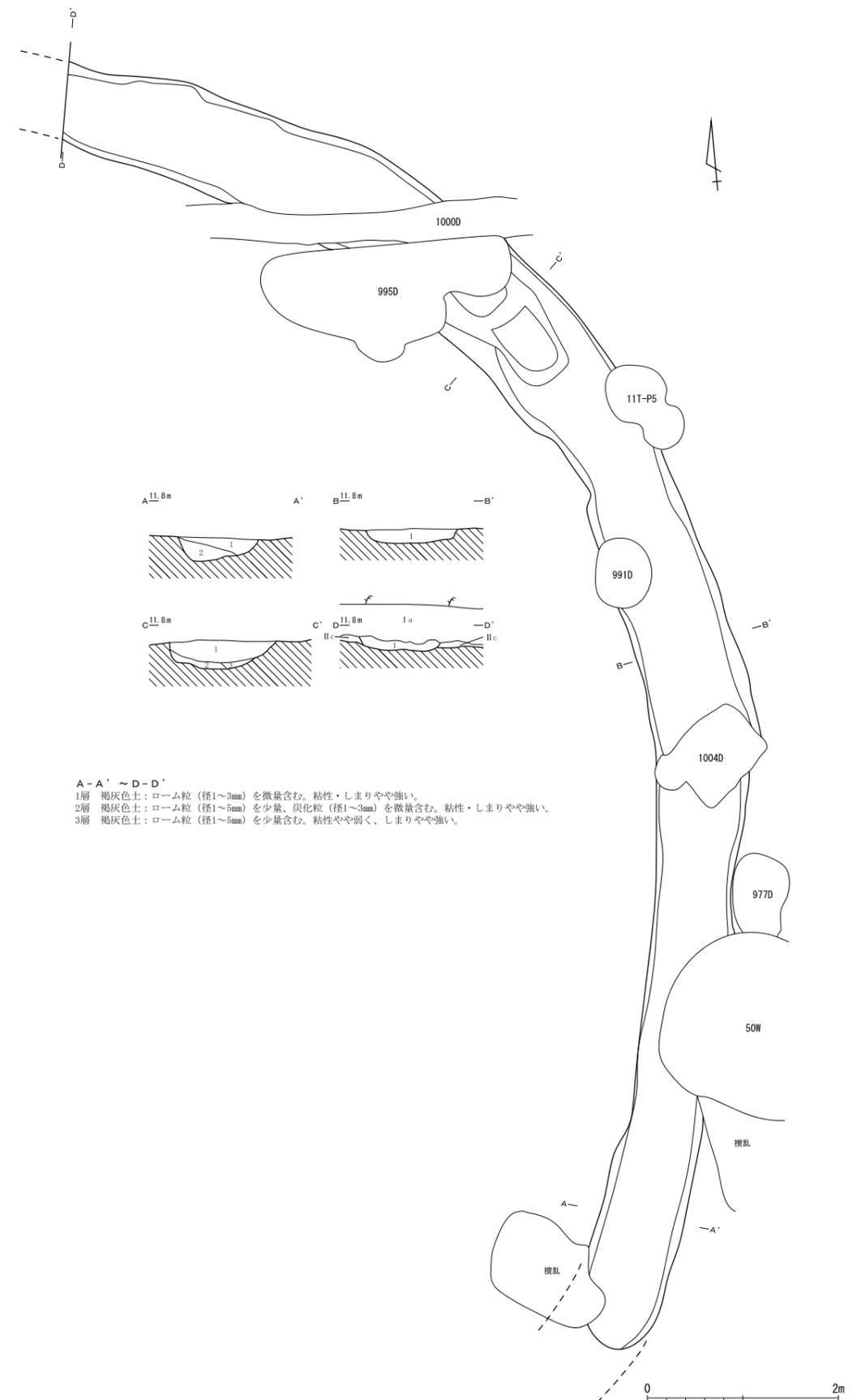
1は須恵器碗蓋形土器である。天井部にヘラケズリが施され、外面は2次被熱のために赤褐色を呈する。



第17図 64号溝跡出土遺物(1/3)

遺物番号	器種	遺存部位	口径 器高	出土位置	特徴・調整	胎土	焼成	色調
1	須恵器蓋	天井部片	— [2.65]	北側	天井部ヘラケズリ	細粗砂粒少量	良好	外面：赤褐色 内面：灰色

第9表 64号溝跡出土遺物一覧



第18図 64号溝状遺構(1/60)

A-A' ~ D-D'  
 1層 褐灰色土：ローム粒（径1～3mm）を微量含む。粘性・しまりやや強い。  
 2層 褐灰色土：ローム粒（径1～5mm）を少量、炭化粒（径1～3mm）を微量含む。粘性・しまりやや強い。  
 3層 褐灰色土：ローム粒（径1～5mm）を少量含む。粘性やや弱く、しまりやや強い。

(5) 土 坑

1004号土坑

[遺 構] (第19図/図版4-6~8)

[位 置] (D-6) グリッド。

[検出状況] 1区中央部で検出された。64号溝に切られる。

[構 造] 平面形：正方形。規模：長軸113cm、短軸76cmを測る。確認面から底部までの深さは約97cmである。主軸方位：N-47°-E。

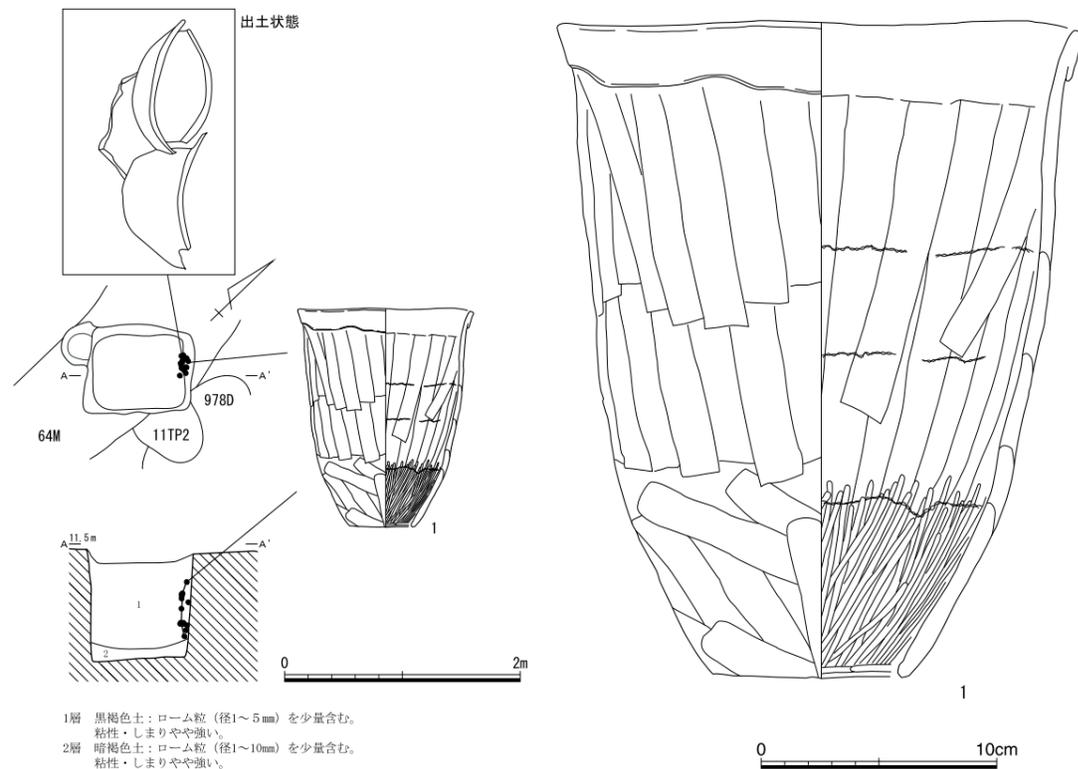
[覆 土] 黒褐色土を主体として2層に分層される。

[遺 物] 土師器7点が出土しているが、そのうち甑形土器1点が実測可能となった。64号遺構に上面を削平されていたが、甑形土器は土坑北側上位から下位にかけて、正位の状態で出土している。

[時 期] 古墳時代後期後半(6世紀中葉)。

[遺 物] (第20図/第10表/図版15-5)

1はほぼ完形の土師器甑形土器である。土坑北東端で口縁部を上に向け、正位でつぶれた状態で上層から下層にかけて出土している。



第19図 1004号土坑(1/60)

第20図 1004号土坑出土遺物(1/3)

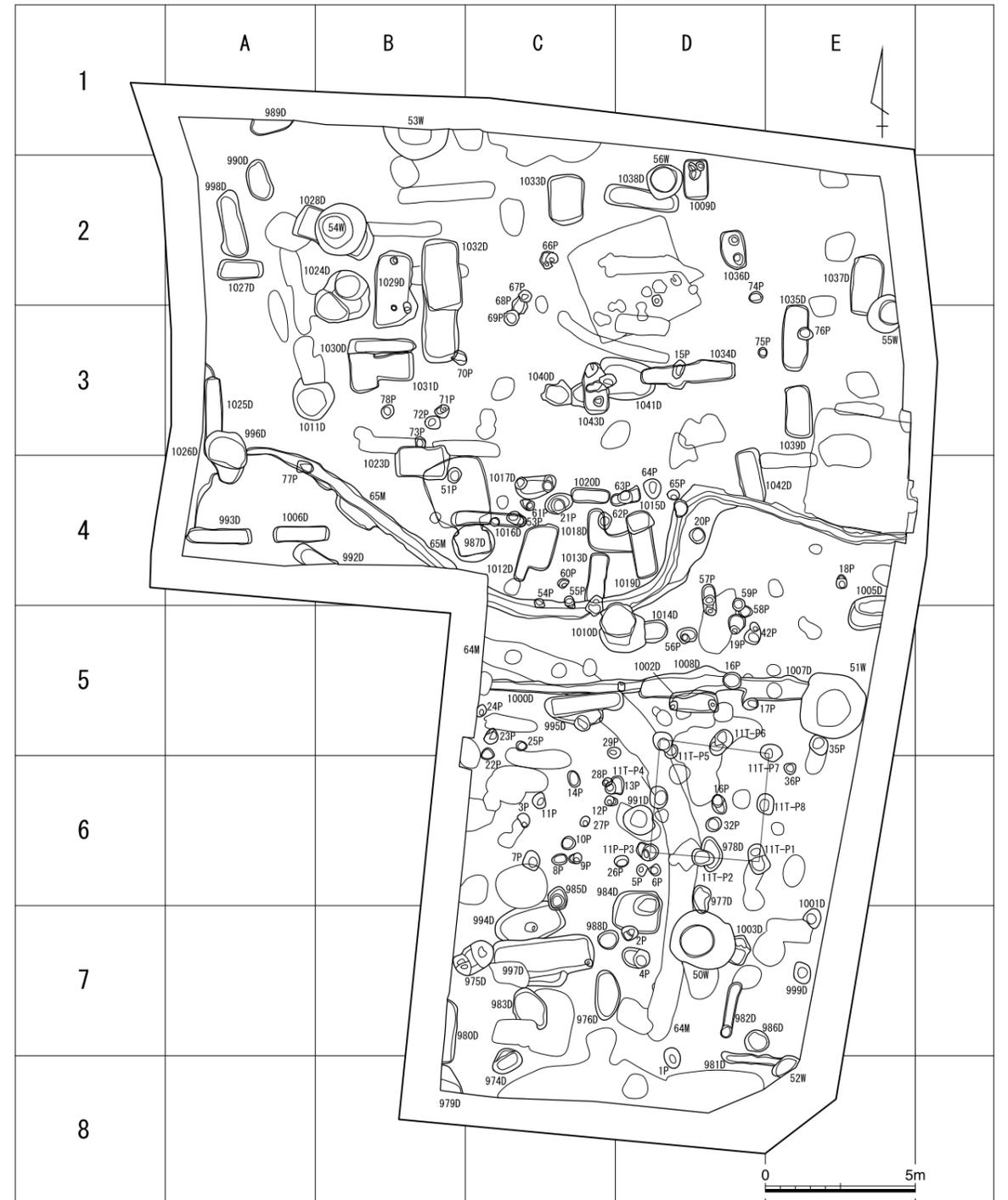
遺物番号	器種	遺存部位	口径器高	出土位置	特徴・調整	胎土	焼成	色調
1	土師器甑	完形	-		外面縦・斜ヘラケズリ/内面上部縦ナデ・下部縦ヘラミガキ	細粗砂粒少量	良好	外面：赤褐色 内面：灰色

第10表 1004号土坑出土遺物一覧

第3節 中世以降

(1) 概 要

中世以降の遺構として、掘立柱建築遺構1棟・井戸跡7基・溝状遺構1条・土坑68基・ピット54本を調査した。遺物は遺構外出土も含め、中世の陶器、板碑を含む石製品、鉄製品、近世の陶磁器など合計338点が出土した。



第21図 中世以降遺構分布図(1/200)

(2) 掘立柱建築遺構

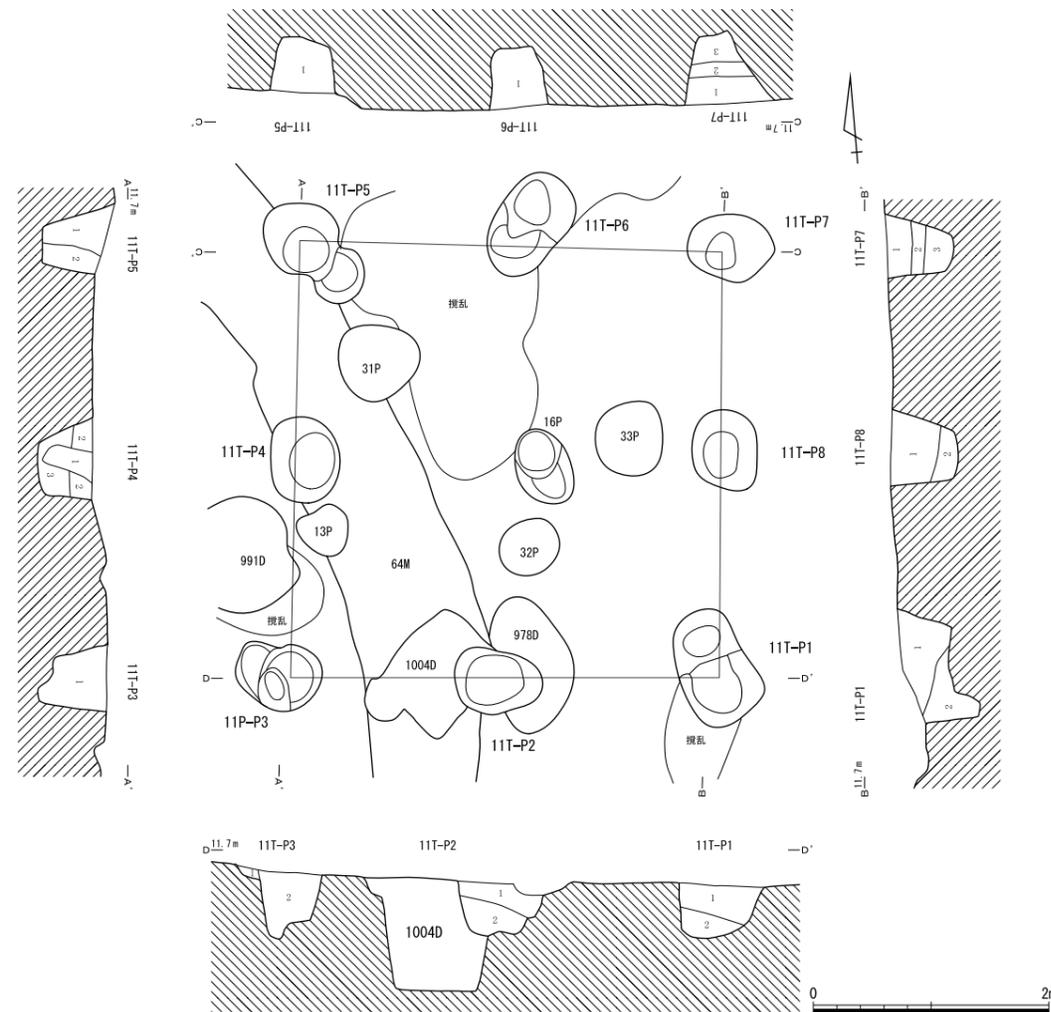
11号掘立柱建築遺構

遺 構 (第22図/図版5-1)

[位 置] (D・E-5・6) グリッド。

[検出状況] 1区中央東部で検出された。8本の柱穴が確認された。P1・P4は上部を攪乱に切れ、P2は東側を978号土坑に切れ、西側で1004号土坑・64号溝を切る。

[構 造] 平面形：桁行2間・梁行2間の側柱建物で、一辺4.5m四方の正方形である。中央部分に16号ピットが認められるが、やや軸のずれた位置関係と覆土の色調などが異なることから、建物跡には含まれず、総柱建物ではないと想定される。規模：一辺4.5m前後と推測される。8本の柱穴は平面



- P1 1層 褐灰色土：ローム粒（径1～5mm）を微量含む。粘性・しまりやや弱い。  
2層 褐灰色土：ローム粒（径1～8mm）を多量、炭化粒（径1～3mm）を微量含む。粘性・しまりやや強い。
- P2 1層 褐灰色土：ローム粒・炭化粒（径1～5mm）を微量、円礫（1～2cm）を少量含む。粘性・しまりやや強い。  
2層 褐灰色土：ローム粒（径1～8mm）を多量、炭化粒（径1～3mm）を微量含む。粘性・しまりやや強い。
- P3 1層 褐灰色土：ローム粒（径1～5mm）を少量、円礫（1～2cm）を少量含む。粘性・しまりやや強い。  
2層 褐灰色土：ローム粒（径1～5mm）を多量、炭化粒（径1～3mm）を微量含む。粘性・しまりやや強い。
- P4 1層 褐灰色土：ローム粒（径1～5mm）・炭化粒（径1～2mm）を微量含む。粘性・しまりやや強い。  
2層 褐灰色土：ローム粒（径1～8mm）・炭化粒（径1～3mm）を少量含む。粘性・しまりやや強い。
- P5 3層 褐灰色土：ローム粒（径1～8mm）を多量含む。粘性強く、しまりやや強い。
- P6 1層 褐灰色土：ローム粒（径1～10mm）を多量、炭化粒（径1～2mm）を微量含む。粘性・しまりやや強い。  
2層 褐灰色土：ローム粒（径1～5mm）を多量含む。粘性・しまりやや強い。
- P7 1層 褐灰色土：ローム粒（径1～8mm）を少量、ロームブロック（径1～2cm）・炭化粒（径1～5mm）を微量含む。粘性・しまりやや強い。  
2層 褐灰色土：ローム粒（径1～8mm）・焼土粒（径1～2mm）を微量含む。粘性・しまりやや強い。  
3層 褐灰色土：ローム粒（径1～8mm）を多量含む。粘性・しまりやや強い。  
4層 黒色土：ローム粒（径1～10mm）を多量、ロームブロック（径1～2cm）を少量含む。粘性・しまりやや強い。
- P8 1層 褐灰色土：ローム粒（径1～8mm）を少量含む。粘性・しまりやや強い。  
2層 褐灰色土：ローム粒（径1～5mm）、炭化粒（径1～2mm）を微量含む。粘性・しまりやや強い。

第22図 11号掘立柱跡 (1/60)

形は楕円形を呈し、規模は72～102cmを測る。確認面から柱穴底部までの深さは50～66cmである。柱穴間の距離は約1.9mと推定される。主軸方位：N-7°-E。

[覆 土] 褐灰色土を主体とした3層に分層される。

[遺 物] 図示できるものはないが、近世の陶器2点、P1・2から1点ずつ出土している。

[時 期] 切り合いからは周囲の遺構の中で最も新しい遺構と判断され、近世以降と推定される。

(3) 井戸跡

50号井戸跡

遺 構 (第25図/図版5-2)

[位 置] (D-7) グリッド。

[検出状況] 1区中央南部で検出された。977号土坑に切れ、1003号土坑、64号溝を切る。

[構 造] 平面形：円形を呈し、上部はやや播鉢状に広がり、下部は垂直に掘り込まれる。規模：長軸2.19m、短軸1.84mを測る。深さは確認面から1.19mまでは人力掘削により確認したが、それ以下は安全を考慮して掘削していない。長軸方位：N-72°-W。

[覆 土] 黒褐色土を主体として4層に区分される。

[遺 物] 近世の陶器・土器が15点、石製品板碑片が2点出土している。

[時 期] 切り合いから周囲の最も新しい遺構と判断されるため、近世以降と推定される。

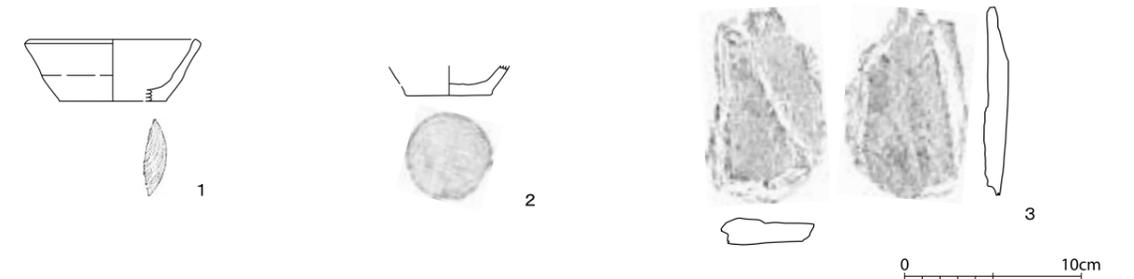
遺 物 (第23図/第11表/図版16-1)

1・2は土器かわらけ小皿である。3は緑泥片岩の板碑片である。

51号井戸跡

遺 構 (第25図/図版5-3)

[位 置] (E-5) グリッド。



第23図 50号井戸跡出土遺物 (1/4)

遺物番号	器種	遺存部位	口径 器高 底径	出土位置	特徴・調整	胎土	焼成	色調
1	土器 かわらけ	口縁～底部 破片	(10.0) 3.5 (6.0)	覆土	底部は回転糸切り(右回転) / 在地系	細砂微量	良	外面：橙色 内面：橙色
2	土器 かわらけ	体部～底部	[1.7] 4.8	覆土	底部は回転糸切り(右回転) / 在地系	細砂微量	良	外面：橙色 内面：橙色
遺物番号	種別	石材	出土位置	最大長	最大幅	最大厚	重量	特徴・調整
3	板碑	緑泥片岩	覆土	10.60	5.82	1.51	130.6	武蔵型板碑片。

第11表 50号井戸跡出土遺物一覧

[検出状況] 1区中央東部で検出された。西側で1007号土坑を切る。

[構造] 平面形:円形を呈し、断面形は上部はやや播鉢状に広がり、下部は垂直に掘り込まれる。規模:長軸2.15m、短軸2.12mを測り、深さは確認面から1.40mまでは人力掘削により確認したが、それ以下は安全を考慮して掘削していない。長軸方位:N-19°-E。

[覆土] 黒褐色土を主体として3層に区分される。

[遺物] なし。

[時期] 覆土の様相から中世以降と推定される。

52号井戸跡

[遺構] (第25図/図版5-4・5)

[位置] (E-8)グリッド。

[検出状況] 1区南東隅部で検出された。西側で981号土坑を切り、南東側は調査区外に至る。

[構造] 平面形:北西部の一部が確認され、楕円形を呈する。規模:確認された規模は長軸0.97m、短軸0.49mを測る。深さは確認面から1.10m、地表面から1.7mまで掘削したが底部は確認されなかった。長軸方位:不明。

[覆土] 黒褐色土を主体とした単層である。

[遺物] 近世の陶器1点、石製品五輪塔の水輪部分1点が出土している。

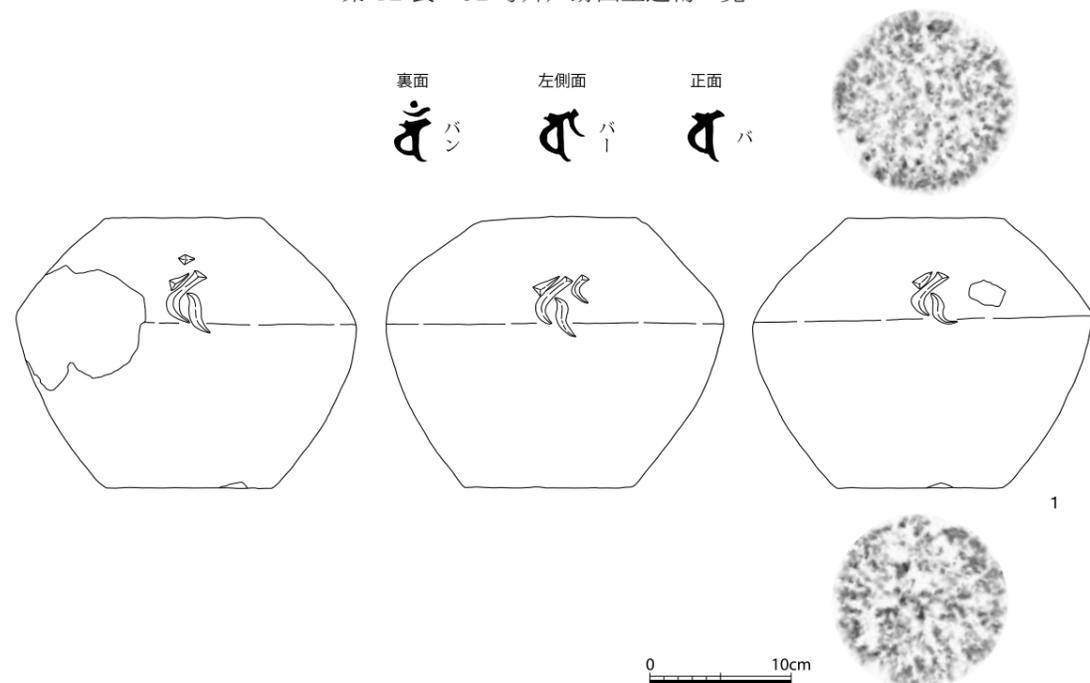
[時期] 出土遺物と覆土の様相から中世以降と推定される。

[遺物] (第25図/第12表/図版16-2)

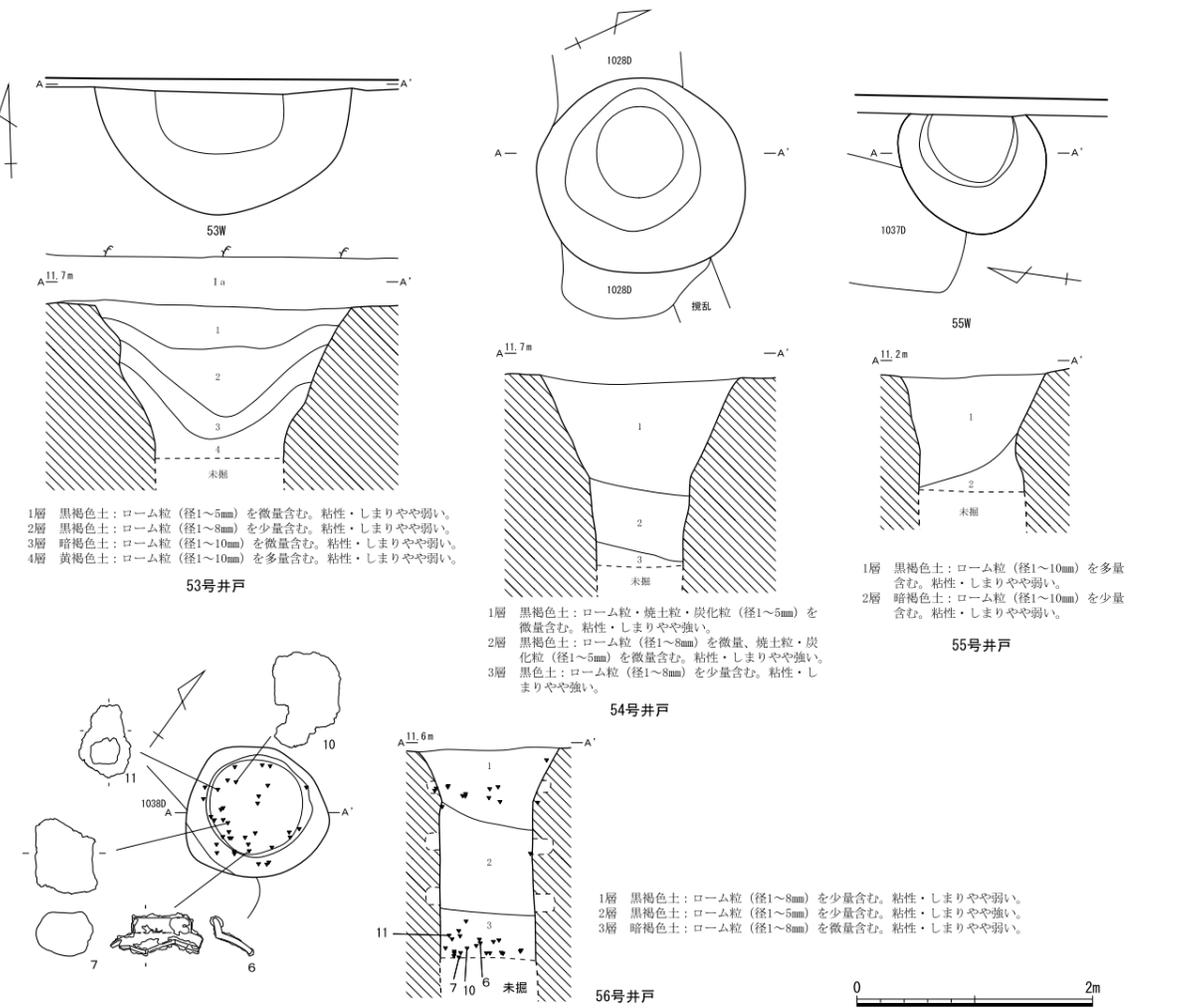
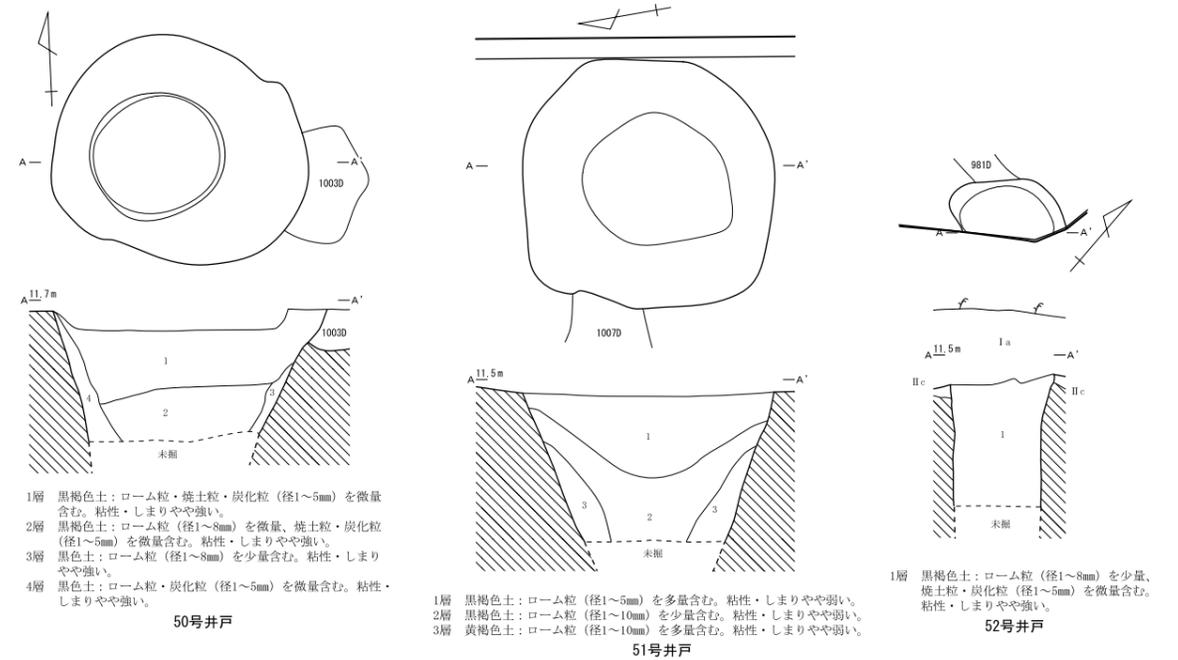
1は五輪塔の水輪である。四方に梵字が彫られていたと推定されるが、右側面は欠損している。

番号	種別	出土位置	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	特徴
1	五輪塔	-	23.80	24.00	19.20	14200	水輪部。側面3方に梵字が彫られる。

第12表 52号井戸跡出土遺物一覧



第24図 52号井戸跡出土遺物 (1/5)



第25図 50～56号井戸跡 (1/60)

### 53号井戸跡

**遺構**（第25図／図版5－6）

〔位置〕（B－1・2）グリッド。

〔検出状況〕2区中央西部で検出された。北半部は調査区外に至る。

〔構造〕平面形：確認されたのは南半分で円形を呈する。上部はやや播鉢状に広がり、下部は垂直に掘り込まれる。規模：長軸2.16 m、確認された短軸1.10 mを測る。深さは確認面から1.37 m、地表面から1.7 mまで掘削したが底部は確認されなかった。長軸方位：不明。

〔覆土〕黒褐色土を主体として4層に区分される。

〔遺物〕なし。

〔時期〕覆土の色調から中世以降と推定される。

### 54号井戸跡

**遺構**（第25図／図版5－7）

〔位置〕（B－2）グリッド。

〔検出状況〕2区北西部で検出された。1028号土坑を切る。

〔構造〕平面形：円形を呈し、上部はやや播鉢状に広がり、下部は垂直に掘り込まれる。規模：一長軸1.74 m、短軸1.65 mを測る。深さは確認面から143 mまで掘削したが底部は確認されなかった。

長軸方位：N－23°－E。

〔覆土〕黒褐色土を主体として3層に区分される。

〔遺物〕図示していないが、近世の陶器・土器4点が出土している。

〔時期〕覆土の色調と出土遺物から近世以降と推定される。

### 55号井戸跡

**遺構**（第25図／図版5－8）

〔位置〕（E－2・3）グリッド。

〔検出状況〕2区北東部で検出された。西側で1037号土坑を切り、東側は調査区外に至る。

〔構造〕平面形：西側半分が確認されていると想定され、楕円形を呈する。規模：南北1.28 m、確認された東西1.04 mを測る。深さは確認面から1.10 m、地表面から約1.6 mまで掘削したが底部は確認されなかった。長軸方位：N－4°－W。

〔覆土〕黒褐色土を主体として2層に区分される。

〔遺物〕図示していないが、近世の陶器1点が出土している。

〔時期〕覆土の色調と出土遺物から近世以降と推定される。

### 56号井戸跡

**遺構**（第25図／図版6－1）

〔位置〕（D－2）グリッド。

〔検出状況〕2区中央東部で検出された。南側で1038号土坑を切る。

〔構造〕平面形：楕円形を呈し、壁面はほぼ垂直に掘り込まれる。規模：長軸1.20 m、短軸1.11

mを測る。深さは確認面から1.80 mまで掘削したが底部は確認されなかった。長軸方位：N－66°－E。

〔覆土〕黒褐色土を主体とし、3層に分層した。

〔遺物〕近世の陶磁器128点、鉄製品43点、土製品2点が出土している。

〔時期〕出土遺物は17世紀後葉の陶磁器が主体となるため、17世紀末から18世紀前半に廃絶されたものと推定される。

**遺物**（第26図／第13表／図版17－1）

1は肥前系の陶器皿で、内面に目跡2点が認められる。2は瀬戸・美濃系の陶器播鉢である。3は中国産の磁器皿で景德鎮窯と推定される。4は土器・内耳鍋である。5・6は鉄製品である。5は器種不明、6は壺状容器の口縁部と推定される。

7～11は鑄造関連遺物である。破片が多く出土しているが、接合資料はほとんどなく、大型の破片、成形された部分が確認できるものを中心に図示した。7～9は鑄型・常盤と推定される土製品、10・11は炉壁の一部と推定される。10・11の中心部には炭化材が含まれ、砂状の炉材と流動鉄滓の界面が確認される。

遺物番号	種別	器種	遺存部位	出土位置	特徴	推定産地	時期
1	陶器	鉢	体部～底部破片	下層	内面：白泥／灰釉、外面：錆釉	肥前	17世紀後半
2	陶器	播鉢	口縁～体部破片	上層	播り目／錆釉	瀬戸・美濃	17世紀後半
3	磁器	皿	口縁～底部破片	上層	染付／体部外面にも文様	肥前	17世紀後半
4	土器	焙烙	口縁～底部破片	上層	瓦質／口縁部は底部から垂直気味に立ち上がる／内耳断面は長方形	在地系	17世紀

遺物番号	遺物種別	出土位置	最大長	最大幅	最大厚	重量	特徴
5	鉄製品	下層	[6.8]	[4.4]	0.4	[36.0]	側面・上面の一部が残存。
6	鉄製品	下層	[3.3]	[8.1]	0.4	[44.0]	口縁部・頸部の一部が残存しており、壺状容器と推定。
7	常盤か	下層	[6.2]	[5.1]	3.7	[70.0]	側面4面が残存し、上・下部を欠く。
8	鑄型か	下層	[6.4]	[6.1]	4.4	[112.0]	上面一部が残存。
9	鑄型か	下層	[7.0]	[5.7]	4.4	[152.0]	上面・側面の一部が残存。
10	鉄滓	下層	[16.2]	[11.6]	5.6	[647.0]	炉材と流動滓。楕円形の炉材との界面が確認でき、中央に炭化材を含む。
11	鉄滓	上層	[12.3]	[9.2]	7.3	[796.0]	炉材と流動滓。中央部に穴があり、内面にガラス化したものが付着。

第13表 56号井戸跡出土遺物一覧

## （4）溝跡

### 65号溝跡

**遺構**（第27図／図版6－2）

〔位置〕（A・B－4、C－4・5、D・E－4）グリッド。

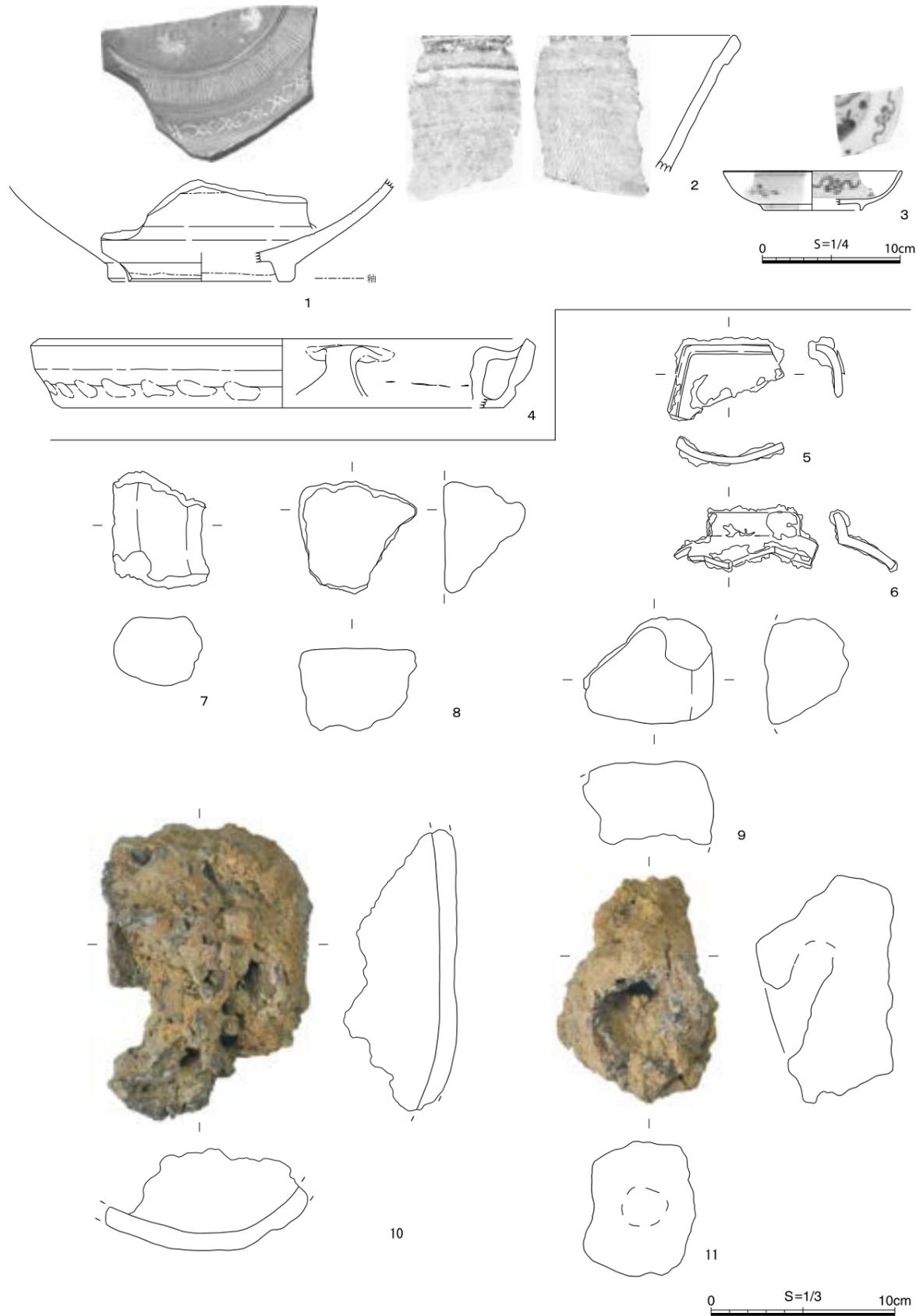
〔検出状況〕2区南側、1区北端で検出された。北側を近代以降の造成により削平されている。西端を996号土坑に切られ、東端は調査区外に至る。

〔構造〕平面形：S字状に蛇行する東西方向の溝である。規模：東西21.83 m、幅は最も広い部分で58cmを測る。底面までの深さは約64cmである。

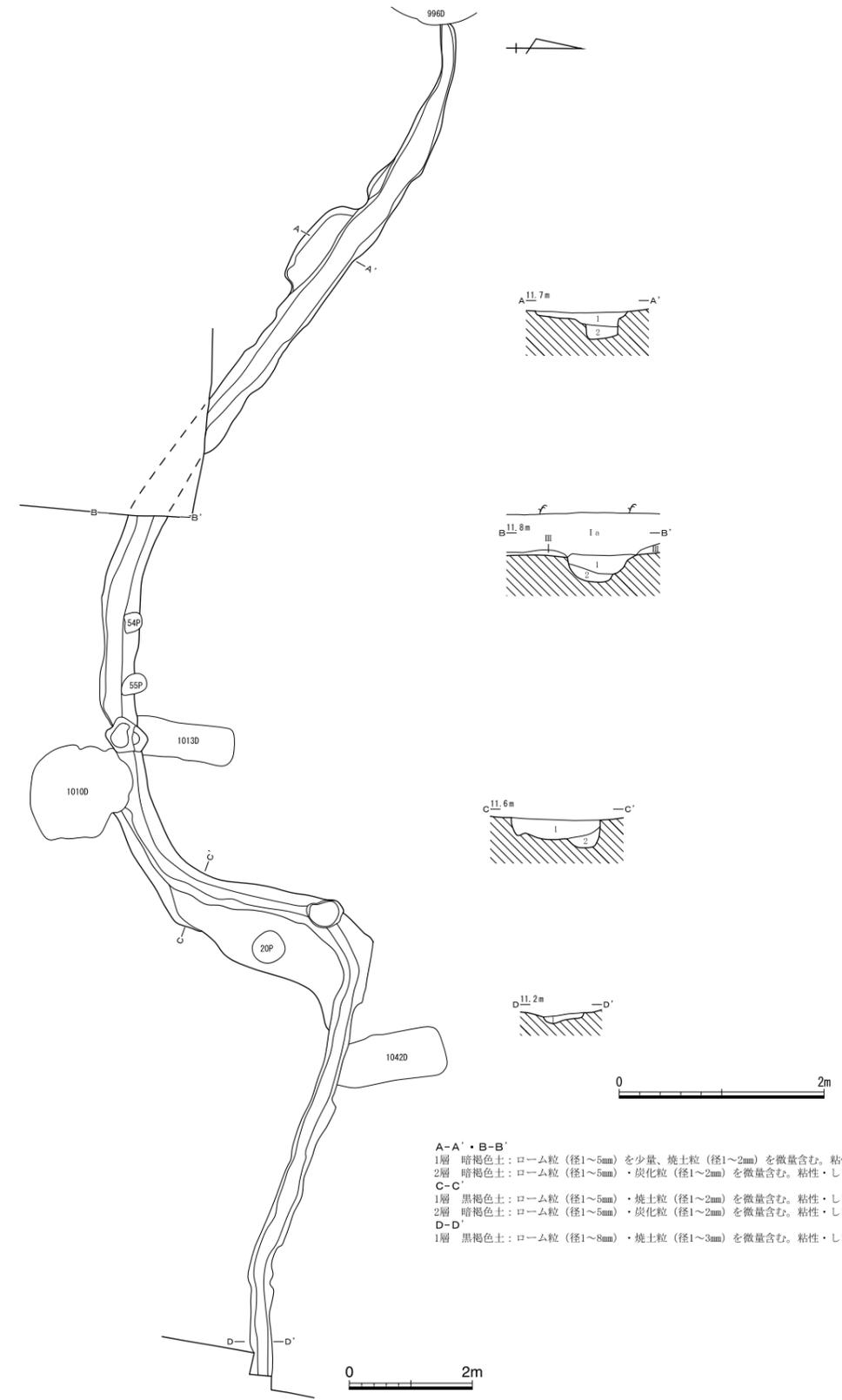
〔覆土〕黒褐色土・暗褐色土を主体とした単層、あるいは2層に分層される。

〔遺物〕90点の遺物が出土しているが、縄文土器75点、奈良・平安時代の土師器9点、近世の陶器5点、石製品砥石が1点出土している。近世の遺物は18世紀代の磁器碗や、17世紀後葉の陶器、瀬戸・美濃系播鉢などである。

〔時期〕出土遺物から近世以降と推定される。



第26図 56号井戸跡出土遺物 (1/3・1/4)



A-A'・B-B'  
 1層 暗褐色土：ローム粒（径1～5mm）を少量、焼土粒（径1～2mm）を微量含む。粘性・しまりやや強い。  
 2層 暗褐色土：ローム粒（径1～5mm）・炭化粒（径1～2mm）を微量含む。粘性・しまりやや強い。  
 C-C'  
 1層 黒褐色土：ローム粒（径1～5mm）・焼土粒（径1～2mm）を微量含む。粘性・しまりやや強い。  
 2層 暗褐色土：ローム粒（径1～5mm）・炭化粒（径1～2mm）を微量含む。粘性・しまりやや強い。  
 D-D'  
 1層 黒褐色土：ローム粒（径1～8mm）・焼土粒（径1～3mm）を微量含む。粘性・しまりやや強い。

第27図 65号溝跡 (1/100)

(5) 土 坑

中世以降の土坑は時期を確定しうる遺物の出土が少ないため、帰属時期の認定は覆土の特徴に拠るところが大きい。ここでは形態による分類を行い、そのグループごとに報告する。分類については、本遺跡第42地点（尾形・深井・青木編 2005）に準拠する。以下、分類項目と該当遺構を示す。

- A 群 平面方形の土坑
  - 1 類 袋状の土坑（本調査地点では該当遺構なし）
  - 2 類 袋状ではなく、単純構造を呈する
- B 群 平面長方形の土坑
  - 1 類 溝状の土坑（本調査地点では該当遺構なし）
  - 2 類 幅狭の長方形土坑
  - 3 類 幅広の長方形土坑
- C 群 平面円形・楕円形の土坑
- D 群 不整形の土坑
- E 群 地下室・地下坑
  - 1 類 1 豎坑 1 主体部タイプ
  - 2 類 1 豎坑複数主体部タイプ（本調査地点では該当遺構なし）

分類	形状	数量	番号
A 群 1 類	平面方形	袋状	0
A 群 2 類		単純構造	2
B 群 1 類	平面長方形	溝状	0
B 群 2 類		幅狭長方形	19
B 群 3 類		幅広長方形	11
C 群	平面円形・楕円形		28
D 群	不整形		6
E 群 1 類	地下室・地下坑	単一主体部	1
E 群 2 類		複数主体部	0
計			67

第 14 表 土坑一覧表（中世以降）

A 群 方形の土坑

2 類 単純構造

980 号土坑

**遺 構**（第 28 図／図版 6－3）

**〔位 置〕**（B－7・8）グリッド。

**〔検出状況〕** 1 区南西側で検出された。西側は調査区外に至る。

**〔構 造〕** 平面形：確認された範囲では全容は明らかとはならないが、ボーリングピンでの調査では西側に 1 m 以上の奥行きを持つことから、方形と判断している。**断面形**：皿形を呈する。壁面はなだらかに立ち上がり、底面はほぼ平坦である。**規模**：長軸 201cm／短軸現況 37cm／深さ 25cm。**長軸方位**：N－5°－W。

**〔覆 土〕** 暗褐色土を主体とした単層である。

**〔遺 物〕** なし。

**〔時 期〕** 覆土の様子から中世以降と考えられる。

984 号土坑

**遺 構**（第 28 図／図版 6－4）

**〔位 置〕**（D－6・7）グリッド。

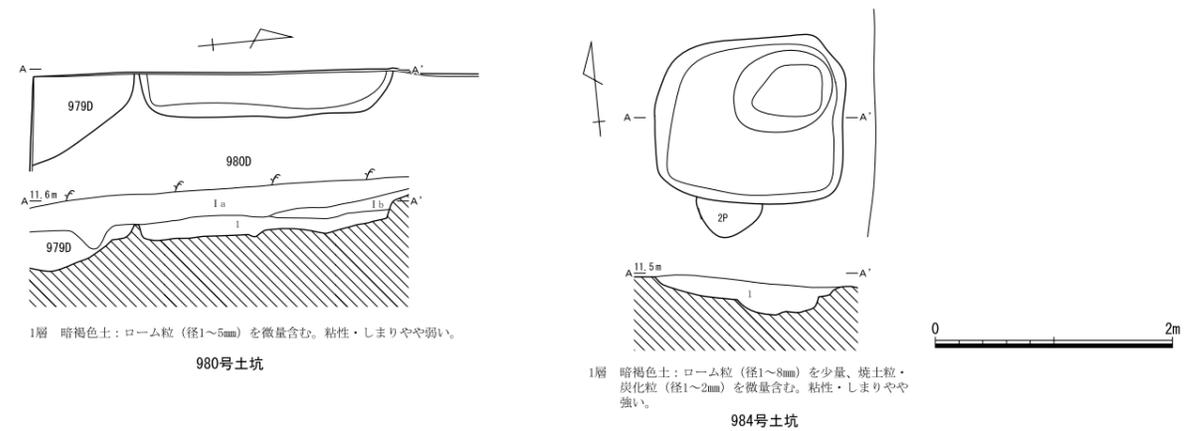
**〔検出状況〕** 1 区中央南側で検出された。南側で 2 号ピットを切る。

**〔構 造〕** 平面形：正方形である。**断面形**：逆台形を呈し、壁面はなだらかに立ち上がり、底面はほぼ平坦である。北東部に径 80cm、深さ約 10cm の掘り込みを持つ。**規模**：長軸 160cm／短軸 140cm／深さ 47cm。**長軸方位**：N－9°－E。

**〔覆 土〕** 暗褐色土を主体とした単層である。

**〔遺 物〕** 近世の土器が 1 点出土している。

**〔時 期〕** 出土遺物と覆土の様子から近世のものと考えられる。



第 28 図 土坑 A 群 2 類（1/60）

B 群 長方形の土坑

2 類 幅狭の長方形

981 号土坑

**遺 構**（第 29 図／図版 6－5）

**〔位 置〕**（D・E－8）グリッド。

**〔検出状況〕** 1 区南東側で検出された。東側を 52 号井戸跡に切られる。

**〔構 造〕** 平面形：長方形である。**断面形**：逆台形を呈する。壁面は垂直に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。**規模**：長軸現況 190cm／短軸 32cm／深さ 27cm。**長軸方位**：N－84°－W。

**〔覆 土〕** 暗褐色土を主体とした単層である。

**〔遺 物〕** なし。

**〔時 期〕** 覆土の様子から中世以降と考えられる。

982号土坑

**遺 構** (第29図/図版6-6)

[位 置] (D-7) グリッド。

[検出状況] 1区南東側で検出された。北西側を攪乱に切られる。

[構 造] 平面形：長方形である。断面形：逆台形を呈する。壁面は垂直に立ち上がり、南側にピット状の掘り込みがあるが、底面はほぼ平坦である。規模：長軸 190cm/短軸 35cm/深さ 22cm。長軸方位：N-12°-E。

[覆 土] 暗褐色土を主体とした単層である。

[遺 物] なし。

[時 期] 覆土の様子から中世以降と考えられる。

992号土坑

**遺 構** (第29図/図版6-7)

[位 置] (A・B-4) グリッド。

[検出状況] 2区南西側で検出された。南側は調査区外に至る。

[構 造] 平面形：長方形である。断面形：皿形を呈する。壁面はなだらかに立ち上がり、底面はほぼ平坦である。規模：長軸現況 96cm/短軸 62cm/深さ 31cm。長軸方位：N-55°-W。

[覆 土] 暗褐色土を主体とした2層に区分された。

[遺 物] なし。

[時 期] 覆土の様子から中世以降と考えられる。

993号土坑

**遺 構** (第29図/図版6-8)

[位 置] (A-4) グリッド。

[検出状況] 2区南西側で検出された。西側を1026号土坑に切られる。

[構 造] 平面形：長方形である。断面形：皿形を呈し、壁面は垂直に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。

規模：長軸 215cm/短軸 49cm/深さ 43cm。長軸方位：N-89°-W。

[覆 土] 暗褐色土を主体とした単層である。

[遺 物] なし。

[時 期] 覆土の様子から中世以降と考えられる。

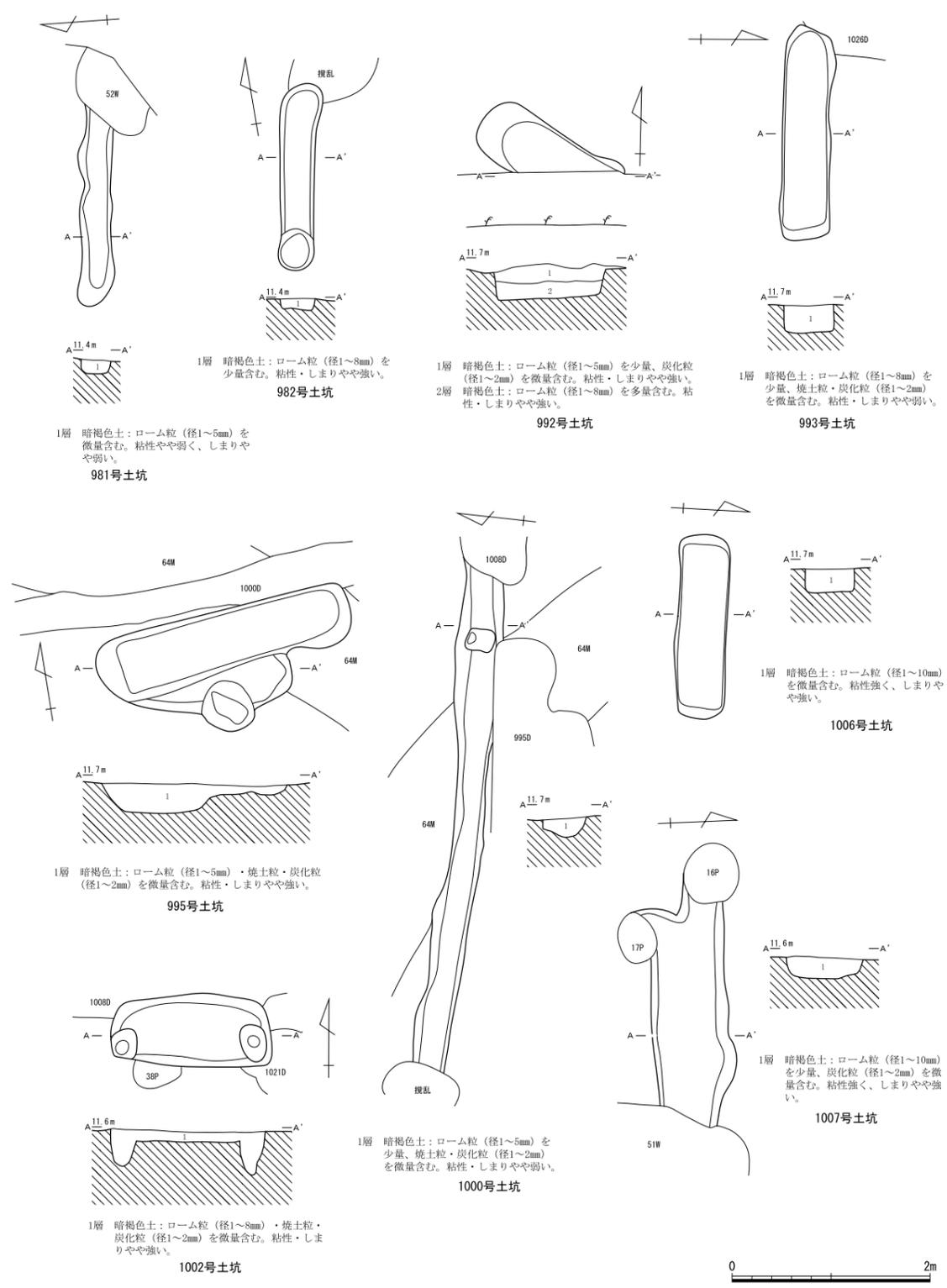
995号土坑

**遺 構** (第29図/図版7-1)

[位 置] (C・D-5) グリッド。

[検出状況] 1区中央西側で検出された。北側で1000号土坑・64号溝跡を切る。

[構 造] 平面形：長方形である。南側に楕円形の掘り込みがみられる。断面形：皿形を呈する。壁面はなだらかに立ち上がり、底面はほぼ平坦である。規模：長軸 263cm/短軸 120cm/深さ 59cm。長軸方位：N-83°-E。



第29図 土坑B群2類1 (1/60)

- [覆 土] 暗褐色土を主体とした単層である。
- [遺 物] 近世の陶磁器3点が出土している。
- [時 期] 出土遺物と覆土の様子から、近世以降と考えられる。

1000号土坑

**遺 構** (第29図/図版7-2)

[位 置] (C・D-5) グリッド。

[検出状況] 1区中央西側で検出された。南側を995号土坑に切れ、東側を1008号土坑に切られる。

[構 造] 平面形：長方形である。断面形：逆台形を呈する。壁面は垂直に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。規模：長軸501cm/短軸36cm/深さ32cm。長軸方位：N-90°-E。

[覆 土] 暗褐色土を主体とした単層である。

[遺 物] 緑泥片岩の板碑破片1点、近世の土器1点が出土している。

[時 期] 出土遺物と覆土の様子から、近世以降と考えられる。

1002号土坑

**遺 構** (第29図/図版7-3)

[位 置] (D-5) グリッド。

[検出状況] 1区中央北側で検出された。北側で1008号土坑を切る。

[構 造] 平面形：長方形である。断面形：皿形を呈する。壁面は垂直に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。両端にピット状の掘り込みがあり、深さ約30cmである。規模：長軸161cm/短軸74cm/深さ16cm。長軸方位：N-90°-E。

[覆 土] 暗褐色土を主体とした単層である。

[遺 物] 中世の磁器口縁部片1点、近世の陶器皿1点が出土している。

[時 期] 出土遺物と覆土の様子から、近世以降と考えられる。

1006号土坑

**遺 構** (第29図/図版7-4)

[位 置] (A・B-4) グリッド。

[検出状況] 2区南西側で検出された。

[構 造] 平面形：長方形である。断面形：逆台形を呈する。壁面は垂直に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。規模：長軸186cm/短軸52cm/深さ28cm。長軸方位：N-89°-E。

[覆 土] 暗褐色土を主体とした単層である。

[遺 物] なし。

[時 期] 覆土の様子から中世以降と考えられる。

1007号土坑

**遺 構** (第29図/図版7-5)

[位 置] (D・E-5) グリッド。

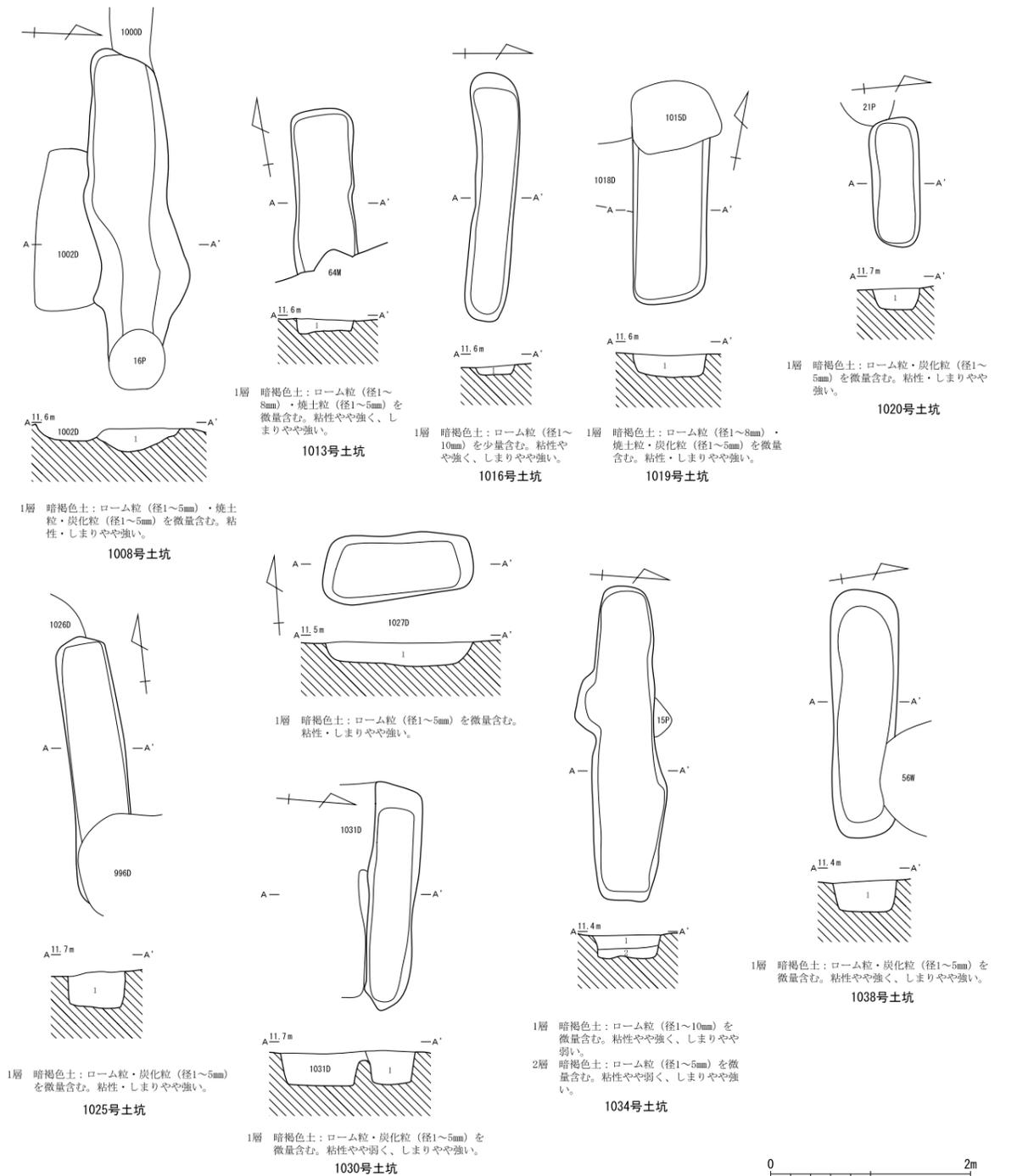
[検出状況] 1区中央北東側で検出された。西側を16号ピット、南西側を17号ピット、東側を50号井戸跡に切られる。

[構 造] 平面形：長方形である。断面形：逆台形を呈する。壁面は垂直に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。規模：長軸現況214cm/短軸89cm/深さ24cm。長軸方位：N-88°-E。

[覆 土] 暗褐色土を主体とした単層である。

[遺 物] 20点の縄文土器が出土している。

[時 期] 覆土の様子から中世以降と考えられる。



第30図 土坑B群2類2 (1/60)

## 1008号土坑

**遺 構** (第30図/図版7-6)

[位 置] (D-5) グリッド。

[検出状況] 1区中央北側で検出された。南側を1002号土坑、東側を16号ピットに切られ、西側で1000号土坑を切る。

[構 造] 平面形：長方形である。断面形：逆台形を呈する。壁面はなだらかに立ち上がり、底面はほぼ平坦である。規模：長軸現況299cm/短軸91cm/深さ29cm。長軸方位：N-85°-E。

[覆 土] 暗褐色土を主体とした単層である。

[遺 物] なし。

[時 期] 覆土の様子から中世以降と考えられる。

## 1013号土坑

**遺 構** (第30図/図版7-7)

[位 置] (C-4) グリッド。

[検出状況] 1区北側で検出された。南側を65号溝跡に切られる。

[構 造] 平面形：長方形である。断面形：逆台形を呈する。壁面は垂直に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。規模：長軸現況164cm/短軸55cm/深さ15cm。長軸方位：N-6°-E。

[覆 土] 暗褐色土を主体とした単層である。

[遺 物] なし。

[時 期] 覆土の様子から中世以降と考えられる。

## 1016号土坑

**遺 構** (第30図/図版7-8)

[位 置] (B・C-4) グリッド。

[検出状況] 1区北西側で検出された。987号土坑、53号ピットを切る。

[構 造] 平面形：長方形である。断面形：逆台形を呈する。壁面は垂直に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。規模：長軸248cm/短軸44cm/深さ26cm。長軸方位：N-87°-W。

[覆 土] 暗褐色土を主体とした単層である。

[遺 物] なし。

[時 期] 覆土の様子から中世以降と考えられる。

## 1019号土坑

**遺 構** (第30図/図版8-1)

[位 置] (D-4) グリッド。

[検出状況] 1区中央北側で検出された。北側を1015号土坑、西側を1018号土坑に切られる。

[構 造] 平面形：長方形である。断面形：逆台形を呈する。壁面は垂直に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。規模：長軸現況166cm/短軸77cm/深さ26cm。長軸方位：N-10°-W。

[覆 土] 暗褐色土を主体とした単層である。

[遺 物] なし。

[時 期] 覆土の様子から中世以降と考えられる。

## 1020号土坑

**遺 構** (第30図/図版8-2)

[位 置] (C-4) グリッド。

[検出状況] 1区北東側で検出された。西側を21号ピットに切られる。

[構 造] 平面形：長方形である。断面形：逆台形を呈する。壁面は垂直に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。規模：長軸129cm/短軸47cm/深さ24cm。長軸方位：N-86°-E。

[覆 土] 暗褐色土を主体とした単層である。

[遺 物] なし。

[時 期] 覆土の様子から中世以降と考えられる。

## 1025号土坑

**遺 構** (第30図/図版8-3)

[位 置] (A-3・4) グリッド。

[検出状況] 2区西側で検出された。南側を996号土坑に切られ、西側で1026号土坑を切る。

[構 造] 平面形：長方形である。断面形：逆台形を呈する。壁面は垂直に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。規模：長軸現況265cm/短軸57cm/深さ35cm。長軸方位：N-3°-E。

[覆 土] 暗褐色土を主体とした単層である。

[遺 物] 緑泥片岩の板碑破片1点、近世の陶器天目碗1点、土器鍋1点が出土している。

[時 期] 出土遺物と覆土の様子から近世以降と考えられる。

## 1027号土坑

**遺 構** (第30図/図版8-4)

[位 置] (A-2) グリッド。

[検出状況] 2区西側で検出された。

[構 造] 平面形：長方形である。断面形：逆台形を呈する。壁面はなだらかに立ち上がり、底面はほぼ平坦である。規模：長軸151cm/短軸63cm/深さ24cm。長軸方位：N-89°-E。

[覆 土] 暗褐色土を主体とした単層である。

[遺 物] 近世の陶器播鉢片1点が出土している。

[時 期] 出土遺物と覆土の様子から近世以降と考えられる。

## 1030号土坑

**遺 構** (第30図/図版8-5)

[位 置] (B-3) グリッド。

[検出状況] 2区中央西側で検出された。南側で1031号土坑を切る。

[構造] 平面形：長方形である。断面形：逆台形を呈する。壁面は垂直に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。規模：長軸2.25cm／短軸51cm／深さ36cm。長軸方位：N－78°－E。

[覆土] 暗褐色土を主体とした単層である。

[遺物] なし。

[時期] 覆土の様子から中世以降と考えられる。

### 1034号土坑

**遺構** (第30図／図版8－6)

[位置] (D－3) グリッド。

[検出状況] 2区中央で検出された。西側で1041号土坑を切り、北側で15号ピットに切られる。

[構造] 平面形：長方形である。断面形：逆台形を呈する。壁面は垂直に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。規模：長軸314cm／短軸79cm／深さ41cm。長軸方位：N－86°－E。

[覆土] 暗褐色土を主体とした2層に区分される。

[遺物] 緑泥片岩の板碑片1点が出土している。

[時期] 出土遺物と覆土の様子から中世以降と考えられる。

### 1038号土坑

**遺構** (第30図／図版8－7)

[位置] (C・D－2) グリッド。

[検出状況] 2区中央北側で検出された。北側で56号井戸跡を切る。

[構造] 平面形：長方形である。断面形：逆台形を呈する。壁面は垂直に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。規模：長軸248cm／短軸67cm／深さ40cm。長軸方位：N－81°－W。

[覆土] 暗褐色土を主体とした単層である。

[遺物] なし。

[時期] 覆土の様子と切り合いから、近世以降と考えられる。

### 3類 幅広の長方形

#### 997号土坑

**遺構** (第32図／図版8－8)

[位置] (C－7) グリッド。

[検出状況] 1区南西側で検出された。西側を975号土坑、北側を994号土坑、南側を攪乱に切られる。

[構造] 平面形：長方形である。断面形：箱形を呈する。壁面は垂直に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。南側に一段高いテラス状の張り出しがある。規模：長軸340cm／短軸161cm／深さ38cm。

長軸方位：N－84°－E。

[覆土] 暗褐色土を主体とした2層に区分される。

[遺物] 近世の陶器2点が出土しているが、細片のため図示していない。

[時期] 出土遺物と覆土の様子から近世以降と考えられる。

#### 1009号土坑

**遺構** (第32図／図版9－1)

[位置] (D－2) グリッド。

[検出状況] 2区北東側で検出された。

[構造] 平面形：長方形である。断面形：箱形を呈する。壁面は垂直に立ち上がり、北側に3本のピット状の窪みがあり、底面はほぼ平坦である。規模：長軸133cm／短軸82cm／深さ34cm。長軸方位：N－2°－W。

[覆土] 暗褐色土を主体とした2層に区分される。

[遺物] なし。

[時期] 覆土の様子から中世以降と考えられる。

#### 1023号土坑

**遺構** (第32図／図版9－2)

[位置] (B－3・4) グリッド。

[検出状況] 2区南西側で検出された。北側で73号ピットを切る。

[構造] 平面形：長方形である。断面形：逆台形を呈する。壁面は垂直に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。規模：長軸182cm／短軸102cm／深さ64cm。長軸方位：N－89°－E。

[覆土] 暗褐色土を主体とした単層である。

[遺物] なし。

[時期] 覆土の様子から中世以降と考えられる。

#### 1028号土坑

**遺構** (第32図／図版9－3)

[位置] (A・B－2) グリッド。

[検出状況] 2区北西側で検出された。中央部を54号井戸跡に切られる。

[構造] 平面形：長方形である。断面形：逆台形を呈する。壁面は垂直に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。規模：長軸 267cm／短軸 126cm／深さ 50cm。長軸方位：N－67°－W。

[覆土] 暗褐色土を主体とした単層である。

[遺物] なし。

[時期] 覆土の様子から中世以降と考えられる。

1029号土坑

[遺構] (第32図／図版9-4)

[位置] (B-2・3) グリッド。

[検出状況] 2区北西側で検出された。

[構造] 平面形：長方形である。北端に1本、南側に2本のピット状の掘り込みがみられる。断面形：逆台形を呈する。壁面は垂直に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。規模：長軸 254cm／短軸 142cm／深さ 71cm。長軸方位：N-2°-E。

[覆土] 暗褐色土を主体とした3層に区分される。

[遺物] 近世の土器1点が出土している。

[時期] 出土遺物と覆土の様子から、近世以降と考えられる。

1032号土坑

[遺構] (第32図／図版9-5)

[位置] (B-2・3) グリッド。

[検出状況] 2区中央西側で検出された。南東側を70号ピットに切られる。

[構造] 平面形：長方形である。断面形：逆台形を呈する。壁面は垂直に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。北側に段差を持ち、約10cm底面が低い。規模：長軸 411cm／短軸 127cm／深さ 69cm。長軸方位：N-0°-E。

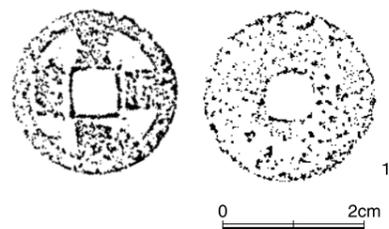
[覆土] 暗褐色土を主体とした単層である。

[遺物] 近世の陶器2点、土器1点、銭貨1点が出土し、銭貨を図示した。

[時期] 出土遺物と覆土の様子から、近世以降と考えられる。

[遺物] (第31図／第15表／図版16-3)

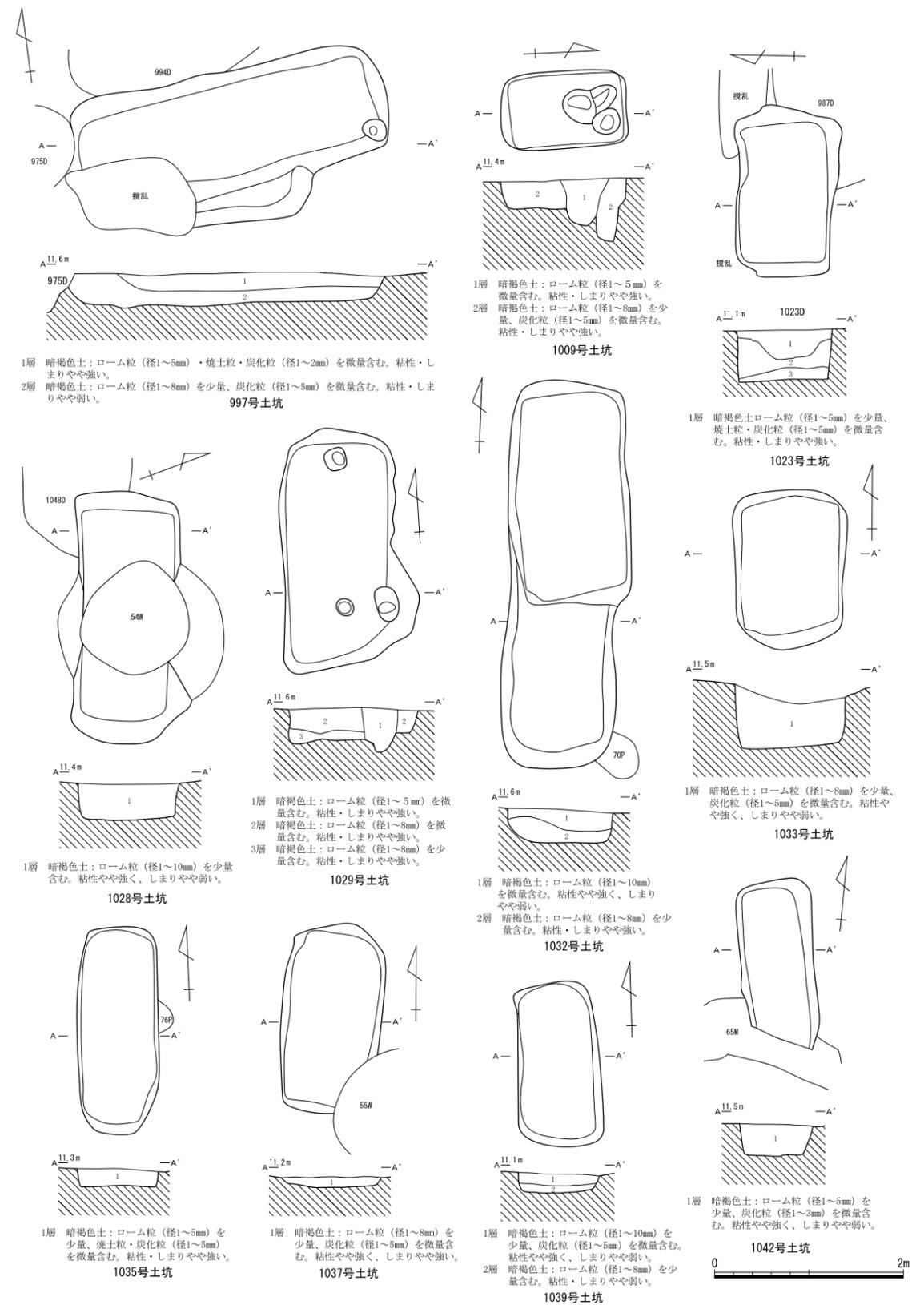
1点の銭貨を図示した。北宋銭「皇宋通宝」(初鑄1039年)である。



遺物番号	種別	材質	出土位置	外径	孔径	最大厚	重量	備考
1	銭貨	銅	覆土	2.4	0.6	0.1	2.6	皇宋通寶

第15表 1032号土坑出土遺物一覧

第31図 1032号土坑出土遺物(1/1)



第32図 土坑B群3類1 (1/60)

## 1033号土坑

**遺 構** (第32図/図版9-6)

**[位 置]** (C-2) グリッド。

**[検出状況]** 2区中央北側で検出された。

**[構造]** 平面形：長方形である。断面形：逆台形を呈する。壁面は垂直に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。規模：長軸169cm/短軸121cm/深さ70cm。長軸方位：N-0°-E。

**[覆 土]** 暗褐色土を主体とした単層である。

**[遺 物]** なし。

**[時 期]** 覆土の様子から中世以降と考えられる。

## 1035号土坑

**遺 構** (第32図/図版9-7)

**[位 置]** (E-3) グリッド。

**[検出状況]** 2区中央東側で検出された。東側中央部を76号ピットに切られる。

**[構造]** 平面形：長方形である。断面形：逆台形を呈する。壁面は垂直に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。規模：長軸220cm/短軸84cm/深さ22cm。長軸方位：N-2°-E。

**[覆 土]** 暗褐色土を主体とした単層である。

**[遺 物]** なし。

**[時 期]** 覆土の様子から中世以降と考えられる。

## 1037号土坑

**遺 構** (第32図/図版9-8)

**[位 置]** (E-2・3) グリッド。

**[検出状況]** 2区北東側で検出された。南東隅を55号井戸跡に切られる。

**[構造]** 平面形：長方形である。断面形：逆台形を呈する。壁面は垂直に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。規模：長軸現況203cm/短軸107cm/深さ20cm。長軸方位：N-7°-E。

**[覆 土]** 暗褐色土を主体とした単層である。

**[遺 物]** 1点の鉄製品の釘破片が出土している。

**[時 期]** 出土遺物と覆土の様子から中世以降と考えられる。

## 1039号土坑

**遺 構** (第32図/図版10-1)

**[位 置]** (E-3) グリッド。

**[検出状況]** 2区南東側で検出された。

**[構造]** 平面形：長方形である。断面形：逆台形を呈する。壁面は垂直に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。規模：長軸現況175cm/短軸87cm/深さ26cm。長軸方位：N-1°-W。

**[覆 土]** 暗褐色土を主体とした2層に区分される。

**[遺 物]** なし。

**[時 期]** 覆土の様子から中世以降と考えられる。

## 1042号土坑

**遺 構** (第32図/図版10-2)

**[位 置]** (D-3・4) グリッド。

**[検出状況]** 2区南東側で検出された。南側を65号溝に切られる。

**[構造]** 平面形：長方形である。断面形：逆台形を呈する。壁面は垂直に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。規模：長軸現況183cm/短軸79cm/深さ38cm。長軸方位：N-13°-W。

**[覆 土]** 暗褐色土を主体とした単層である。

**[遺 物]** なし。

**[時 期]** 覆土の様子から中世以降と考えられる。

## C群 平面円形・楕円形の土坑

## 974号土坑

**遺 構** (第33図/図版10-3)

**[位 置]** (C-7・8) グリッド。

**[検出状況]** 1区南西側で検出された。

**[構造]** 平面形：楕円形である。断面形：逆台形を呈し、壁面はなだらかに立ち上がり、底面はほぼ平坦である。北側に一段高い段差がみられる。規模：長軸100cm/短軸78cm/深さ50cm。長軸方位：N-61°-E。

**[覆 土]** 暗褐色土を主体とした単層である。

**[遺 物]** なし。

**[時 期]** 覆土の様子から中世以降と考えられる。

## 975号土坑

**遺 構** (第33図/図版10-4)

**[位 置]** (B・C-7) グリッド。

**[検出状況]** 1区南西側で検出された。東側で997号土坑を切る。

**[構造]** 平面形：楕円形である。断面形：不整形を呈する。壁面はなだらかに立ち上がり、底面は不整形である。規模：長軸140cm/短軸88cm/深さ49cm。長軸方位：N-55°-E。

**[覆 土]** 暗褐色土を主体とした単層である。

**[遺 物]** なし。

**[時 期]** 覆土の様子から中世以降と考えられる。

976号土坑

遺構 (第33図/図版10-5)

位置 (C・D-7) グリッド。

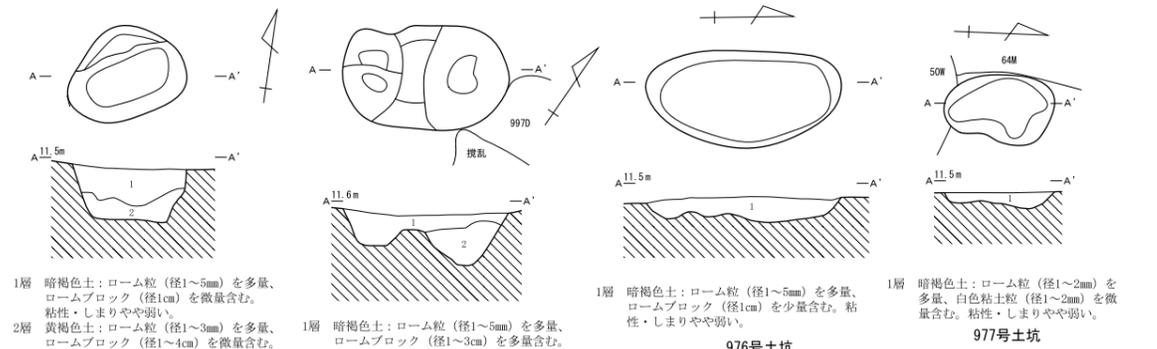
検出状況 1区中央南側で検出された。

構造 平面形：楕円形である。断面形：不整形を呈する。壁面はなだらかに立ち上がり、底面はほぼ平坦である。規模：長軸現況170cm/短軸83cm/深さ21cm。長軸方位：N-3°-E。

覆土 暗褐色土を主体とした単層である。

遺物 なし。

時期 覆土の様子から中世以降と考えられる。



977号土坑

遺構 (第33図/図版10-6)

位置 (D-6・7) グリッド。

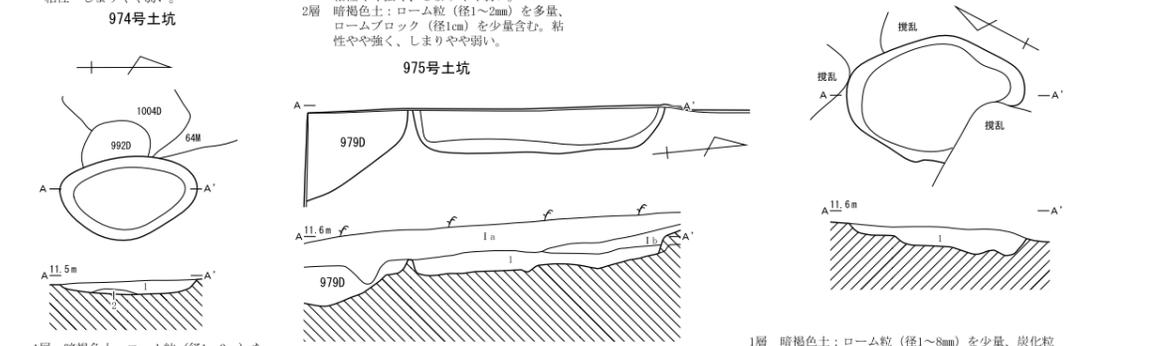
検出状況 1区中央南側で検出された。南側で50号井戸を切る。

構造 平面形：楕円形である。断面形：逆台形を呈する。壁面はなだらかに立ち上がり、底面は平坦である。規模：長軸97cm/短軸58cm/深さ15cm。長軸方位：N-6°-W。

覆土 暗褐色土を主体とした2層に区分される。

遺物 なし。

時期 遺構の切り合いと覆土の様子から近世以降と考えられる。



978号土坑

遺構 (第33図/図版10-7)

位置 (D-6) グリッド。

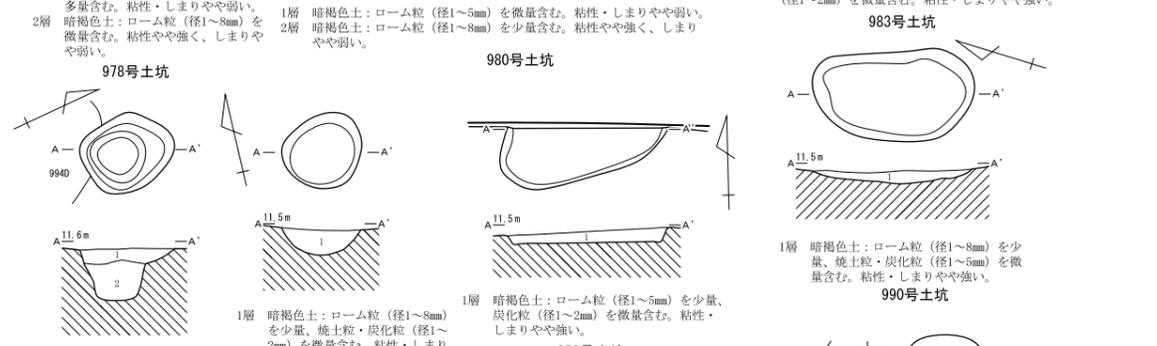
検出状況 1区中央部で検出された。南側で11号掘立柱建築遺構P2に切られる。

構造 平面形：楕円形である。断面形：皿形を呈し、壁面はなだらかに立ち上がり、底面はほぼ平坦である。規模：長軸120cm/短軸70cm/深さ17cm。長軸方位：N-2°-W。

覆土 暗褐色土を主体とした単層である。

遺物 なし。

時期 覆土の様子から中世以降と考えられる。



979号土坑

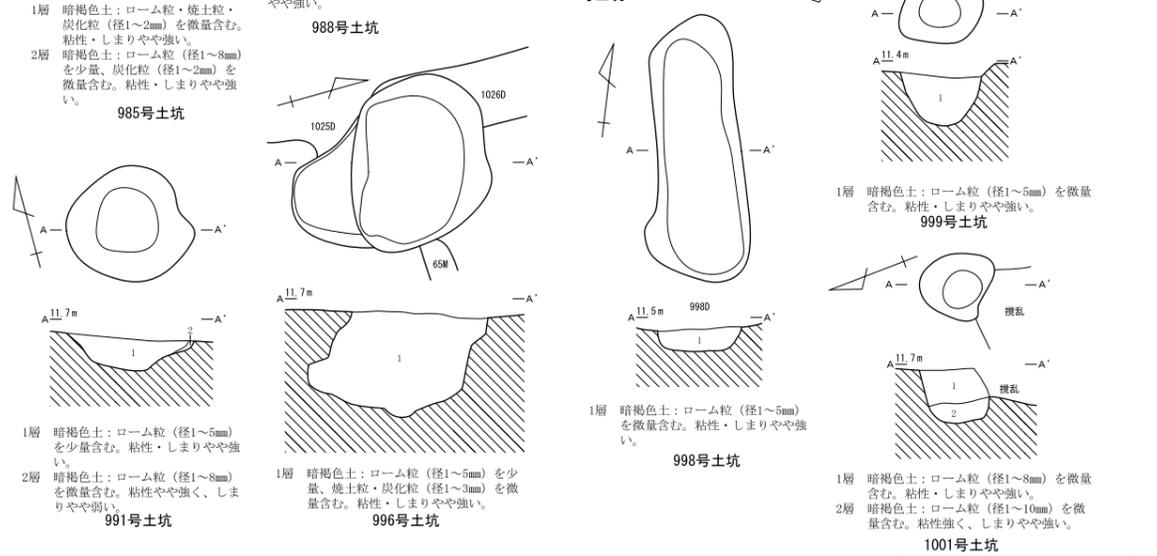
遺構 (第33図/図版10-8)

位置 (B-8) グリッド。

検出状況 1区南西隅で検出された。南側、西側は調査区外に至る。

構造 平面形：楕円形と推察される。断面形：皿形を呈する。壁面は垂直に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。規模：長軸現況85cm/短軸73cm/深さ38cm。長軸方位：N-2°-E。

覆土 暗褐色土を主体とした単層である。



第33図 土坑C群1 (1/60)

[遺物] なし。

[時期] 覆土の様子から中世以降と考えられる。

### 983号土坑

[遺構] (第33図/図版11-1)

[位置] (C-7) グリッド。

[検出状況] 1区南東側で検出された。南側を攪乱に切られる。

[構造] 平面形：楕円形である。断面形：皿形を呈する。壁面はなだらかに立ち上がり、底面はほぼ平坦である。規模：長軸150cm/短軸107cm/深さ25cm。長軸方位：N-34°-W。

[覆土] 暗褐色土を主体とした単層である。

[遺物] なし。

[時期] 覆土の様子から中世以降と考えられる。

### 985号土坑

[遺構] (第33図/図版11-2)

[位置] (C-6・7) グリッド。

[検出状況] 1区南西側で検出された。南側で994号土坑を切る。

[構造] 平面形：楕円形である。断面形：逆台形を呈する。壁面は垂直に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。規模：長軸80cm/短軸65cm/深さ47cm。長軸方位：N-13°-E。

[覆土] 暗褐色土を主体とした単層である。

[遺物] なし。

[時期] 覆土の様子から中世以降と考えられる。

### 988号土坑

[遺構] (第33図/図版11-3)

[位置] (C・D-7) グリッド。

[検出状況] 1区中央南側で検出された。

[構造] 平面形：円形である。断面形：皿形を呈する。壁面は垂直に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。

規模：長軸69cm/短軸62cm/深さ37cm。長軸方位：N-55°-E。

[覆土] 暗褐色土を主体とした単層である。

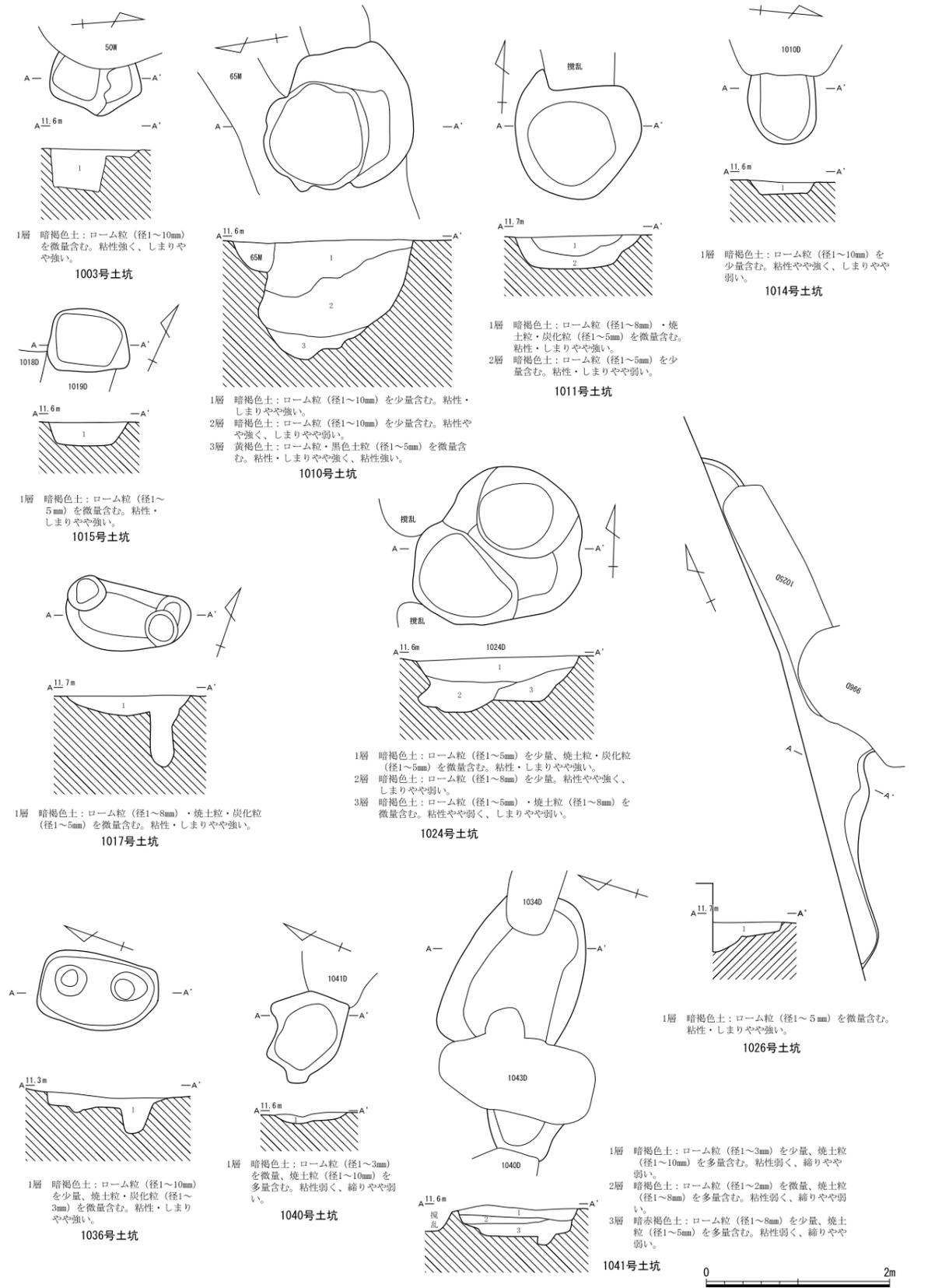
[遺物] なし。

[時期] 覆土の様子から中世以降と考えられる。

### 989号土坑

[遺構] (第33図/図版11-4)

[位置] (A-1) グリッド。



第34図 土坑C群2 (1/60)

[検出状況] 2区北西側で検出された。北側は調査区外に至る。

[構造] 平面形：楕円形である。断面形：皿形を呈する。壁面はなだらかに立ち上がり、底面はほぼ平坦である。規模：長軸現況 110cm／短軸現況 44cm／深さ 18cm。長軸方位：N－72°－E。

[覆土] 暗褐色土を主体とした単層である。

[遺物] なし。

[時期] 覆土の様子から中世以降と考えられる。

#### 990号土坑

**遺構** (第33図／図版11－5)

[位置] (A－2) グリッド。

[検出状況] 2区北西側で検出された。

[構造] 平面形：楕円形である。断面形：皿形を呈する。壁面はなだらかに立ち上がり、底面はほぼ平坦である。規模：長軸 140cm／短軸 75cm／深さ 15cm。長軸方位：N－18°－W。

[覆土] 暗褐色土を主体とした単層である。

[遺物] なし。

[時期] 覆土の様子から中世以降と考えられる。

#### 991号土坑

**遺構** (第33図／図版11－6)

[位置] (D－6) グリッド。

[検出状況] 1区中央で検出された。南側を攪乱に切られる。

[構造] 平面形：円形である。断面形：皿形を呈する。壁面はなだらかに立ち上がり、底面はほぼ平坦である。規模：長軸 110cm／短軸 98cm／深さ 37cm。長軸方位：N－70°－W。

[覆土] 暗褐色土を主体とした2層に区分される。

[遺物] なし。

[時期] 覆土の様子から中世以降と考えられる。

#### 996号土坑

**遺構** (第33図／図版11－7)

[位置] (A－3・4) グリッド。

[検出状況] 2区南西側で検出された。北側で1025号土坑、西側で1026号土坑を切る。

[構造] 平面形：楕円形である。断面形：不整形を呈する。壁面は垂直に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。南側にテラス状の段差がある。規模：長軸 168cm／短軸 142cm／深さ 89cm。長軸方位：N－11°－E。

[覆土] 暗褐色土を主体とした単層である。

[遺物] 図示していないが、近世の陶器3点、土器3点が出土している。

[時期] 出土遺物と覆土の様子から近世以降と考えられる。

#### 998号土坑

**遺構** (第33図／図版11－8)

[位置] (A－2) グリッド。

[検出状況] 2区北西側で検出された。

[構造] 平面形：楕円形である。断面形：皿形を呈する。壁面はなだらかに立ち上がり、底面はほぼ平坦である。規模：長軸 223cm／短軸 71cm／深さ 31cm。長軸方位：N－14°－W。

[覆土] 暗褐色土を主体とした単層である。

[遺物] なし。

[時期] 覆土の様子から中世以降と考えられる。

#### 999号土坑

**遺構** (第33図／図版12－1)

[位置] (E－7) グリッド。

[検出状況] 1区南東側で検出された。

[構造] 平面形：楕円形である。断面形：箱形を呈する。壁面は垂直に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。規模：長軸現況 76cm／短軸 59cm／深さ 66cm。長軸方位：N－6°－W。

[覆土] 暗褐色土を主体とした単層である。

[遺物] なし。

[時期] 覆土の様子から中世以降と考えられる。

#### 1001号土坑

**遺構** (第33図／図版12－2)

[位置] (E－7) グリッド。

[検出状況] 1区中央東側で検出された。南側を攪乱に切られる。

[構造] 平面形：楕円形である。断面形：皿形を呈し、壁面は垂直に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。規模：長軸 57cm／短軸 56cm／深さ 50cm。長軸方位：N－27°－E。

[覆土] 暗褐色土を主体とした単層である。

[遺物] なし。

[時期] 覆土の様子から中世以降と考えられる。

#### 1003号土坑

**遺構** (第34図／図版12－3)

[位置] (D－7) グリッド。

[検出状況] 1区南東側で検出された。西側で50号遺構に切られる。

[構造] 平面形：楕円形である。断面形：不整形を呈し、壁面はなだらかに立ち上がり、北側に一段高いテラスを持つ。底面はほぼ平坦である。規模：長軸 100cm／短軸現況 65cm／深さ 57cm。長軸方位：N－16°－E。

[覆 土] 暗褐色土を主体とした単層である。

[遺 物] なし。

[時 期] 覆土の様子から中世以降と考えられる。

#### 1010号土坑

**遺 構** (第34図/図版12-4)

[位 置] (C・D-4・5) グリッド。

[検出状況] 1区中央北側で検出された。北側を65号溝に切られ、東側で1014号土坑を切る。

[構 造] 平面形：楕円形である。断面形：不整形を呈し、壁面は垂直に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。南側に段差を持つ。規模：長軸現況172cm/短軸155cm/深さ119cm。長軸方位：N-17°-W。

[覆 土] 暗褐色土を主体とした単層である。

[遺 物] なし。

[時 期] 覆土の様子から中世以降と考えられる。

#### 1011号土坑

**遺 構** (第34図/図版12-5)

[位 置] (A・B-3) グリッド。

[検出状況] 1区北東側で検出された。西側を21号ピットに切られる。

[構 造] 平面形：楕円形である。断面形：皿形を呈する。壁面はなだらかに立ち上がり、底面はほぼ平坦である。規模：長軸148cm/短軸138cm/深さ38cm。長軸方位：N-20°-W。

[覆 土] 暗褐色土を主体とした単層である。

[遺 物] 縄文時代のものであるが、1点の土製品土錘が出土している(第39図41)。

[時 期] 覆土の様子から中世以降と考えられる。

#### 1014号土坑

**遺 構** (第34図/図版12-6)

[位 置] (D-5) グリッド。

[検出状況] 1区中央北側で検出された。西側を1010号土坑に切られる。

[構 造] 平面形：楕円形である。断面形：皿形を呈する。壁面はなだらかに立ち上がり、底面はほぼ平坦である。規模：長軸現況79cm/短軸75cm/深さ17cm。長軸方位：N-80°-E。

[覆 土] 暗褐色土を主体とした単層である。

[遺 物] なし。

[時 期] 出土遺物と覆土の様子から中世以降と考えられる。

#### 1015号土坑

**遺 構** (第34図/図版12-7)

[位 置] (D-4) グリッド。

[検出状況] 1区中央北側で検出された。南側で1019号土坑を切る。

[構 造] 平面形：楕円形である。断面形：逆台形を呈する。壁面は垂直に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。規模：長軸86cm/短軸69cm/深さ27cm。長軸方位：N-72°-E。

[覆 土] 暗褐色土を主体とした単層である。

[遺 物] なし。

[時 期] 出土遺物と覆土の様子から中世以降と考えられる。

#### 1017号土坑

**遺 構** (第34図/図版12-8)

[位 置] (C-4) グリッド。

[検出状況] 1区中央北側で検出された。

[構 造] 平面形：楕円形である。断面形：皿形を呈する。壁面は垂直に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。東西両端にピット状の掘り込みを持つ。規模：長軸136cm/短軸71cm/深さ80cm。長軸方位：N-79°-E。

[覆 土] 暗褐色土を主体とした単層である。

[遺 物] なし。

[時 期] 覆土の様子から中世以降と考えられる。

#### 1024号土坑

**遺 構** (第34図/図版13-1)

[位 置] (B-2・3) グリッド。

[検出状況] 2区中央西側で検出された。

[構 造] 平面形：楕円形である。断面形：逆台形を呈する。壁面は垂直に立ち上がり、底面は3段の段差があるが、それぞれは平坦である。規模：長軸192cm/短軸165cm/深さ78cm。長軸方位：N-40°-E。

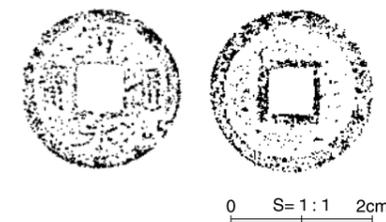
[覆 土] 暗褐色土を主体とした単層である。

[遺 物] 近世の土器2点、銭貨1点(寛永通宝)が出土している。

[時 期] 出土遺物と覆土の様子から近世以降と考えられる。

**遺 物** (第35図/第16表/図版16-4)

1は寛永通宝で、新寛永通宝・背無文である。



第35図 1024号土坑出土遺物(1/1)

遺物番号	種別	材質	出土位置	外径	孔径	最大厚	重量	備考
1	銭貨	銅	覆土	2.3	0.6	0.1	2.5	新寛永通宝/背無文

第16表 1024号土坑出土遺物一覧

## 1026号土坑

**遺 構** (第34図/図版13-2)

**[位 置]** (A-3・4) グリッド。

**[検出状況]** 2区南西側で検出された。西側は調査区外に至り、東側で996号土坑、1025号土坑、南側で993号土坑に切られる。

**[構 造]** 平面形：楕円形である。**断面形**：逆台形を呈する。壁面は垂直に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。**規模**：長軸現況584cm/短軸現況84cm/深さ28cm。**長軸方位**：N-7°-E。

**[覆 土]** 暗褐色土を主体とした単層である。

**[遺 物]** 近世の瀬戸・美濃系陶器碗1点、播鉢2点、土鍋1点が出土している。

**[時 期]** 覆土の様子と出土遺物から近世以降と考えられる。

## 1036号土坑

**遺 構** (第34図/図版13-3)

**[位 置]** (D-2) グリッド。

**[検出状況]** 2区中央北側で検出された。

**[構 造]** 平面形：楕円形である。**断面形**：逆台形を呈する。壁面は垂直に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。北側と南側の2箇所ピット状の掘り込みがある。**規模**：長軸130cm/短軸83cm/深さ56cm。**長軸方位**：N-12°-W。

**[覆 土]** 暗褐色土を主体とした単層である。

**[遺 物]** 近世の鉄製品釘1点が出土している。

**[時 期]** 覆土の様子から近世以降と考えられる。

## 1040号土坑

**遺 構** (第34図/図版13-4)

**[位 置]** (C-3) グリッド。

**[検出状況]** 2区中央で検出された。東側で1041号土坑を切る。

**[構 造]** 平面形：楕円形である。**断面形**：皿形を呈し、壁面はなだらかに立ち上がり、底面はほぼ平坦である。**規模**：長軸101cm/短軸84cm/深さ17cm。**長軸方位**：N-78°-E。

**[覆 土]** 暗褐色土を主体とした単層である。焼土を多く含んでいる。

**[遺 物]** なし。

**[時 期]** 覆土の様子から中世以降と考えられる。

## 1041号土坑

**遺 構** (第34図/図版13-5)

**[位 置]** (C・D-3) グリッド。

**[検出状況]** 2区中央で検出された。西側を1043号土坑に、西端を1040号土坑に切られる。

**[構 造]** 平面形：楕円形である。**断面形**：皿形を呈し、壁面はなだらかに立ち上がり、底面はほぼ

平坦である。**規模**：長軸287cm/短軸141cm/深さ33cm。**長軸方位**：N-77°-E。

**[覆 土]** 暗褐色土を主体とした単層である。焼土を多く含んでいる

**[遺 物]** 緑泥片岩の板碑片1点が出土している。

**[時 期]** 覆土の様子から中世以降と考えられる。

## D群 不整形の土坑

## 994号土坑

**遺 構** (第36図/図版13-6)

**[位 置]** (C-6・7) グリッド。

**[検出状況]** 1区南西側で検出された。北側を攪乱、北東側を985号土坑に切られ、南側で997号土坑を切る。

**[構 造]** 平面形：長方形であるが不整形である。**断面形**：皿形を呈する。壁面はなだらかに立ち上がり、底面はほぼ平坦で中央部にピット状の掘り込みを持つ。**規模**：長軸220cm/短軸133cm/深さ36cm。**長軸方位**：N-66°-E。

**[覆 土]** 暗褐色土を主体とした3層である。

**[遺 物]** 近世の土器1点が出土している。

**[時 期]** 出土遺物と覆土の様子から近世以降と考えられる。

## 1005号土坑

**遺 構** (第36図/図版13-7)

**[位 置]** (E-4・5) グリッド。

**[検出状況]** 1区北東側で検出された。

**[構 造]** 平面形：不整形で北側に一段深い掘り込みを有する。**断面形**：逆台形を呈する。壁面は垂直に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。**規模**：長軸現況130cm/短軸100cm/深さ36cm。**長軸方位**：N-88°-E。

**[覆 土]** 暗褐色土を主体とした2層である。

**[遺 物]** なし。

**[時 期]** 覆土の様子から中世以降と考えられる。

## 1012号土坑

**遺 構** (第36図/図版13-8)

**[位 置]** (C-4) グリッド。

**[検出状況]** 1区北西側で検出された。南側で48号ピットを切る。

**[構 造]** 平面形：不整形で南側に張り出し部を持つ。**断面形**：皿形を呈する。壁面はなだらかに立

ち上がり、底面はほぼ平坦である。規模：長軸 193cm／短軸 108cm／深さ 14cm。長軸方位：N－18°－E。

[覆 土] 暗褐色土を主体とし、単層である。

[遺 物] なし。

[時 期] 覆土の様子から中世以降と考えられる。

### 1018号土坑

**遺 構** (第36図／図版14－1)

[位 置] (C・D－4) グリッド。

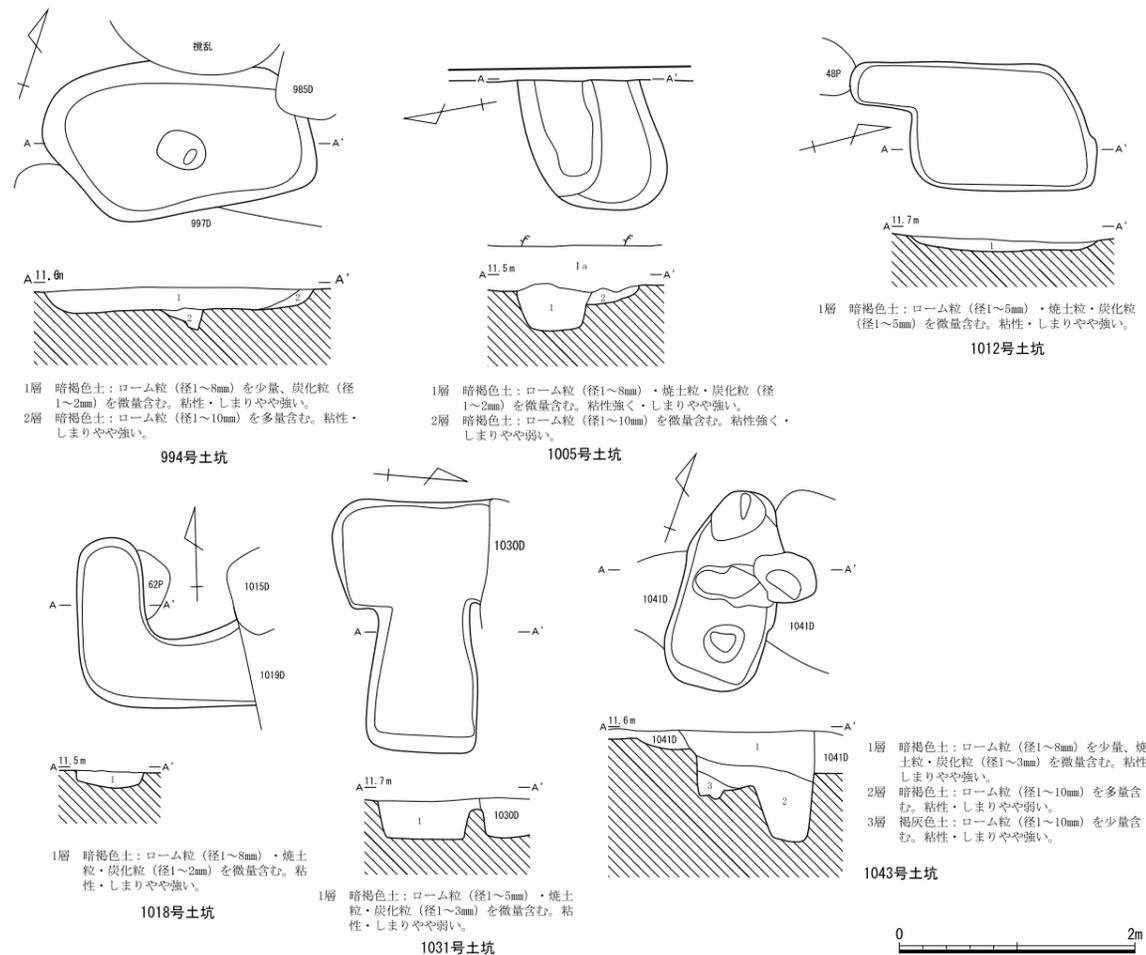
[検出状況] 2区北西側で検出された。中央部を54号井戸跡に切られる。

[構 造] 平面形：長方形でL字状を呈する。断面形：逆台形を呈する。壁面は垂直に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。規模：長軸 147cm／短軸 141cm／深さ 14cm。長軸方位：N－90°－W。

[覆 土] 暗褐色土を主体とした単層である。

[遺 物] なし。

[時 期] 覆土の様子から中世以降と考えられる。



第36図 土坑D群 (1/60)

### 1031号土坑

**遺 構** (第36図／図版8－5)

[位 置] (B－3) グリッド。

[検出状況] 2区西側で検出された。北側を1030号土坑に切られる。

[構 造] 平面形：不整形でT字状を呈する。断面形：逆台形を呈し、壁面は垂直に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。規模：長軸 212cm／短軸 134cm／深さ 37cm。長軸方位：N－87°－E。

[覆 土] 暗褐色土を主体とした単層である。

[遺 物] なし。

[時 期] 覆土の様子から近世以降と考えられる。

### 1043号土坑

**遺 構** (第36図／図版14－2)

[位 置] (C－3) グリッド。

[検出状況] 2区中央で検出された。1041号土坑を切る。

[構 造] 平面形：方形を基調とするが不整形である。断面形：逆台形を呈する。壁面は垂直に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。4本のピット状の掘り込みを持つ。規模：長軸 172cm／短軸 113cm／深さ 56cm。長軸方位：N－5°－W。

[覆 土] 暗褐色土を主体とした3層に区分される。

[遺 物] 近世の土器1点、鉄製品細片1点が出土している。

[時 期] 出土遺物と覆土の様子から、近世以降と考えられる。

## E群 地下室・地下坑

### 1類 単一主体部

### 987号土坑

**遺 構** (第37図／図版14－3～6)

[位 置] (B・C－3・4) グリッド。

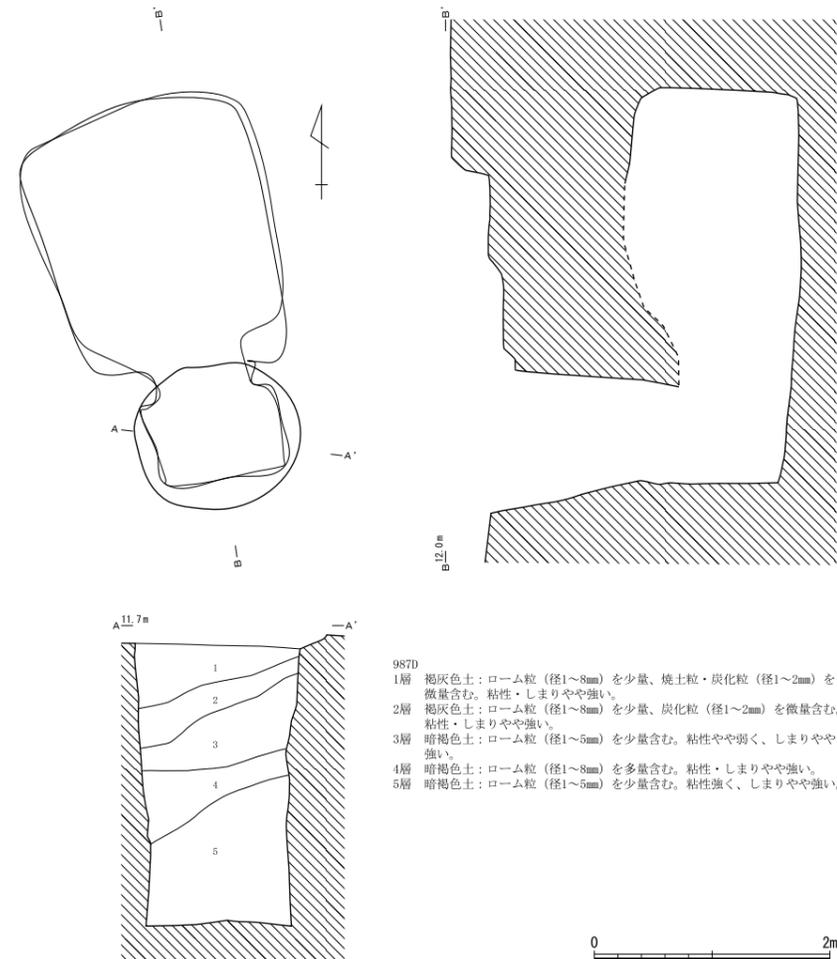
[検出状況] 1区北西側で検出された。

[構 造] 入り口竪坑部：開口部は楕円形を呈し、長軸 140cm／短軸 120cmを測る。坑底面は平坦で方形を呈する。主体部との連絡は平坦で、比高差はほとんどみられない。確認面から坑底面までの深さは 250cmを測る。主体部：底面は平坦で方形を呈し、長軸 230cm／短軸 190cm、天井部までの高さは 90～140cmを測る。壁面には、鋏状の工具による粗い調整痕が残される(図版14－5)。長軸方位：N－16°－W。

[覆 土] 暗褐色土を主体とした5層である。竪坑部は覆土により埋没していたが、主体部はほぼ空洞であった。

[遺物] 図示していないが、近世の陶器2点、土器2点、緑泥片岩の板碑片1点、貝殻小片1点が出土している。

[時期] 出土遺物と覆土の様子から、中世のものと考えられる。



第37図 土坑E群1類（1/60）

## 第4節 遺構外出土遺物

### （1）概要

ここでは表土や攪乱、包含層、遺構内出土ではあるが明らかに他の時期の混入品と考えられる遺物を対象とした。

### （2）縄文時代

出土した縄文時代の遺物は、土器 2,483 点（早期 3 点・前期 85 点・中期 871 点・後期 1,402 点・晩期 3 点、型式不明 119 点）、石器 17 点（石鏃 2・打製石斧 5・剥片 10 点）である。これらのうち、土器 40 点・土製品 1 点・石器 3 点を図示した（第 38・39 図／第 17 表／図版 18－1・19－1）。

土器 40 点のうち、1～7 は前期に比定される。1 は深鉢胴部片で、横位隆帯上位に貝殻背圧痕、下位に貝殻腹縁による押引文を施し、花積下層式に比定される。2～4 は関山式に比定され、複節縄文、単節縄文 L R などが施される。5～7 は諸磯 b 式に比定され、平行沈線文や浮線文上に爪形文が施される。

8・9 は中期加曾利 E IV 式である。1048 号土坑で出土した深鉢（第 8 図）と同時期である。

10～37 は後期に比定される。出土した縄文土器の中では後期のものが最も多く、また種類も豊富である。10～18 は堀之内 I 式に比定される。19～25 は堀之内 II 式に比定される。26・27 は堀之内 II 式、あるいは加曾利 B 1 式に比定される。28～30 は加曾利 B 1 式に比定される。31～34 は加曾利 B 2 式に比定される。35 は後期前葉に含まれると推定されるが、詳細形式は不明である。36 は加曾利 B 3 式に比定され、37 は加曾利 B 3 から曾谷式と推定される。

38～40 は晩期のものと推定される。38 は安行 3 c 式と推定されるが、39・40 は詳細形式は不明である。

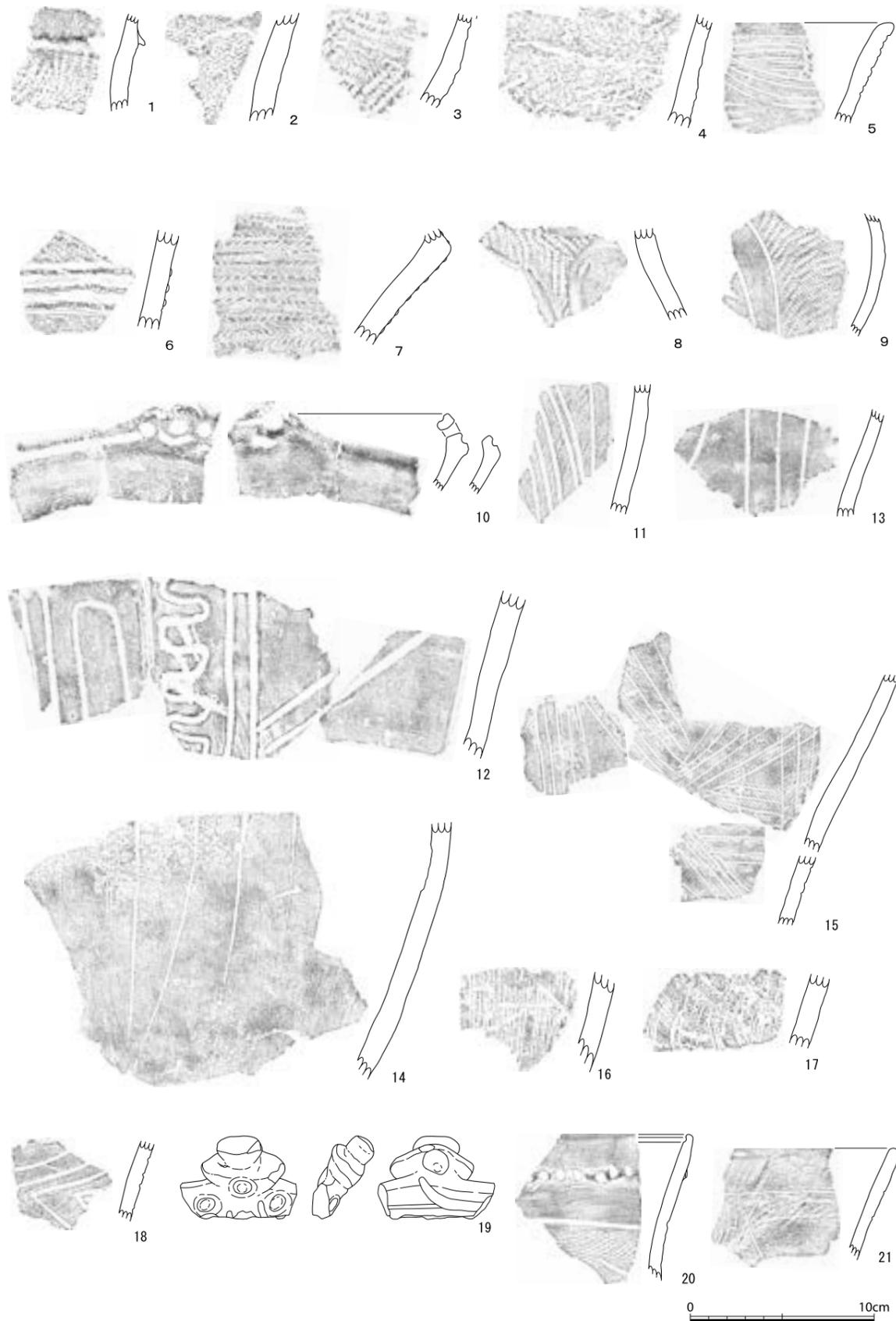
41 は土製品土錘である。溝が縦方向中央に全周する。

42～44 は石器である。42・44 は砂岩、43 はホルンフェルス製の打製石斧である。いずれも側縁に敲打痕を持つ。42・44 は基部を欠く。剥片は図示していないが黒曜石とチャートである。

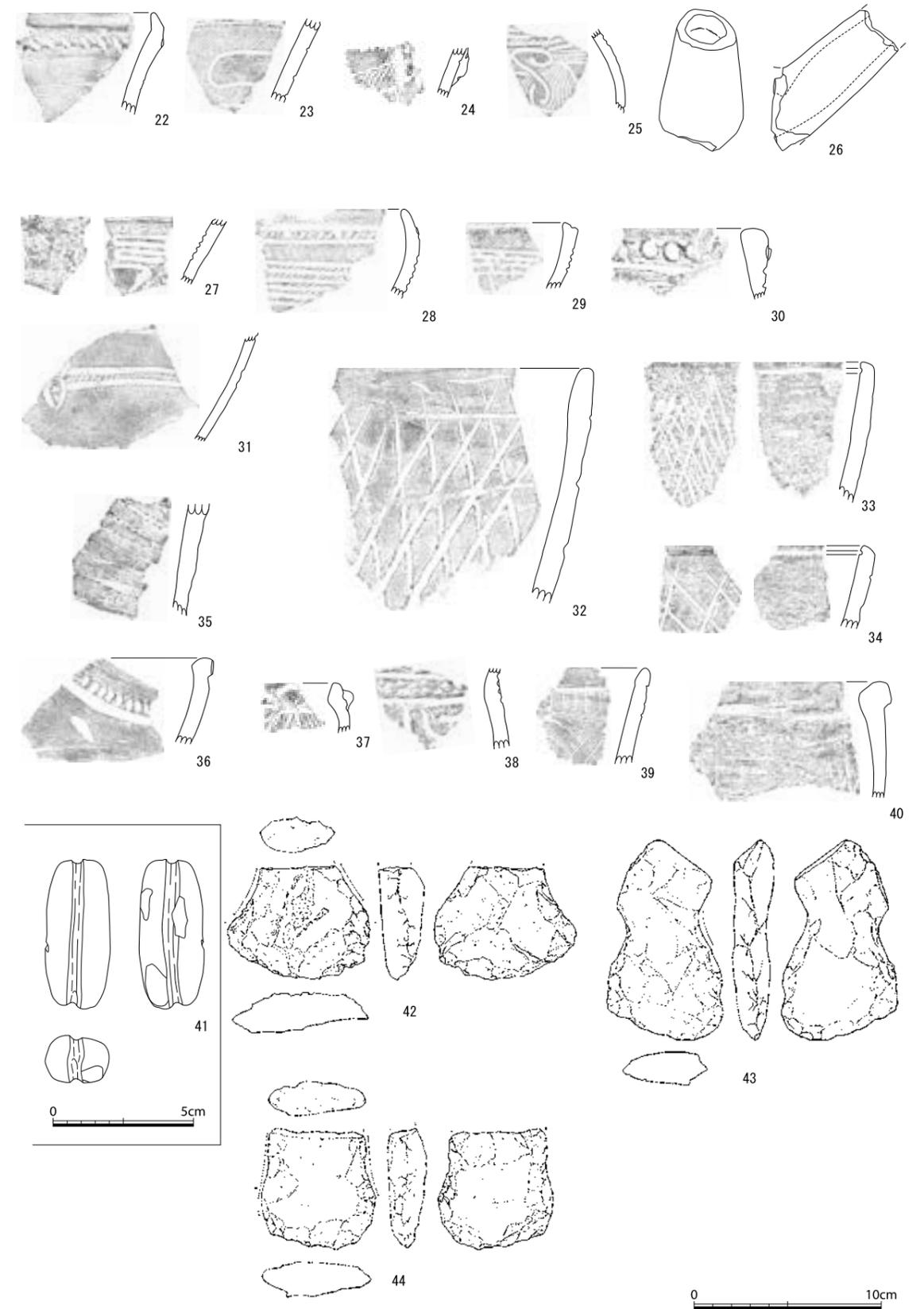
### （3）奈良時代～近世

古代の遺物 3 点、中世の遺物 2 点、近世の遺物 2 点を図示した。

45 は土師器坏で、底部に静止糸切痕が残る。47 は平瓦破片で、表面には布目が残る。48 は陶器土錘である。常滑産と推定されることから、中世のものとして推定される。49 は緑泥片岩の板碑片である。50 は寛永通宝、51 は銅板を折り曲げて円形に加工し、中央部に円形の穿孔を施している。



第38図 遺構外出土遺物 縄文時代1 (1/3)

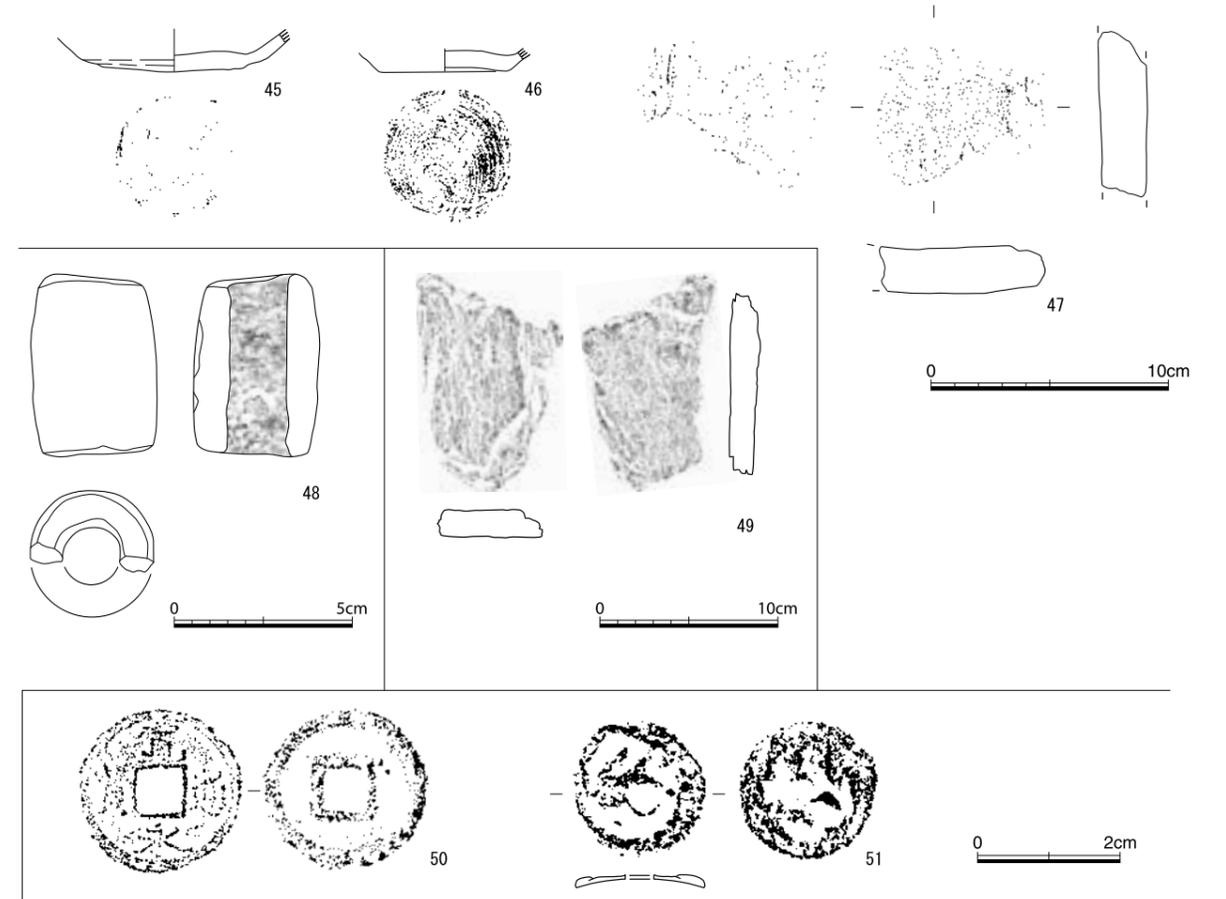


第39図 遺構外出土遺物 縄文時代2 (1/2・1/3)

遺物番号	器種	遺存部位	出土位置	特徴・調整	胎土	焼成	色調	時期・型式
1	深鉢	胴部破片	293H	サルボウ等による貝殻背圧痕文・貝殻腹縁押し文	砂粒少量／繊維多量	良好	外面：オリーブ黒色／内面：にぶい黄褐色	前期・花積下層式
2	深鉢	胴部破片	64M	組紐	細砂粒少量／繊維多量	良好	外面：明赤褐色／内面：にぶい褐色	前期・関山式
3	深鉢	胴部破片	65M	単節 LR を羽状施文	砂粒少量／繊維多量	良好	外面：褐色／内面：にぶい黄褐色	前期・関山式
4	深鉢	胴部破片	1033D	単節 LR か（器面が荒れているため不明瞭）	砂粒少量／小石少量／繊維多量	良好	外面：明褐色／内面：黒褐色	前期・関山式
5	深鉢	口縁部破片	(E-3)	半截竹管による平行沈線文	細砂粒多量／小石微量	良好	外面：黒褐色／内面：暗褐色	前期・諸磯b式
6	深鉢	胴部破片	293H	浮線文／単節 RL	細砂粒多量／白色針状物微量	良好	外面：にぶい黄褐色／内面：にぶい黄褐色	前期・諸磯b式
7	深鉢	頸部破片	31 P	偏平な浮線文／爪型文	砂粒多量／角閃石・輝石少量	良好	外面：にぶい黄褐色／内面：にぶい黄褐色	前期・諸磯b式
8	深鉢	頸部破片	987D	磨り消し縄文（単節 RL）	砂粒少量	良好	外面：にぶい黄褐色／内面：にぶい黄褐色	中期・加曾利 E IV 式
9	深鉢	胴部破片	1004D	磨り消し縄文（単節 RL）	砂粒多量	良好	外面：にぶい黄褐色／内面：にぶい黄褐色	中期・加曾利 E IV 式
10	深鉢	口縁部破片	1011D	突起／口唇部直下に沈線	砂粒多量／小石微量	良好	外面：にぶい黄褐色／内面：にぶい黄褐色	後期・堀之内 1 式
11	深鉢	胴部破片	1023D	集合沈線帯により胴部を縦位区画し文様施文／地文は単節 LR	細粗砂粒多量	良好	外面：褐色／内面：にぶい黄褐色	後期・堀之内 1 式
12	深鉢	胴部破片	53W	沈線による縦位区画／区画内に蛇行沈線による懸垂文等を施文	砂粒少量／褐色粒微量	やや不良	外面：にぶい黄褐色／内面：にぶい黄褐色	後期・堀之内 1 式
13	深鉢	胴部破片	294H	沈線による懸垂文／胴部外面丁寧なミガキ	粗砂粒多量／雲母少量	良好	外面：褐色／内面：にぶい褐色	後期・堀之内 1 式
14	深鉢	胴部破片	987D	単沈線による懸垂文	粗砂粒多量／小石微量	良好	外面：にぶい黄褐色／内面：明赤褐色	後期・堀之内 1 式
15	深鉢	胴部破片	1023D	集合沈線帯により胴部を縦位区画し「X」字状の文様を描出	砂粒少量／褐色粒多量	良好	外面：にぶい褐色／内面：褐色	後期・堀之内 1 式
16	深鉢	胴部破片	65M	櫛歯状工具による集合沈線を縦位施文	細砂粒少量	やや不良	外面：にぶい黄褐色／内面：にぶい黄褐色	後期・堀之内 1 式
17	深鉢	胴部破片	1004D	櫛歯状工具による懸垂文	細砂粒少量／褐色粒微量	やや不良	外面：灰黄褐色／内面：にぶい黄褐色	後期・堀之内 1 式
18	深鉢	胴部破片	1004D	連続する「く」の字状の沈線	砂粒多量／小石微量	良好	外面：明赤褐色／内面：明赤褐色	後期・堀之内 1 式
19	深鉢	口縁部破片	984D	突起部分／口唇部内面に沈線	砂粒多量／雲母微量	良好	外面：灰褐色／内面：黒褐色	後期・堀之内 2 式
20	深鉢	口縁部破片	1046D	口唇部内面に沈線／口縁部に圧痕をもつ粘土粗貼付／沈線による区画文内に単節 LR を充填	細砂粒多量／角閃石・輝石多量	良好	外面：灰黄褐色／内面：にぶい黄褐色	後期・堀之内 2 式
21	深鉢	口縁部破片	(C-5)	無節 L が充填施文された三角文	砂粒少量／小石微量	良好	外面：にぶい赤褐色／内面：にぶい赤褐色	後期・堀之内 2 式
22	深鉢	口縁部破片	1044D	口縁部に隆線貼付後斜位のキザミ／充填縄文施文（単節 LR）	砂粒少量／雲母微量	良好	外面：明赤褐色／内面：赤褐色	後期・堀之内 2 式
23	深鉢	胴部破片	293H	沈線による渦巻文内に単節 LR を充填施文	細砂粒多量／角閃石・輝石少量	良好	外面：黒褐色／内面：にぶい褐色	後期・堀之内 2 式
24	深鉢	胴部破片	1023D	貼付文／文様内に単節 RL を充填施文	砂粒多量	良好	外面：黒褐色／内面：黒褐色	後期・堀之内 2 式
25	注口	体部破片	1017D	頸部を沈線とその間に加えられたキザミにより区画／体部は集合沈線により文様を描出	砂粒多量	良好	外面：褐色／内面：褐色	後期・堀之内 2 式
26	注口	注口部	65M	注口端部は欠損	砂粒多量	良好	外面：黒褐色／内面：にぶい赤褐色	後期
27	浅鉢	体部破片	67M	内面施文／小孔を穿孔	細砂粒多量／白色針状物少量	良好	外面：赤褐色／内面：褐色	後期
28	鉢	口縁部破片	1044D	斜位のキザミ／多段の横線文内に単節 LR を充填	砂粒多量／雲母微量	良好	外面：にぶい黄褐色／内面：褐色	後期・加曾利 B 1 式
29	鉢	口縁部破片	64M	多段の横線文内に単節 LR を充填／横線の端部に縦位の短沈線を加え単位文とする	細砂粒少量	良好	外面：黒褐色／内面：黒褐色	後期・加曾利 B 1 式
30	深鉢	口縁部破片	294H	口唇部肥厚／紐線文	砂粒多量／角閃石・輝石少量	良好	外面：にぶい黄褐色／内面：にぶい黄褐色	後期・加曾利 B 1 式
31	鉢	体部破片	(C-5)	横帯文（単節 LR を磨り消し）／対弧文	細砂粒少量／褐色粒微量	良好	外面：黒褐色／内面：黒褐色	後期・加曾利 B 2 式
32	深鉢	胴部破片	789D	断面 V 字状の単沈線による斜格子文／口縁部に横位の沈線	砂粒多量	良好	外面：明赤褐色／内面：明褐色	後期・加曾利 B 2 式
33	深鉢	口縁部破片	64M	半截竹管を用いた平行沈線による斜格子文／口唇部内面に沈線	砂粒多量	良好	外面：明赤褐色／内面：明赤褐色	後期・加曾利 B 2 式
34	深鉢	口縁部破片	64M	単沈線による斜格子文／口唇部内面に沈線	砂粒少量／褐色粒少量	良好	外面：にぶい赤褐色／内面：黒褐色	後期・加曾利 B 2 式
35	深鉢	胴部破片	293H	斜位の強い指ナデ	砂粒多量	良好	外面：にぶい褐色／内面：にぶい黄褐色	後期前葉
36	深鉢	口縁部破片	293H	波状口縁／口唇部直下にキザミ／内外面とも丁寧なミガキ	細砂粒多量	良好	外面：灰褐色／内面：褐色	加曾利 B3 式
37	鉢	口縁部破片	293H	貼付／沈線に沿ってキザミ／単節 LR	細砂粒多量／角閃石・輝石微量	良好	外面：黒褐色／内面：黒褐色	後期・加曾利 B 3 ～ 曾谷式
38	深鉢	胴部破片	293H	頸部を 2 本の沈線により区画しその内側に列点文を施文	砂粒少量／小石微量	良好	外面：黒褐色／内面：にぶい黄褐色	晩期・安行 3 c 式
39	深鉢	口縁部破片	1022D	2 本 1 組の単沈線により文様描出後口縁部文様帯上端に縦位の短沈線を充填	砂粒少量／小石微量	良好	外面：褐色／内面：褐色	晩期か
40	深鉢	口縁部破片	293H	口唇部肥厚／縦位の沈線／粗製土器か	粗砂粒多量	良好	外面：にぶい褐色／内面：にぶい黄褐色	晩期

遺物番号	種別	材質	出土位置	最大長	最大幅	最大厚	重量	特徴
41	土錘	土製品	1011D	5.22	2.24	1.65	21.2	胎土に角閃石・輝石を含む。溝は縦位に巡る。
42	打製石斧	砂岩	995D	[7.7]	[6.1]	2.2	[118.4]	基部・側縁部欠損／刃部に敲打痕
43	打製石斧	ホルンフェルス	56W	[10.6]	[6.2]	1.8	[156.2]	刃部に敲打痕
44	打製石斧	砂岩	995D	[5.8]	[6.1]	1.9	[110.0]	基部・側縁部欠損／刃部に敲打痕

第17表 遺構外出土遺物一覧（縄文時代）



第40図 遺構外出土遺物 奈良時代～近世（1/2・1/3・1/4）

遺物番号	器種	遺存部位	出土位置	特徴・調整	胎土	色調	産地
45	土師器環	底部破片	(D-4)	底部静止糸切	細砂粒微量	内外面：暗赤褐色	不明
46	須恵器環	底部破片	(D-4)	底部回転糸切	細砂粒微量	内外面：灰褐色	東金子
47	平瓦	端部破片	表採	外面布目	細砂粒微量	内外面：青灰色	不明

第18表 遺構外出土遺物一覧（奈良・平安時代）

遺物番号	種別	器種	遺存部位	出土位置	特徴	推定産地	時期
48	陶器	土錘	半分残存	(E-3)	外面自然釉／内面布目	常滑？	中世？

遺物番号	種別	石材	出土位置	最大長	最大幅	最大厚	重量	特徴・調整
49	板碑	緑泥片岩	294H	10.46	7.01	1.76	183.1	武蔵型板碑片。

遺物番号	種別	材質	出土位置	外径	孔径	最大厚	重量	備考
50	銭貨	銅	(D-7)	2.4	0.6	0.1	2.6	新寛永
51	不明	銅	78P	2.4	0.4	0.1	2.6	中央部の孔は鋳造後に穿たれる。

第19表 遺構外出土遺物一覧（中世以降）

## 第4章 調査のまとめ

今回の調査では、縄文時代から古墳時代後期、古代、中世から近世に至るまでの遺構・遺物が検出された。これまでの調査に加えて城山遺跡に新たなる資料を加えることとなった。以下に時代を追って各時期の調査成果についてまとめておきたい。

### 第1節 縄文時代

本調査地では、7基の土坑、20本のピットが確認され、遺物は土器・石器など2,500点が出土した。遺構の分布は、北側の2区全域と1区北側、調査区内の北側に集中する傾向がうかがえる。遺物の分布も同様に北側に偏り、その大半は古代・中世以降の遺構からの出土であった。時期別には後期の遺物が最も多く、次いで中期となる。その他に早期・前期・晩期の遺物がわずかに認められた。出土した土器は、早期・条痕文系、前期・花積下層式・関山式・諸磯式、中期・勝坂式・加曾利E式・連弧文系、後期・堀之内式・加曾利B式、晩期・安行式など、早期から晩期まで幅広く出土している。

遺物を伴う遺構は少ないが、調査区北西部で検出された1048号土坑からは中期・加曾利EⅣ式の深鉢胴上半部が1個体出土しており、中期後葉の遺構と判断される(第7・8図)。また、打製石斧や黒曜石・チャートの剥片なども出土しており、周辺での中期・後期を中心とした活動痕跡が認められる。

後期の遺構は検出されていないが、北東側が谷地形であると推定されることから、台地縁辺から北東の低地にかけて、縄文時代後期から晩期の集落が展開していた可能性がある。今回、わずかな点数であるが晩期の土器が確認されている点は、城山遺跡を取り巻く低地部分の遺跡のあり方も含めて、その展開が留意されよう。

### 第2節 古墳時代後期～奈良・平安時代

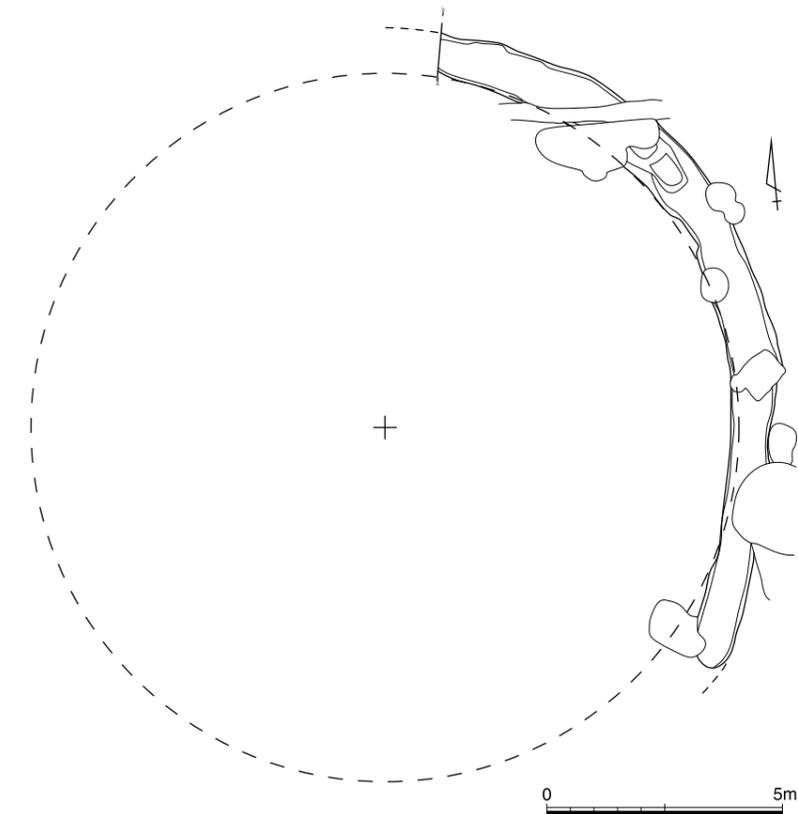
本調査地では、竪穴住居跡2軒・掘立柱建築遺構1棟・溝跡1条・土坑1基が検出され、遺物は506点出土している。

2軒の竪穴住居跡は、いずれもほぼ全容を把握することができた。293号住居跡は遺物をほとんど伴わないが、少ない出土遺物から9世紀中葉から後葉、平安時代の住居跡と判断される。294号住居跡は調査区北東部で検出された東カマドを持つ住居跡で、出土遺物から9世紀代後葉と推定される。

その他に、1004号土坑からは1点の土器器甕形土器がほぼ完形で出土している(第20図)。複合口縁で時期は6世紀中頃と推定される(尾形 2001)。

近隣では南西に隣接する第1地点で古墳時代後期の住居跡が53軒調査され、西隣の第79地点でも7世紀中葉の住居跡が調査されている。

今回検出された64号溝跡は、調査区南西側に位置し、幅約1.2mほどで半円状にめぐり、その北東部分が調査されたと推定される。



第41図 64号溝推定復元図(1/150)

西側に隣接する第79地点では検出されておらず、南側は道路によって削平されており、溝は今回の調査区内で確認されただけである。しかし、検出された形状は平面形は円形で、底面も平坦であることから円墳の周溝のようにも観察される。出土遺物は古墳時代後期から奈良・平安時代が主体となり、なおかつ中世以降の土坑群に切られていることから、溝跡は古墳時代、あるいは古代のものである可能性が高い。検出された溝から内径を推定すると約15mを測り(第41図)、円墳ならば小型であり、群集墳の可能性などもある。仮に円墳であった場合、南側の調査区内、あるいは第79地点内に中心部があるものと想定されるが、主体部の痕跡などは確認されていない。

南側約100mに位置する第62地点(尾形・大久保・深井・青木 2014)では、円形周溝墓が1基確認されており、周溝幅約55cm、直径6.5m前後と推定され、西側の一部が調査されている。

調査地点周辺は中世の「柏の城」築城時に、堀の掘削や土塁の築造など、大規模な土地改変が行われているものと想定される。その時、あるいは後世の耕作などによって、墳丘も含めて周溝自体も削平された可能性などがある。今回調査された内径約15mを測る半円状の溝跡は、これまで検出されてきた「柏の城」関連の堀や、その区画とも形態や規模が異なり、中世以降のものである可能性も残されるが、古墳の周溝であることも視野に入れておきたい。

志木市内の古墳について概観すると、柳瀬川下流に位置する田子山遺跡では、平成5(1993)年に調査された田子山遺跡第24地点から、6世紀後半以降のものと考えられる4.1×4.7mの不整形で二箇所にブリッジを持つ小型の円形周溝墓が1基確認されており、平成14(2002)年に調査された田子山遺跡第81地点(尾形・深井・青木 2004)において御嶽神社を取り囲むように、外周で推定約33mの巨大な溝跡が確認されつつあり、古墳の周溝部分ではないかと考えられている。

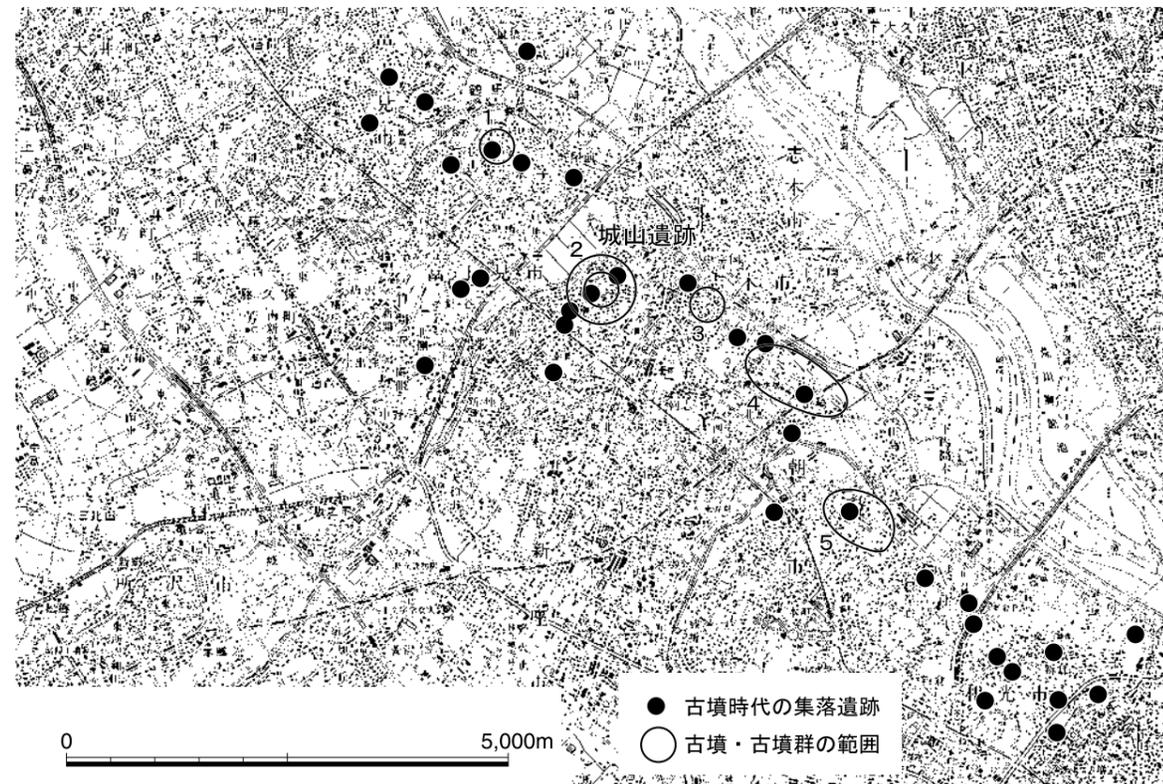
さらに範囲を広げて柳瀬川流域の古墳の分布について概観すると、上流の所沢市では山下後遺跡（並木 1989）で2基の円墳が調査され、その他にも海谷古墳群（平田 2000）、膳棚東古墳群（上野 1999）、村中1号古墳（昼間 2000）などが知られている。上流域の富士見市では、柳瀬川の支流である富士見江川沿いの氷川前遺跡（第42図・1、以下括弧内の番号は第42図、第20表と対応）で円墳の周溝が調査されている（堀 2001）。

市内に入ると城山遺跡（本遺跡・2）、田子山遺跡（3）が所在し、さらに下流域の朝霞市内では、内間木古墳群（4）、黒目川流域の根岸古墳群（5）などが調査されている。

これらの古墳は河川を望む台地上に築造されており、その周辺には多くの集落が見つかっている。城山遺跡もそうした立地と一致することからも、周辺に古墳の存在する可能性は高いといえよう。

朝霞市の根岸古墳群では、埼玉県南部で唯一遺存する前方後円墳である柵塚古墳が調査されている。柵塚古墳は現在は消滅してしまった一夜塚古墳とともに、根岸古墳群の盟主墳と想定されており、根岸古墳群の築造された時期は4～6世紀とされている。その後、周辺の集落の変遷とともに、内間木古墳群が6世紀中葉～7世紀にかけて形成されたものと考えられている（照林 2005）。

志木市内では古墳時代中期から後期の集落遺跡が数多く調査されており、近年では古墳の周溝の存在も確認されつつあり、今後は広い視点での集落と墓域の関係性を検討する必要があるだろう。



第42図 柳瀬川流域の古墳分布 (1/80,000)

番号	遺跡名	所在地	古墳	文献	備考
1	氷川前遺跡	富士見市大字水子	円墳周溝	高橋・小出 1984, 1988、堀 2001	
2	城山遺跡	志木市柏町3丁目	円墳周溝?	本書	第62地点で円形周溝溝1基。
3	田子山遺跡	志木市本町2丁目	円墳周溝	尾形・深井・青木 2004	
4	内間木古墳群 (八塚遺跡、入部・峽遺跡)	朝霞市宮戸1丁目・浜崎4丁目	八塚古墳・峽山古墳	照林 2005	
5	根岸古墳群 (向山遺跡、宮台・宮原遺跡、宮台遺跡)	朝霞市岡3丁目・根岸台2丁目	前方後円墳 (柵塚古墳)・一夜塚古墳	照林 2005	

第20表 柳瀬川流域の古墳一覧

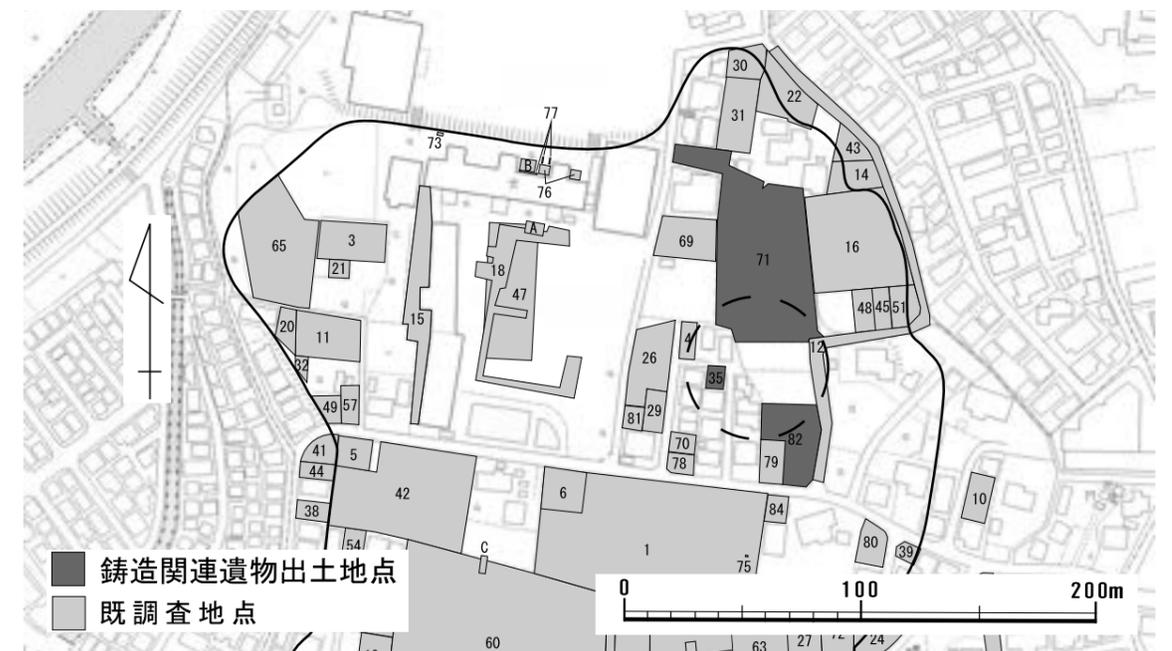
### 第3節 中世以降

中世以降の遺構として、掘立柱建築遺構1棟、井戸跡7基、溝跡1条、土坑68基、ピット54本を調査した。検出された遺構では中世以降が遺構数が最も多く主体となる。しかし、出土遺物が少なく、時期の比定が困難な遺構が多い。出土遺物は中世の陶器4点、石製品板碑破片13点、五輪塔の水輪部分1点、近世の陶磁器248点、鋳造関連遺物を含む鉄製品64点、銭貨3点、銅製品1点である。

検出された遺構では、掘立柱建築遺構は2間×2間、一辺4.5mの正方形の側柱建物で、覆土の色調から中世以降のものと推定されるが、切り合いからは近世のものと判断される。井戸跡は7基検出され、52号井戸跡からは五輪塔の水輪部分、56号井戸跡からは鋳造関連遺物と推定される鉄製品、鋳型と推定される土製品、炉壁の一部と推定される鉄滓などが確認されている。65号溝跡は調査区中央部を東西に蛇行する溝跡であり、中世以降の何らかの区画であると推定されるがその性格は不明である。

土坑は68基検出され、調査区内で検出された遺構の主体となる。方形や円形のものなど多種多様である。987号土坑は地下式で入口竪坑部から単一の主体部を持ち、中世のものと想定される。

前述の56号井戸跡は17世紀後葉の陶磁器を伴い、鋳造関連遺物の廃棄も同時期と考えられるため、17世紀後半以前に周辺で鋳造関連施設が稼働していたことを示している。これまでの調査でも、北西に位置する第35地点（尾形・深井 1999）では溶解炉・鋳造土坑などが調査されており、北側に位置する第71地点でも、主に南西部を中心に同様の鉄滓などの遺物の出土が報告されている（第43図）。今回の調査でも、鉄滓の出土は北部の56号井戸跡を中心に北側に集中している。このことから、「柏の城」の東側に展開する二之丸、あるいは三之丸に推定される調査区周辺で中世から近世初頭に、鋳造活動が行われていたものと推定され、「柏の城」の内部構成を考える上で非常に興味深い成果が得られたといえよう。



第43図 城山遺跡の鋳造関連遺物出土地点 (1/3,000)

[引用・参考文献]

- 上野真由美 1999『膳棚東遺跡 都市計画道路飯能所沢線関係埋蔵文化財発掘調査報告』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告第215集 財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- 尾形則敏・深井恵子 1999『志木市遺跡群9』志木市の文化財第27集 埼玉県志木市教育委員会
- 尾形則敏・深井恵子 2001『埋蔵文化財調査報告2』志木市の文化財第31集 埼玉県志木市教育委員会
- 尾形則敏・深井恵子・青木 修 2004『志木市遺跡群14』志木市の文化財第36集 埼玉県志木市教育委員会
- 尾形則敏・深井恵子・青木 修 2005『城山遺跡第42地点』志木市遺跡調査会調査報告第10集 埼玉県志木市教育委員会
- 尾形則敏・深井恵子・青木 修 2008『城山遺跡第61地点』志木市遺跡調査会調査報告第16集 埼玉県志木市教育委員会
- 尾形則敏・大久保聡他 2013『城山遺跡第71地点』志木市の文化財第54集 埼玉県志木市教育委員会
- 尾形則敏・大久保聡他 2014『志木市遺跡群21』志木市の文化財第58集 埼玉県志木市教育委員会
- 尾形則敏 2001「志木市における古墳時代の土師器の編年(2) - 5世紀から7世紀の甑・甕形土器の変遷-」『あらかわ』第4号 あらかわ考古談話会
- 2002「武蔵野台地北西部における古墳時代の地域性—集落を中心とする5世紀から7世紀の土器様相—」『あらかわ』第5号 あらかわ考古談話会
- 2005「荒川下流右岸地域における古墳時代中・後期の様相(2)」『あらかわ』第8号 あらかわ考古談話会
- 2006「七世紀における「在地系土師器」の出現と歴史的意義—武蔵野台地北西部の無彩系・黒色系土師器の一事例—」『埼玉の考古学Ⅱ』埼玉考古学会設立50周年記念論文集
- 2007「古墳時代後期の土師器研究の再認識—(仮称)「入間系土師器」の実態と生産地推定を例として—」『埼玉考古』第43号 埼玉考古学会
- 埼玉県 1982『新編埼玉県史 資料編2 原始・古代 弥生・古墳』
- 埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1982「縄文中期土器群の再編」『研究紀要1982』
- 佐々木保俊・尾形則敏 1998『城山遺跡発掘調査報告書』志木市遺跡調査会調査報告第4集 埼玉県志木市遺跡調査会
- 塩野 博 2004『埼玉の古墳 北足立・入間』さきたま出版会
- 志木市史編さん室 1986『志木市史』中世資料編
- 志木市史編さん室 1990『志木市史』通史編上
- 高崎直成 2007「埼玉県内における近世以降の地下室について」『あらかわ』第10号 あらかわ考古談話会
- 高橋 敦・小出輝男 1981『富士見市遺跡群Ⅱ』富士見市文化財報告第30集 富士見市教育委員会
- 高橋 敦・小出輝男 1984『富士見市遺跡群Ⅵ』富士見市文化財報告第38集 富士見市教育委員会
- 照林敏郎 2005「朝霞市の古墳時代遺跡について」『あらかわ』第8号 あらかわ考古談話会
- 永井久美男 2002『中世出土銭の分類図版』高志書院
- 中島岐視生・根本 靖 1998「海谷遺跡(第1次~4次)」『第二椿峰遺跡群発掘調査概報』所沢市教育委員会
- 並木 隆 1989『山下後遺跡(第1・2・4次)』所沢市文化財調査報告書第23集 所沢市教育委員会
- 平田一乗 2000『海谷遺跡 第10次調査・遺構編』所沢市埋蔵文化財調査報告第22集 所沢市教育委員会
- 昼間孝志 2000『村中遺跡 都市計画道路飯能所沢線関係埋蔵文化財発掘調査報告』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告第261集 財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- 藤澤良祐 2008『中世瀬戸窯の研究』高志書院
- 堀 善之 2001『富士見市内遺跡Ⅸ』富士見市文化財報告第53集 富士見市教育委員会
- 渡辺 一他 1990『鳩山窯跡群Ⅱ』鳩山窯跡群発掘調査報告書第2冊 鳩山窯跡群遺跡調査会 鳩山町教育委員会

図 版



1.1区全景



2.2区全景



1. 1021 号土坑



2. 1022 号土坑



3. 1044 号土坑



4. 1045 号土坑



5. 1046 号土坑



6. 1047 号土坑



7. 1048 号土坑



8. 1048 号土坑 遺物出土状态



1. 293 号住居跡



2. 293 号住居跡 P 1



3. 294 号住居跡



4. 294 号住居跡 竈



5. 294 号住居跡 P 1



6. 294 号住居跡 遺物出土状态



7. 10 号掘立柱建築遺構



8. 10 号掘立柱建築遺構 P 8



1. 10号掘立柱建筑遺構 P 9



2. 10号掘立柱建筑遺構 P 10



3. 64号溝跡 1



4. 64号溝跡 2



5. 64号溝跡 土層断面



6. 1004号土坑



7. 1004号土坑 遺物出土狀態 1



8. 1004号土坑 遺物出土狀態 2



1. 11号掘立柱建筑遺構



2. 50号井戸跡



3. 51号井戸跡



4. 52号井戸跡



5. 52号井戸跡 遺物出土狀態



6. 53号井戸跡



7. 54号井戸跡



8. 55号井戸跡



1. 56号井戸跡



2. 65号溝跡



3. 980号土坑



4. 984号土坑



5. 981号土坑



6. 982号土坑



7. 992号土坑



8. 993号土坑



1. 995号土坑



2. 1000号土坑



3. 1002号土坑



4. 1006号土坑



5. 1007号土坑



6. 1008号土坑



7. 1013号土坑



8. 1016号土坑



1. 1019 号土坑



2. 1020 号土坑



3. 1025 号土坑



4. 1027 号土坑



5. 1030·1031 号土坑



6. 1034 号土坑



7. 1038 号土坑



8. 997 号土坑



1. 1009 号土坑



2. 1023 号土坑



3. 1028 号土坑



4. 1029 号土坑



5. 1032 号土坑



6. 1033 号土坑



7. 1035 号土坑



8. 1037 号土坑



1. 1039 号土坑



2. 1042 号土坑



3. 974 号土坑



4. 975 号土坑



5. 976 号土坑



6. 977 号土坑



7. 978 号土坑



8. 979 号土坑



1. 983 号土坑



2. 985 号土坑



3. 988 号土坑



4. 989 号土坑



5. 990 号土坑



6. 991 号土坑



7. 996 号土坑



8. 998 号土坑



1. 999 号土坑



2. 1001 号土坑



3. 1003 号土坑



4. 1010 号土坑



5. 1011 号土坑



6. 1014 号土坑



7. 1015 号土坑



8. 1017 号土坑



1. 1024 号土坑



2. 1026 号土坑



3. 1036 号土坑



4. 1040 号土坑



5. 1041 号土坑



6. 994 号土坑



7. 1005 号土坑



8. 1012 号土坑



1. 1018号土坑



2. 1043号土坑



3. 987号土坑1



4. 987号土坑2



5. 987号土坑 入口部



6. 987号土坑 壁面



7. 旧石器试掘坑



8. 作业风景



1. 1048号土坑出土遗物



2. 293号住居迹出土遗物



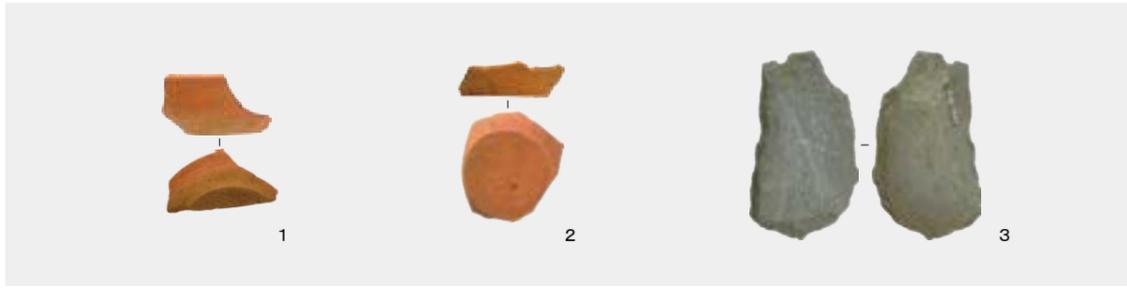
3. 294号住居迹出土遗物



4. 64号沟迹出土遗物



5. 1004号土坑出土遗物



1. 50号井戸跡出土遺物



2. 52号井戸跡出土遺物



3. 1032号土坑出土遺物



4. 1024号土坑出土遺物



1. 56号井戸跡出土遺物



1. 遺構外出土遺物（縄文時代1）



1. 遺構外出土遺物（縄文時代2）



1. 遺構外出土遺物（奈良時代～近世）

報告書抄録

ふりがな	しろやまいせきだい82ちてん まいぞうぶんかざいはつくつちょうさほうこくしょ							
書名	城山遺跡第82地点 埋蔵文化財発掘調査報告書							
副書名								
シリーズ名	志木市の文化財	巻次	第60集					
編著者	尾形則敏 大久保聡 宮下孝優							
編集機関	埼玉県志木市教育委員会							
所在地	〒353-0002 埼玉県志木市中宗岡1丁目1番1号 TEL 048 (473) 1111							
発行年月日	2014年12月19日							
所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 (°'")	東経 (°'")	発掘期間	発掘面積	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
城山遺跡 (第82地点)	しきしかしわちよう 志木市柏町 3丁目2617-1	11228	3	35° 50° 07"	139° 34' 03"	20140120 ～ 20140516	685.66 m <sup>2</sup>	分譲住宅 建設に伴 う調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
しろやまいせき 城山遺跡 (第82地点)	集落	縄文時代  古墳時代後期～奈良・ 平安時代  中世以降	土坑7基・ピット 20本  住居跡2軒・掘立柱 建築遺構1棟・溝跡 1条・土坑1基  掘立柱建築遺構1 棟・井戸跡7基・溝 跡1条・土坑68基・ ピット54本	剥片・打製石斧  縄文土器  土師器・須恵器  磁器・陶器・鉄製品・ 銭貨	古墳時代から古代 と推定されるの幅約 1.2m、内径約15mの 半円形の溝が検出さ れている。  中世から近世では 56号井戸跡から鑄造 関連作業に伴う炉壁 や鉄製品などが出土 している。			
要約	<p>城山遺跡は志木市柏町3丁目を中心とした中世の「柏の城」で知られる遺跡である。旧石器時代から縄文時代、弥生時代後期から古墳時代前期、古墳時代後期から奈良・平安時代、中世から近世に至る複合遺跡として知られている。</p> <p>今回の調査地点は城山遺跡の北東部に位置している。検出された遺構は縄文時代、古墳時代後期から奈良・平安時代、中世から近世と、幅広い時期の遺構・遺物が確認されている。</p> <p>縄文時代では中期加曽利E式期の土坑などが調査され、後期の遺物が主体となって出土しており、わずかではあるが晩期の遺物も検出されている。</p> <p>古墳時代後期の土坑や、内径約15mの半円形の溝が検出されており、溝跡は古墳の周溝の可能性もある。その他、平安時代の住居跡2軒、掘立柱建築遺構1棟、中世以降では井戸跡7基、溝跡1条、掘立柱建築遺構1棟、土坑68基などが調査され、井戸跡からは中世から近世初頭にかけての鑄造関連作業に伴う炉壁や鉄製品が出土しており、「柏の城」の内部構成を考える上で興味深い成果が得られた。</p>							

志木市の文化財 第 60 集

## 城山遺跡第 82 地点

埋蔵文化財発掘調査報告書

発 行 埼玉県志木市教育委員会  
埼玉県志木市中宗岡 1 丁目 1 番 1 号

発行日 平成 26 (2014) 年 12 月 19 日

印 刷 株式会社 東プリ